

CA Spectrum®

管理者ガイド

リリース 9.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA Spectrum® (CA Spectrum)
- CA Spectrum® NCM (Network Configuration Manager)
- CA Spectrum® Service Performance Manager (SPM)
- CA Spectrum® Service Manager (Service Manager)
- CA Event Manager
- CA Service Desk
- CA Unicenter® Network and Systems Management (Unicenter NSM)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA SiteMinder®
- CA NetQoS® Performance Center (CA Performance Center)

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: CA Spectrum コントロール パネル	11
CA Spectrum コントロール パネルの概要	12
CA Spectrum コントロール パネルにアクセスします。	13
[ファイル] メニュー	13
[コントロール] メニュー	14
[設定] メニュー	15
[SpectroSERVER 設定] ダイアログ ボックス	16
[ロケーション サーバ設定] ダイアログ ボックス	19
[ホスト セキュリティ] ダイアログ ボックス	20
Model Type Editor	21
SpectroSERVER のステータス	21
データベースのリストア	22
レガシー データベースに初期化	22
ホスト セキュリティの設定	23
 第 2 章: SPECTRUM OneClick Web サーバ管理	 25
コマンドラインからの OneClick Web サーバの起動と停止	25
管理ページからの OneClick Web サーバの起動と停止	26
Windows コントロール パネルからの OneClick Web サーバの起動と停止	27
100 ユーザ以上をサポートするよう OneClick サーバを設定	28
コンテキストからの OneClick クライアントの起動	29
OneClick クライアントのメモリ設定	31
OneClick Web サーバのメモリ設定	32
OneClick Web サーバの URL の設定	33
OneClick MySQL サーバ パスワードの設定	34
 第 3 章: OneClick サーバの通信およびネットワーク設定	 37
名前解決の要件	37
SSL に対する OneClick の設定	37
認証局署名証明書のインポート	40
OneClick Web サーバ ホストでのセキュア ソケットの設定	41
SSL 用の OneClick および Report Manager の設定	44
セキュア ソケット レイヤ設定のトラブルシューティング	44

SSL を使用してレポート マネージャから OneClick クライアントを起動する際のエラー	45
Web プロキシ サーバを通じて通信するよう OneClick を設定	45
プロキシの問題のトラブルシューティング	46
OneClick クライアントの低パフォーマンスのトラブルシューティング	47
ファイアウォール環境	48
負荷分散	49
OneClick Web サーバ ステータスの確認	49
負荷分散環境で実際のクライアント IP アドレスをログ記録する方法	50

第 4 章: OneClick 管理 Web ページ 51

OneClick 管理ページへのアクセス	51
OneClick 管理ページについて	52
[CAC 設定] ページ	53
[Ciscoverks 設定] ページ	54
[eHealth 設定] ページ	54
[電子メール設定] ページ	54
EvFormat/PCause の構成の再リロード	54
[ランドスケープ] ページ	55
[LDAP 設定] ページ	55
[MySQL パスワード] ページ	56
[NSM 設定] ページ	58
[OneClick クライアント設定] ページ	58
非アクティブ OneClick クライアント タイムアウトの有効化	60
Performance Center 統合設定ページ	61
[Service Desk 設定] ページ	61
[シングル サインオン設定] ページ	62
CA Spectrum 設定ページ	62
[SPM データ エクスポート] ページ	63
[SPM テンプレートの名前付け] ページ	63
[SSL 証明書] ページ	64
ウォッチ レポート	64
[Web サーバ ログ設定] ページ	64
[Web サーバのメモリ] ページ	65

第 5 章: OneClick でのユーザ管理 67

OneClick ユーザの管理について	67
ユーザ アカウントの作成および管理のベスト プラクティス	68
ユーザ管理の実行者	69

ライセンスと権限.....	70
OneClick のユーザ管理インターフェース	70
[ユーザ] タブ.....	71
[ユーザ リスト] タブ	71
[アクセス] タブ	73
権限の表示および変更.....	74
権限のカスタマイズの影響.....	75
ユーザの役割によって付与された権限の削除の影響.....	75
ユーザ グループ内のユーザの管理	76
ユーザ グループ内のユーザの継承の詳細	76
継承された属性を指定します。	77
ユーザ アカウントおよびユーザ グループの作成	77
役割と権限の作成、編集、および割り当てについて	80
役割の作成とユーザまたはユーザ グループへの割り当て	83
スーパーユーザの作成.....	85
ユーザまたはユーザ グループに表示される詳細の変更	87
ユーザまたはグループに割り当てられたライセンスの変更	87
ユーザのランドスケープの変更.....	89
ユーザまたはユーザ グループの個々の権限の変更	90
役割使用状況の特定と確認.....	90
役割の割り当て解除.....	91
未使用のユーザ役割の削除.....	92
ユーザ グループへの既存ユーザの移動	92
ユーザ グループからのユーザの削除	92
ユーザまたはユーザ グループの削除	93
モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティ コミュニティの使用 について.....	94
モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティ コミュニティの 使用	95
[クライアント詳細] ページからのユーザの管理	98
同時ユーザ ログイン制限による OneClick ライセンスの管理	99

第 6 章: 追加の OneClick アプリケーションの設定 101

OneClick でのサービス パフォーマンス マネージャ (SPM) のデータ エクスポート パラメータの設 定.....	101
[トポロジ] タブのコンテンツの Web ページでの表示.....	102

第 7 章: OneClick のモデル セキュリティ 105

OneClick でモデルの安全を確保する方法	105
-------------------------------	-----

セキュリティ文字列を使用したモデルリング エLEMENT の保護	106
セキュリティ文字列継承をカスタマイズする方法	108
セキュリティ文字列ロール ダウンの関係	108
モデル タイプに対する、セキュリティ文字列ロール ダウンのオーバーライドの定義	109
モデル セキュリティ シナリオ	111

第 8 章: ユーザとグループの基本設定 117

[基本設定] ダイアログ ボックス	117
[基本設定] ダイアログ ボックスへのアクセス	118
基本設定の設定またはロックについて	119
ユーザ基本設定の設定またはロック	120
アラーム フィルタの基本設定	121
基本設定のリセット	122
インポートとエクスポートの基本設定	122

第 9 章: 検索の管理 125

検索について	125
[検索の作成] ダイアログ ボックス	126
簡易検索の作成	131
詳細検索の作成	132
カスタム検索への既存検索の追加	134
検索に関する推奨事項	136
検索の編集	138
カスタム検索の削除	138
カスタム検索の編成	139
検索例: クリティカル状態のデバイスの検索	140

付録 A: OneClick Web サーバの問題のトラブルシューティング 143

非 LDAP ユーザがログインできない	143
フォールト トレラント環境での OneClick のトラブルシューティング	144
OneClick Web サーバのシャット ダウン	144
getSpectrumInfo スクリプトの使用	145

付録 B: システムのカスタマイズ 147

context.xml のカスタマイズ パラメータ	147
web.xml のカスタマイズ パラメータ	148

第 1 章: CA Spectrum コントロール パネル

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Spectrum コントロール パネルの概要](#) (P. 12)

[CA Spectrum コントロール パネルにアクセスします。](#) (P. 13)

[\[ファイル\] メニュー](#) (P. 13)

[\[コントロール\] メニュー](#) (P. 14)

[\[設定\] メニュー](#) (P. 15)

[SpectroSERVER のステータス](#) (P. 21)

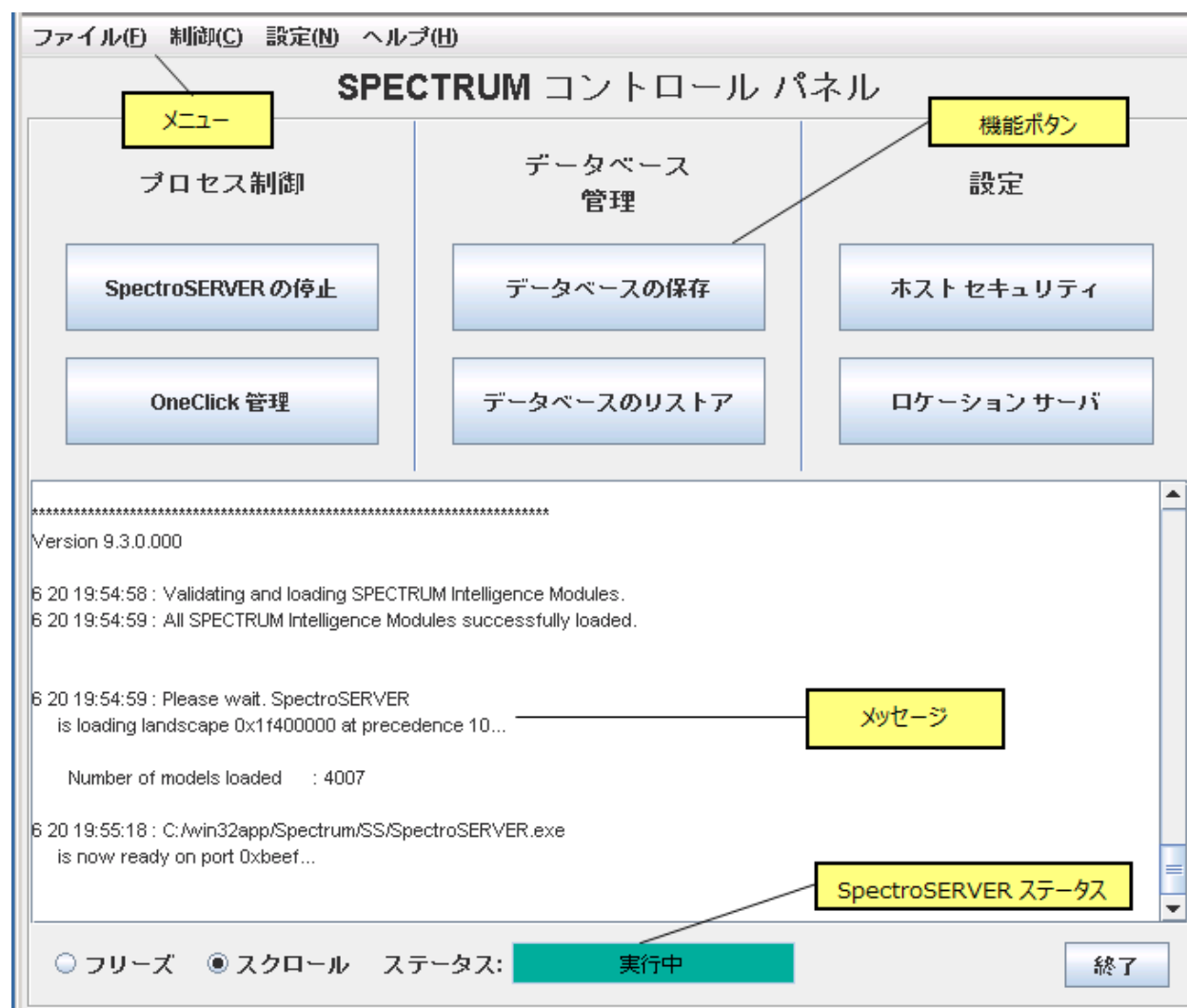
[データベースのリストア](#) (P. 22)

[レガシー データベースに初期化](#) (P. 22)

[ホストセキュリティの設定](#) (P. 23)

CA Spectrum コントロール パネルの概要

CA Spectrum コントロールパネルでは、リソースの設定、SpectroSERVER の開始と停止、データベース管理、CA Spectrum インストールのメンテナンスを実行できます。このコントロールパネルは、メニュー、ファンクションボタン、メッセージおよびステータスバーを提供します。



CA Spectrum コントロール パネルにアクセスします。

SpectroSERVER ホスト上で CA Spectrum コントロール パネルにアクセスするには、以下の手順に実行します。

- **Windows の場合**：[スタート]、[すべてのプログラム]、[CA]、[CA Spectrum コントロール パネル] の順にクリックします。
- **Solaris の場合**：[CA Spectrum] メニューの項目リストから [コントロール パネル] を選択します。
- **Linux の場合**：`$SPECROOT/bin/`にある `SCP` コマンドを実行します。

[CA Spectrum コントロール パネル] を使ってアプリケーションを起動するには、インストール ユーザ、またはインストール ユーザ グループのユーザとしてログインする必要があります。

[ファイル]メニュー

[ファイル] メニューは、次の機能を提供します。

ホスト マシンの選択

管理対象の SpectroSERVER を選択します。

データベースの保存

オンライン バックアップの作成、または SpectroSERVER データベースの完全な保存を実行します。

オンライン バックアップ

SpectroSERVER 実行中に [データベースの保存] を選択すると、CA Spectrum オンライン バックアップを開始します。

保存

SpectroSERVER が実行されていない場合に [データベースの保存] を選択すると、(-c と -m スイッチを指定して) `SSdbsave` を使用し、SpectroSERVER データベースの完全な保存を開始します。

注: 詳細については、「データベース管理ガイド」を参照してください。

データベースのリストア

以前保存したデータベースをロードします。

レガシー データベースに初期化

ユーザが最後にインストールした後の状態へ、データベースを初期化します。ユーザのネットワークに固有のモデルがすべて削除されます。残りのデータベース構造は、モデリング カタログおよび少数の内部モデルから構成されます。

重要: 最初にユーザ データベースのバックアップ コピーを作成してから、この機能を使用してください。

詳細情報:

[データベースのリストア](#) (P. 22)

[レガシー データベースに初期化](#) (P. 22)

[コントロール]メニュー

[コントロール] メニューから、以下の機能を実行できます。

SpectroSERVER の起動と停止

SpectroSERVER の操作を制御します。

アーカイブ マネージャの自動起動と自動停止

管理対象のワークステーション上の SpectroSERVER を使って開始または停止するように、アーカイブ マネージャを設定します。

アーカイブ マネージャの自動起動と自動停止

アーカイブ マネージャを開始または停止します。

注: 他の実行中のプロセスによってデータベースがロックされた場合、アーカイブ マネージャのコントロール ボタンは無効になります。

重要: オンライン バックアップを実行中は、アーカイブ マネージャの状態を変更しないでください。

OneClick 管理

OneClick Web サーバのホストおよびポートの入力を求め、ブラウザで [OneClick 管理] ページを開きます。

注: Windows でブラウザの場所を特定するため、CA Spectrum はカレント ユーザに対して、デフォルトの Web ブラウザを開きます。UNIX と Linux でブラウザの場所を特定するため、CA Spectrum は最初に PATH 変数を使って、Firefox、Mozilla そして Netscape を検索します。ブラウザを指定するには、SPECTRUM_BROWSER 環境変数を設定します。注: 詳細については、「オペレータ ガイド」を参照してください。

SpectroSERVER のパフォーマンス

パフォーマンス ビュー アプリケーションを開きます。パフォーマンス ビューの詳細については、「SpectroSERVER パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

ユーザ

ユーザの詳細情報の表示、既存ユーザに対する新しいパスワードの設定、管理スーパーユーザ アカウントの作成を行います。

詳細情報:

[OneClick 管理ページについて \(P. 52\)](#)

[設定]メニュー

[設定] メニューから、Model Type Editor を開くことができます。また SpectroSERVER、ロケーションサーバおよびホストセキュリティの設定が可能なダイアログ ボックスを開くこともできます。[設定] メニューには、以下の選択項目があります。

- SpectroSERVER
- ロケーション サーバ
- ホスト セキュリティ
- Model Type Editor

詳細情報:

[\[SpectroSERVER 設定\] ダイアログ ボックス \(P. 16\)](#)

[\[ロケーション サーバ設定\] ダイアログ ボックス \(P. 19\)](#)

[\[ホストセキュリティ\] ダイアログ ボックス \(P. 20\)](#)

[Model Type Editor \(P. 21\)](#)

[SpectroSERVER 設定]ダイアログ ボックス

[SpectroSERVER 設定] ダイアログ ボックスでは、SpectroSERVER 設定の特定の項目を制御できます。このダイアログ ボックスで変更を行う場合、.vnmrc リソース ファイルを編集します。このファイルは SpectroSERVER の動作とパフォーマンスを制御します。

注: .vnmrc ファイルの詳細については、「分散 SpectroSERVER 管理者ガイド」を参照してください。

通信

通信ポート

クライアントのユーザ インターフェースが SpectroSERVER と通信するポートを示す TCP ポート番号を指定します。このパラメータには、IPPoPORT_USERRESERVED に割り当てられたポート番号より大きく、64,000 未満の、予約されていない有効な TCP ポートを指定できます。

デフォルト: 0xBEEF

SNMP 通信 Port

SpectroSERVER を通じて SNMP 要求を送信できるポートの選択に使用可能な値を指定します。0x400 (1,024) ~ 0xFFFF (65,535) の範囲の任意の符号なし 16 ビット整数に設定できます。SNMP エージェントの一部の実装では、符号付き数値として、ポートを処理します。その場合、このリソースは 0x400 (1,024) ~ 0x7FFF (32,768) の値に設定する必要があります。

ファイルパス

[SpectroSERVER 設定] ダイアログ ボックスは、.vnmrc ファイル内で定義されているファイルパスへのアクセスを指定します。

VNM ファイルパス

特定のデバイス アラート マッピングなど、SpectroSERVER 外部ファイルが格納されているルート サブディレクトリを指定します。

パフォーマンスの調整

SpectroSERVER はマルチスレッドプロセスです。通常の動作中、各サブシステムは多数のワーク スレッドを割り当てます。各スレッドはメモリおよび計算容量を消費します。このため、スレッドはパフォーマンスに影響を与える可能性があります。作業スレッドの割り当てを制御するパラメータには、[ポール スレッド最大数] および [ワーク スレッドエイジ] という 2 つのパラメータがあります。

注: 作業スレッドを制御するリソースとパラメータとの間の対話をよく理解するには、「Deployment Capacity and Optimization Best Practices Guide」を参照してください。

ポール スレッド 最大数

ポーリング用のワーク スレッドの最大数を指定します。

ワークスレッド エイジ

ワーク スレッドを未使用のままプールに残しておくことができる期間 (秒) を指定します。サブシステムで不要になったワーク スレッドは、ワーク スレッドプールに戻されます。

イベントログ

通常の状態では、イベントは CA Spectrum 分散データ マネージャ (DDM) データベースに記録されます。ただし、SpectroSERVER とアーカイブ マネージャの間の通信が失われた場合、通信が再構築されるまで、イベント情報は一時的に SpectroSERVER データベースに格納されます。

SpectroSERVER データベース内のこの一時的なイベント データの増加は、SpectroSERVER.vnmrc リソース ファイル内のエントリによって規制されます。これらの設定を編集するには、[イベント ログ] フィールドを使用します。

保存する最大イベント記録数

イベント ログ データベースに保存できるレコードの最大数。

デフォルト : 20,000

イベントレコード増分

レコードの数が [保存する最大イベント レコード数] 値を超えている場合に、データベースから削除するレコードの数を指定します。

デフォルト : 100

注: .vnmrc ファイルから event_record_increment エントリを削除した場合、デフォルトは 250 レコードです。

統計ログ

通常条件下では、統計は CA Spectrum 分散データ マネージャ (DDM) データベースに記録されます。ただし、SpectroSERVER とアーカイブ マネージャの間の通信が失われた場合、通信が再構築されるまで、統計情報は一時的に SpectroSERVER データベースに格納されます。

SpectroSERVER データベース内のこの一時的な統計データの増加は、SpectroSERVER.vnmrc リソース ファイル内のエントリによって制御されます。これらの設定を編集するには、[統計ログ] フィールドを使用します。

保存する最大統計記録数

データベースに保存可能な最大レコード数を指定します。

デフォルト : 5,000

統計レコード増分

レコードの数が [保存する最大統計記録数] 値を超えている場合に、[統計ログ] データベースから削除するレコードの数を指定します。

デフォルト : 500

[ロケーション サーバ設定]ダイアログ ボックス

CA Spectrum ロケーション サーバは、ネットワーク上の他の CA Spectrum サービスを探すために使用されます。 [ロケーション サーバ設定] ダイアログ ボックスでは、ロケーション サーバの特性およびユーザのクライアント アプリケーションを定義できます。

注: ロケーション サーバの詳細については、「分散 SpectroSERVER 管理者ガイド」を参照してください。

[ロケーション サーバ設定] ダイアログ ボックスの [ロケーション サーバ設定] セクションには、以下の設定が含まれます。

メイン LS ホスト

メイン ロケーション サーバ (MLS) のホスト名を指定します。このホスト ワークステーションは、ネットワーク上でどの接続サービスが使用可能かを決定します。他のロケーション サーバは、サービスの場所および可用性を特定するため、MLS に接続されます。

メイン LS ポート

メイン ロケーション サーバのポート アドレスを指定します。

デフォルト : 0xdaff

バックアップ メイン LS ホスト

バックアップ MLS 名を指定します。別のホストを MLS に接続しようとした場合に MLS が使用できない場合、ホストはバックアップ MLS にリダイレクトされます。

CA Spectrum システムが開始した場合（またはプロセス デーモン (processd) を停止されてから起動した場合）、そのシステム上のロケーション サーバは、「マップ」情報をダウンロードするため、MLS への接続を試行します。マップ情報とは、使用可能な各 CA Spectrum サービス、および各サーバの場所のリストです。MLS がその時点でダウンロードしていた場合、マップ情報は CA Spectrum システムでは利用できません。そのため、クライアントを CA Spectrum サービスに接続することはできません。

このシナリオにおけるバックアップ メイン ロケーション サーバの役割は、MLS に対して冗長性を提供することです。バックアップ MLS が設定されている場合、ロケーション サーバは MLS との連絡が失敗した後、バックアップ MLS との接続を試行します。これにより、MLS がダウンしていても、クライアントは CA Spectrum サービスにアクセスできます。

バックアップ MLS システムとメイン ロケーション サーバの両方には、非常に可用性の高いシステムを使用してください。

同じ MLS に指定している各システムは、バックアップ メイン ロケーション サーバも同じサーバを指定する必要があります。

バックアップ メイン LS ポート

バックアップ MLS ポート アドレスを指定します。

最大接続数

このロケーション サーバに対して、確立可能なポート接続の最大数を指定します。

デフォルト : 750

[ロケーション サーバ設定] ダイアログ ボックスの [クライアント アプリケーション] セクションには以下の設定が含まれます。

ホスト名

クライアント アプリケーション メイン ロケーション サーバのホスト名を指定します。このホスト名により、別の環境に対して、ランドスケープ マップの整合性が保持されます。

ポート

クライアント アプリケーションのメイン ロケーション サーバのポートを指定します。

[ホスト セキュリティ]ダイアログ ボックス

[ホスト セキュリティ] ダイアログ ボックスでは、ホストに接続可能なサーバとユーザのリストを入力できます。CA Spectrum ディレクトリ内の .hostrc ファイルを編集しても、同じことができます。

注: 詳細については、「分散 SpectroSERVER 管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[ホストセキュリティの設定](#) (P. 23)

Model Type Editor

〔設定〕メニューの **Model Type Editor** オプションで、**Model Type Editor** アプリケーションを開始します。**Model Type Editor** では、**SpectroSERVER** モデリングカタログの変更と、関係、オブジェクトクラスおよびそのコンテンツの設定を行うことができます。**SpectroSERVER** が **INACTIVE** または **STOPPED** 状態でない場合、このオプションは使用できません。

注: **Model Type Editor** の操作の詳細については、「*Model Type Editor ユーザガイド*」を参照してください。

SpectroSERVER のステータス

CA Spectrum コントロールパネルの〔ステータス〕フィールドは、**SpectroSERVER** のテキストと色に関する状態を示しています。

起動中: 黄色

起動期間が期限切れになると、このフィールドは〔実行中〕（緑）に変わります。

停止中: 黄色

サーバがシャットダウンした後、このフィールドは〔非アクティブ〕（青）に変わります。

実行中: 緑

このフィールドは通常の実行状態を示します。

終了: 赤

この状態は異常で、エラーを示します。

非アクティブ: 青

このフィールドは、サーバシャットダウンのシャットダウンが完了したことを示します。

データベースのリストア

［ファイル］メニューまたは［データベースのリストア］ボタンのいずれかを使用して、以前保存したデータベースをロードできます。

次の手順に従ってください:

1. [CA Spectrum コントロール パネル] の [データベースのリストア] をクリックします。
ダイアログ ボックスで、データベースを初期化するかどうかを尋ねられます。
2. モデルだけのロードを実行するには、[いいえ] をクリックします。
[データベースの選択] ダイアログ ボックスが開きます。
3. 以前保存した適切なデータベース バックアップを見つけて選択します。
4. 以下のいずれかを実行します。
 - Windows : [開く] をクリックします。
 - Solaris : [OK] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

データベースのロードが開始されます。SpectroSERVER が実行されている場合、SpectroSERVER はデータベース ロード後に再起動します。

レガシー データベースに初期化

[レガシー データベースに初期化] を使用すると、SpectroSERVER データベースが最後のインストール後の状態に初期化されます。ユーザのネットワークに固有のモデルはすべて削除されます。残りのデータベース構造は、モデリング カタログおよび少数の内部モデルから構成されます。

重要: 必ず最初にデータベースをバックアップしてから、この機能を使用してください。

次の手順に従ってください:

1. [ファイル]、[レガシー データベースに初期化] と選択します。
[情報] ダイアログ ボックスに警告が表示されます。
2. [はい] をクリックして操作を続行します。または、[キャンセル] をクリックして、既存のデータベースを保持します。

データベースの初期化を開始したときに SpectroSERVER が実行されていた場合、このプロセス実行中に SpectroSERVER がシャットダウンすることを通知する別のダイアログ ボックスが表示されます。

3. [はい] をクリックします。
初期化が開始されます。
4. OneClick Web サーバが再起動し、開いているすべての OneClick コンソールが再起動します。

注: この操作では OneClick エクスプローラの階層およびトポロジビューがリフレッシュされます。

SpectroSERVER データベースが初期化されます。

ホスト セキュリティの設定

[ホスト セキュリティ] ウィンドウでは、ホストに接続する可能なサーバおよびユーザのリストを入力できます。

注: また、CA Spectrum ディレクトリ内の .hostrc ファイルを編集しても、ホストへのアクセスを制御できます。詳細については、「分散 SpectroSERVER 管理者ガイド」を参照してください。

- サーバ/ユーザをリストに追加するには、適切なボックスに名前を入力し、[追加] をクリックします。
- [サーバリスト] または [ユーザリスト] のいずれかから項目を削除するには、サーバまたはユーザを選択して [削除] をクリックします。

- すべてのホストおよびユーザに対してホスト サーバへのアクセス権を付与するには、サーバ リストの追加ボックスのプラス記号を入力して [追加] をクリックします。
- ユーザがログインしているサーバだけがサーバに接続できるようにするには、サーバ リストの追加ボックスにマイナス符号を入力し、[追加] をクリックします。 マイナス符号は、サーバ リストに追加する際に、ユーザのコンピュータ名になります。

注: ホスト セキュリティ設定を保存するには、サーバ リスト内に少なくとも 1 つのエントリが必要です。

第 2 章: SPECTRUM OneClick Web サーバ管理

この章では、OneClick 管理者が OneClick Web サーバの設定と最適化のために実行できるタスクについて説明します。サーバおよびクライアントに関連する設定と保守の問題についても取り上げます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[コマンドラインからの OneClick Web サーバの起動と停止](#) (P. 25)

[管理ページからの OneClick Web サーバの起動と停止](#) (P. 26)

[Windows コントロールパネルからの OneClick Web サーバの起動と停止](#) (P. 27)

[100 ユーザ以上をサポートするよう OneClick サーバを設定](#) (P. 28)

[コンテキストからの OneClick クライアントの起動](#) (P. 29)

[OneClick クライアントのメモリ設定](#) (P. 31)

[OneClick Web サーバのメモリ設定](#) (P. 32)

[OneClick Web サーバの URL の設定](#) (P. 33)

[OneClick MySQL サーバパスワードの設定](#) (P. 34)

コマンドラインからの OneClick Web サーバの起動と停止

コマンドプロンプトから OneClick Web サーバを開始または停止を実行できます。

Solaris または Linux では、ルートとしてログインします。以下のコマンドを使用します。

- Web サーバを起動する場合

```
<$SPECROOT>/tomcat/bin/startTomcat.sh
```

- Web サーバを停止する場合

```
<$SPECROOT>/tomcat/bin/stopTomcat.sh
```

- Web サーバを再起動（停止してから起動）する場合

```
<$SPECROOT>/tomcat/webapps/spectrum/restart.sh
```

Windows で OneClick Web サーバを起動または停止するには、コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。

- Web サーバを起動する場合

```
C:¥> net start spectrumentomcat
```

- Web サーバを停止する場合

```
C:¥> net stop spectrumentomcat
```

管理ページからの OneClick Web サーバの起動と停止

複数の OneClick 管理ページは、[OneClick サーバの再起動] ボタンを備えています。OneClick Web サーバを簡単に再起動して、設定の変更を適用することができます。これらの再起動ボタンでは、'at' ユーティリティを使って、再起動スクリプトを実行するスケジュールを設定します。別のプラットフォーム用に、このユーティリティを設定できます。

OneClick Web サーバの再起動中にエラーが発生した場合、管理ページにエラーメッセージが表示されます。この場合は、以下のセクションのいずれかのトラブルシューティングのヒントを利用して、問題を特定してください。あるいは、コマンドラインから Web サーバを再起動することもできます。

Windows での 'at' ユーティリティのトラブルシューティング

デフォルトでは、CA Spectrum ユーザは Windows で 'at' を実行する権限を持っています。ただし、現在のユーザおよび現在のユーザグループが、C:¥WINDOWS¥system32 フォルダに対する読み取り権限と実行権限を持っていることを確認してください。

コマンドプロンプトシェルで「at」と入力することによって at キューを表示し、at 操作のステータスを確認します。このキューには、'at' によってスケジュールされ、まだ保留中のジョブがすべて格納されています。これらのスケジュールされたジョブを以前実行しようとして失敗している場合、ジョブにはエラー ステータス コードも示されています。

Solaris または Linux での 'at' ユーティリティのトラブルシューティング

以下のファイルにリストされているユーザは、'at' ユーティリティを使用する権限がありません。

- (Solaris) /usr/lib/cron/at.deny
- (Linux) /etc/at.deny

現在 OneClick プロセス (OneClick Web サーバ) を実行しているユーザがこのファイルにリストされていないことを確認してください。通常、このユーザは CA Spectrum インストール所有者ユーザです。コマンドシェルで以下のコマンドを入力して、OneClick プロセスを実行しているユーザを確認することができます。

```
ps -eaf | grep OneClick
```

オペレーティング システムおよび現在の OneClick ユーザに対して 'mail' ユーティリティがセットアップされている場合、スケジュールされたジョブとその出力、またはエラー メッセージについて、'at' ユーティリティが自動的に電子メールで通知します。関連情報について、これらの電子メール通知を確認してください。

詳細情報:

[コマンドラインからの OneClick Web サーバの起動と停止 \(P. 25\)](#)

Windows コントロール パネルからの OneClick Web サーバの起動と停止

Windows コントロール パネルからの OneClick Web サーバの起動と停止

次の手順に従ってください:

1. [スタート] - [コントロール パネル] をクリックします。
[コントロール パネル] が表示されます。
2. [管理ツール] をダブルクリックします。
[管理ツール] ウィンドウが表示されます。

3. [サービス] をダブルクリックします。
[サービス] ウィンドウが表示されます。
4. サービス一覧から **SpectrumTomcat** を選択し、ステータスを判断します。
5. 以下のいずれかの操作を実行します。
 - **SpectrumTomcat** サービスが実行されている場合は、[停止] をクリックして **Web** サーバを停止します。

または、[再起動] をクリックして、**Web** サーバを停止してから起動します。
 - **SpectrumTomcat** サービスが停止している場合は、[起動] をクリックして **Web** サーバを起動します。

100 ユーザ以上をサポートするよう OneClick サーバを設定

1 台の Solaris OneClick サーバで多数のユーザをサポートするには、ファイル記述子の数に対するハード制限を増やします。100 人を超える OneClick コンソールユーザを確実にサポートするには、この手順をお勧めします。
/etc/system ファイルは、ファイル記述子の制限を設定します。

次の手順に従ってください:

1. **/etc/system** ファイルのバックアップを作成します。
2. 以下の行を **/etc/system** ファイルに追加します。

```
set rlim_fd_max=4096
```

コンテキストからの OneClick クライアントの起動

トポロジまたはモデルのコンテキスト内から OneClick クライアントを起動できます。OneClick を起動する URL を使って、コンテキスト パラメータおよび値を渡します。URL に以下の形式でパラメータを含めることができます。

```
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?<parameter>=<value>
```

使用できるパラメータは以下のとおりです。

topology パラメータ

topology パラメータの値は、モデル ハンドルまたは IP アドレスです。URL でこのパラメータを使用すると、OneClick クライアントが起動するか、既存の OneClick クライアントが表示されます。次に [エクスプローラ] タブが選択されていない場合は選択され、ツリーが展開されてそのモデルが表示されます。[トポロジ] タブが選択されていない場合は選択され、URL 内の topology パラメータによって指定されたモデルが [トポロジ] 画面で選択されます。

例：

```
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?topology=0x3780003d  
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?topology=10.253.9.7
```

explorer パラメータ

explorer パラメータの値は、モデル ハンドルまたは IP アドレスです。URL でこのパラメータを使用すると、OneClick クライアントが起動するか、既存の OneClick クライアントが表示されます。次に、[エクスプローラ] タブがまだ選択されていない場合は選択され、ツリーが展開されてモデルが表示されます。コンテンツ画面で現在選択されているタブには、新しいモデルが反映されます。

例：

```
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?explorer=0x3780003d  
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?explorer=10.253.9.7
```

alarm パラメータ

alarm パラメータの値は、整数のアラーム ID（レガシー アプリケーションとの統合を容易にするため）、完全グローバル アラーム ID

（3f983d3d-2045-1000-012b-000bdb5a1c31 という形式）、または *<model handle>@<alarm ID>* です。URL でこのパラメータを使用すると、OneClick クライアントが起動するか既存の OneClick クライアントが表示されます。次に、[エクスプローラ] タブがまだ選択されていない場合は選択され、ツリーが展開されてモデルが表示されます。[アラーム] タブがまだ選択されていない場合は選択され、アラームが選択されます。

例：

```
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?alarm=0x3780003d@7710
```

0x3780003d@7710 は *<model handle>@<alarm ID>* の形式です。または

```
http://<hostname>/spectrum/oneclick.jnlp?alarm=7710
```

7710 は整数の *<alarm ID>* の形式です。

整数のアラーム ID を渡した場合は、そのモデル ハンドルも渡されます。整数のアラーム ID は、SpectroSERVER で必ずしも一意とは限りません。完全グローバル アラーム ID は、すべての SpectroSERVER で一意なので、これを使用する方が望ましいですが、OneClick を起動するアプリケーションで使用できないことがあります。

コンテキストからの起動では、ホスト マシンでインスタンスが既に実行されている場合、新しい OneClick インスタンスは起動しません。コンテキストは現在の OneClick インスタンスで変更されます。

OneClick クライアントのメモリ設定

OneClick クライアントのデフォルトの初期メモリ フットプリントは 96 MB で、最大は 512 MB です。初期メモリ設定では、起動時間を短縮できるように、Java Virtual Machine (JVM) によるメモリの事前割当てが可能です。最大設定では、追加メモリを必要とするアプリケーションを使用できるように、一定の容量まで JVM メモリを拡張することができます。たとえば、大規模な表示や検索などの操作では、より多くのメモリが必要となることがあります。

クライアントでメモリ不足エラーを発生する場合、最大メモリ設定を増やすことができます。

クライアントのメモリ設定を変更する場合は、その設定がすべての OneClick クライアントに適用される点に注意してください。そのため、十分なリソースを備えていないクライアント コンピュータを考慮する必要があります。最大メモリ割り当てを 25% 拡張して 640 MB にするなど、適度の調節を行ってください。この手順の各ステップは、メモリ不足問題に対処するためのオプションの方法です。

重要: これらのいずれかのメモリ値を高く設定しすぎると、OneClick クライアントの起動に失敗する可能性があります。

次の手順に従ってください:

1. OneClick ホーム ページで [管理] をクリックします。
[管理ページ] が開きます。
2. 左側の画面で [OneClick クライアント設定] をクリックします。
[OneClick クライアント設定] ページが表示されます。
3. [Java メモリ使用量] セクション内の [フィールドに入力](#) (P. 58) します。
4. [保存] をクリックします。
5. 実行中のすべての OneClick クライアントを再起動します。

設定した OneClick メモリ設定は、OneClick クライアントに適用されます。

OneClick Web サーバのメモリ設定

デフォルトでは、OneClick Web サーバが使用する最大メモリは **1024 MB** です。ガイドラインとして、OneClick Web サーバが、設定された最大メモリの **75%** 以上を使用している場合、最大メモリ値を増やすことを検討してください。

Web サーバでメモリ不足が発生する場合、以下のログ ファイルに **OutOfMemory** エラーが表示されます。

- tomcat/logs/stdout.log (Windows の場合)
- tomcat/logs/catalina.out (Linux/Solaris の場合)

[\[Web サーバのメモリ\] 管理ページ \(P. 65\)](#)で、メモリの割り当てを変更できます。最大メモリ割り当てを **25%** 増やして **1280 MB** にするなど、適度な調整を行って、テストを実行します。この手順の各ステップは、メモリ不足問題に対処するためのオプションの方法です。

注: これらの変更を有効にするには、OneClick Web サーバを再起動してください。

次の手順に従ってください:

1. 以下の手順で、OneClick Web サーバのメモリ使用率を確認します。
 - a. OneClick ホーム ページで **[管理]** をクリックします。
[管理ページ] が開きます。
 - b. 左側の画面で **[Web サーバのメモリ]** をクリックします。
[Web サーバのメモリ] ページが開きます。
 - c. メモリ使用率が設定された最大値の **75%** 以上かどうか、**[OneClick サーバメモリ使用量]** フィールドを確認します。

2. 以下の手順で、OneClick Web サーバの最大メモリ使用量を設定します。

- a. [サーバが使用可能な最大メモリ (MB)] フィールドに新しい値を入力します。

注: システムで使用可能なメモリより大きい値を最大メモリに設定しないでください。

- b. [保存] をクリックします。

変更をコミットし、OneClick Web サーバを再起動するよう要求するダイアログ ボックスが表示されます。

- c. [OK] をクリックします。

変更内容が保存され、OneClick Web サーバが再起動されます。

OneClick Web サーバの URL の設定

「オペレータ ガイド」では、OneClick クライアントが起動できる中核の場所として、OneClick ホーム ページについて説明します。デフォルトでは、すべての OneClick ユーザが以下の URL を使用して OneClick ホーム ページにアクセスする必要があります。

`http://<OneClick web server>/spectrum`

またデフォルトでは、`http://<OneClick web サーバ>` によって、Tomcat Web サーバの設定ページが表示されます。自動的に `http://<OneClick web サーバ>` から `http://<OneClick web サーバ>/spectrum` に自動的にリダイレクトするように、OneClick Web サーバを設定できます。

次の手順に従ってください:

1. `<$SPECROOT>%tomcat%webapps%ROOT` ディレクトリに移動します。
2. 任意のテキスト エディタを使用して、`index.html` という名前のファイルを作成します。

3. index.html ファイルを編集して以下のテキストを含めます。

```
<html>
  <head>
    <meta http-equiv="refresh" content="0;url=/spectrum">
  </head>
  <body>
  </body>
</html>
```

4. index.html ファイルを手順 1 の ROOT ディレクトリに保存します。

これで <http://<OneClick web server>> に移動した OneClick ユーザはすべて、<http://<OneClick web server>/spectrum> に自動的にリダイレクトされます。

OneClick MySQL サーバパスワードの設定

デフォルトの OneClick MySQL ユーザ (OC_user) と管理用の OneClick MySQL ユーザ (OC_admin) の両方に対してパスワードを変更できます。[MySQL パスワード管理] ページでパスワードを変更します。

重要: MySQL クライアント接続を使用して、MySQL ユーザのパスワードを手動で変更しないでください。OneClick 内でのパスワードのストレージは、MySQL の接続によって決まります。このため、パスワードを変更する唯一の安全な方法は、[OneClick MySQL パスワード管理] ページを介して変更することです。

次の手順に従ってください:

1. OneClick ホーム ページで [管理] をクリックします。
[管理ページ] が開きます。
2. 左側の画面で [MySQL パスワード] をクリックします。
[MySQL パスワードの変更] ページが表示されます。

3. 認証情報を変更するユーザの現在のパスワードと新しいパスワードを入力します。
4. 新しいパスワードをもう 1 度入力します。
5. [パスワードの変更] をクリックします。
パスワードは直ちに変更されます。MySQL や Tomcat の再起動は不要です。

詳細情報:

[\[MySQL パスワード\] ページ](#) (P. 56)

第 3 章: OneClick サーバの通信およびネットワーク設定

この章では、OneClick 管理タスクについて説明します。その他の保守に関する問題や、オプションの設定に関する問題についても対処します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[名前解決の要件](#) (P. 37)

[SSL に対する OneClick の設定](#) (P. 37)

[Web プロキシサーバを通じて通信するよう OneClick を設定](#) (P. 45)

[ファイアウォール環境](#) (P. 48)

[負荷分散](#) (P. 49)

名前解決の要件

OneClick サーバシステムが SpectroSERVER と通信するには、OneClick Web サーバシステムが SpectroSERVER の非完全修飾ホスト名を、SpectroSERVER への接続に使用できる IP に解決する必要があります。

ホスト ファイルを SpectroSERVER ホスト名の名前解決に使用することをお勧めします。この実習では、名前解決がネットワーク障害によって影響を受ける可能性が小さくなります。

SSL に対する OneClick の設定

OneClick は、OneClick Web サーバと OneClick クライアントの間の通信を暗号化するために SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルをサポートします。これによって、OneClick クライアントは、インターネットなどの保護されていないネットワークを介して、情報に安全にアクセスすることができます。暗号化に加えて、SSL は認証に証明書を使用します。認証は、疑わしい、または「信頼されていない」ソースから、ユーザがアプリケーションをダウンロードして実行しないように保護するものです。

認証局が署名した証明書と自分が署名した証明書の両方によって、SSL 暗号化を使用した安全な接続が提供されます。ただし、認証局が署名した証明書は、追加のレベルのセキュリティを提供します。これらの証明書は、証明書の作成者を確認し、製品が本当にそのベンダーのものであることを証明します。認証局が署名した証明書は、信頼できるエンティティ（認定されているベンダー）へのなりすましを困難にすることにより、サーバを保護します。ただし、SSL 証明書によって提供され、証明書ソースの証拠を必要としない暗号化が必要な場合は、自己署名証明書が適しています。

次の手順に従ってください:

1. OneClick Web サーバ ホストで、`$SPECROOT/Java/bin` ディレクトリに移動します。
2. 以下のコマンドを発行して、カスタム `cacerts` ファイル内にプライベート自己署名証明書を生成します。

```
./keytool -genkey -alias tomcatssl -keyalg RSA  
-keystore c:/win32app/Spectrum/custom/keystore/cacerts
```

`keytool` は一連の質問を表示し、指定された値を使用して以下を実行します。

- 組織の発行者名を作成します（この名前はインターネットにわたって一意となる `X.500` 識別名です）。詳細については、<http://java.sun.com> にある `keytool` ユーティリティを参照してください。
- 発行者名を使用して自己署名証明書を生成します。

3. 以下の質問に対する回答を入力します。

キーストアのパスワードを入力してください。

Tomcat Web サーバのデフォルト パスワードを変更する場合は、`$SPECROOT/tomcat/conf/server.xml` 設定ファイル内にカスタム パスワードを指定します。

姓名を入力してください。

Web サイトの（完全修飾ドメイン名が付いた）共通名を入力します。たとえば、`www.ca.com` と入力します。

組織単位名を入力してください。

事業部、ビジネスユニット、部門など、小さな構成単位の名前を入力します。たとえば、「購買部門」と入力します。

組織名を入力してください。

「ABCSystems 社」など、大きな組織名を入力します。

都市名または地域名を入力してください。

ハイデラバードなどの都市名を入力します。

州名または地方名を入力してください。

アンドラプラデシュなどのフルネームを入力します。

この単位に該当する 2 文字の国番号を入力してください。

2 文字の国コードを入力します。たとえば、IN となります。

CN=www.ca.com、OU=Purchasing、O="ABCSystems, Inc."、L=Hyderabad、ST=Andrapradesh、C=IN は正しいですか。

Yes を入力します。

<tomcatssl> の鍵パスワードを入力します（キーストア パスワードと同じ場合は RETURN）。

<tomcatssl> の鍵パスワードを入力します。キーストア パスワードと同じパスワードを使って、Enter キーを押します。

4. （オプション）認証局が署名した証明書が必要な場合は、認証局に証明書を要求して、証明書をインポートする必要があります。

注: ベスト プラクティスとして、この手順（手順 4）を続ける前に、手順 5 にスキップして、SSL をセットアップします。その後、前の手順で提供した情報が正しかったかどうかを判断するためテストを実行できます。HTTPS が動作している場合は、この手順を続けることができます。

証明書設定の一部として、安全な OneClick Web サーバを実行するシステムから、Certificate Signing Request（CSR）ファイルを生成します。OneClick に付属している Java Development Kit（JDK）には、CSR ファイルの生成に使用できる keytool ユーティリティがあります。前の手順で指定した情報を使用します。tomcatssl と同じエイリアス名を使用します。

5. 以下の手順で、認証局署名証明書を要求し、インポートします。
 - a. OneClick Web サーバ ホストで、`$SPECROOT/Java/bin` ディレクトリに移動します。
 - b. 以下のコマンドを入力して、CSR ファイルを生成します。

```
./keytool -certreq -alias tomcatssl  
-keystore $SPECROOT/custom/keystore/cacerts -file filename.csr
```

注: パスワードを入力するよう要求されます。以前に指定したパスワードと同じパスワードを使用します。

生成された .csr ファイルの内容を使用して、認証局に安全な証明書を要求します（次の手順）。

- c. 認証局に証明書を要求する。以下の例を検証します。

VeriSign : <http://www.verisign.com>

TrustCenter : <http://www.trustcenter.de>

thawte : <http://www.thawte.com>

手順はこれらの Web サイトで入手できます。

- d. OneClick Web サーバが使用するキーストアに認証局署名 SSL 証明書をインポートします。詳細については、「[認証局署名証明書のインポート](#) (P. 40)」を参照してください。

6. OneClick サーバをホスティングするマシンでセキュア ソケットを設定します。詳細については、「[OneClick Web サーバ ホストでのセキュア ソケットの設定](#) (P. 41)」を参照してください。

7. Report Manager を実行している場合は、SSL を使用して Report Manager から OneClick を起動するよう設定します。詳細については、「[SSL 用の OneClick および Report Manager の設定](#) (P. 44)」を参照してください。

認証局署名証明書のインポート

認証局署名 SSL 証明書を取得したら、OneClick Web サーバが使用するキーストアにインポートする必要があります。

認証局からのチェーン（ルート）証明書も、キーストアに存在する必要があります。デフォルトでは、OneClick には一般的なベンダーのチェーン証明書が多数含まれています。これらの証明書のエイリアスを表示するには、[SSL 証明書] 管理ページの [一覧] をクリックします。この情報により、証明書を取得してインポートすべきかどうかを判断できます。

次の手順に従ってください:

1. 必要に応じて、署名証明書を取得した認証局からチェーン（ルート）証明書をダウンロードします。
2. 前の手順でチェーン証明書をダウンロードした場合は、以下の手順で OneClick Web サーバが使用するキーストアにインポートします。
 - a. OneClick Web サーバ ホストで、`$SPECROOT/Java/bin` ディレクトリに移動します。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
./keytool -import -alias root -keystore $SPECROOT/custom/keystore/cacerts  
-trustcacerts -file root_chain_certificate_filename
```

注: Tomcat Web サーバのパスワードを求められます。エイリアス名は「root」である必要はありません。インポートしているルート証明書のタイプには、よりわかりやすい名前を付けることができます。あらかじめ存在しているエイリアス名は使用できません。

3. 以下の手順で、OneClick Web サーバが使用するキーストアに認証局署名 SSL 証明書をインポートします。
 - a. 必要に応じて、OneClick Web サーバ ホストで、`$SPECROOT/Java/bin` ディレクトリに移動します。
 - b. 以下のコマンドを入力します。

```
./keytool -import -alias tomcatssl -keystore  
$SPECROOT/custom/keystore/cacerts -trustcacerts -file  
your_certificate_filename
```

注: Tomcat Web サーバのパスワードを求められます。プライベート自己署名証明書の生成時と同じエイリアスを使用します。詳細については、「[名前解決の要件](#) (P. 37)」を参照してください。

OneClick Web サーバ ホストでのセキュア ソケットの設定

OneClick サーバをホスティングするマシンでセキュア ソケットを設定します。このタスクを SSL 用の OneClick Web サーバの設定における最終手順と見なします。

注: CA Spectrum は、SSL v3 の使用をサポートします。

次の手順に従ってください:

1. OneClick Web サーバをシャットダウンします。
2. 好みのテキスト エディタで、\$SPECROOT/tomcat/conf/server.xml を開きます。
3. server.xml ファイル内で以下のセクションを探します。

```
<!-- Define a SSL Coyote HTTP/1.1 Connector on port 443 -->
<!--
<Connector
    port="443" minProcessors="5" maxProcessors="75"
    enableLookups="true" disableUploadTimeout="true"
    acceptCount="100" debug="0" scheme="https" secure="true"
    clientAuth="false" sslProtocol="TLS" ssl_enabled=yes
    keystoreFile="<SPECROOT>/custom/keystore/cacerts"
    keystorePass="changeit">
</Connector>
-->
```

デフォルトでは、このセクションの `<Connector>` エLEMENT はコメントアウトされています。

注: 前の XML フラグメントは、Windows 専用です (OneClick Web サーバが SSL 通信をリスンするデフォルト ポートとして 443 を使用します)。エンド ユーザが OneClick ホーム ページにアクセスする場合、URL から以下のようにポートを省略できます。

`https://<fully_qualified_host_name>/spectrum`

UNIX ベースのインストールでは、OneClick Web サーバは `root` として実行されず、デフォルト ポートは 8443 です (1024 より大きい必要があるため)。そのため、エンド ユーザは、OneClick ホーム ページにアクセスするための URL を入力する際に、以下のように Web ブラウザでポート番号を指定する必要があります。

`https://<fully_qualified_host_name>:8443/spectrum`

4. Connector 定義のまわりのコメントを削除します。以下のアクションを実行します。
 - a. `<Connector` に先行する行から「`<!--`」を削除します。
 - b. セクション末尾 (`</Connector>` の後) から「`-->`」を削除します。

5. `keystoreFile` 属性の値の `<SPECROOT>` 変数を、CA Spectrum がインストールされているディレクトリへの完全修飾パスで置き換えます。keytool コマンド用の `cacerts` ファイルを使用して、証明書を生成することができます。以下の例を検証します。

Windows

```
C:/win32app/SPECTRUM/custom/keystore/cacerts
```

UNIX

```
/usr/SPECTRUM/custom/keystore/cacerts
```

6. `server.xml` ファイルを保存して閉じます。
7. CA Spectrum が CA Performance Center と統合されている場合、SSL を有効にした OneClick と `<npc>` 間での通信を有効にするには、以下の手順を実行します。

- a. 「`$SPECROOT/tomcat/webapps/axis2/WEB-INF/conf`」の「`axis2.xml`」ファイルをエディタで開きます。
- b. `axis2.xml` 内で以下のセクションを探します。

```
<transportReceiver name="http"

class="org.apache.axis2.transport.http.SimpleHTTPServer">
    <parameter name="port">8080</parameter>
```

- c. このセクションを以下のように変更します。

```
<transportReceiver name="https"

class="org.apache.axis2.transport.http.SimpleHTTPServer">
    <parameter name="port">8443</parameter>
```

8. OneClick Web サーバを起動します。

SSL および設定のパラメータの設定に関する指示を検索できます。詳細については、<http://tomcat.apache.org/tomcat-7.0-doc/ssl-howto.html> を参照してください。

SSL 用の OneClick および Report Manager の設定

Report Manager を実行中で、SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使って OneClick クライアントと OneClick Web サーバ間の通信を暗号化するように OneClick を設定した場合、SSL を使って Report Manager から OneClick を起動するように設定する必要があります。

Report Manager を使用して、CA Spectrum が管理するネットワーク資産のインベントリ、パフォーマンス、変更履歴、および障害履歴のレポートを作成できます。詳細については、「Report Manager ユーザガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. 以下のファイルに対する書き込み権限を有効にします。

```
<$SPECROOT>%tomcat%webapps%spectrum%repmgr%js%repmgr.js
```

2. 前の手順で変更したファイルを開き、launchOneClick ファンクションを探します。

3. launchOneClick 機能で、次の行を探します。

```
url = "http://" + servername + contextApp + "/oneclick.jnlp";
```

4. 「http」を「https」に変更します。

```
url = "https://" + servername + contextApp + "/oneclick.jnlp";
```

5. ファイルを保存して閉じます。

重要: このファイルはアップグレード中に上書きされます。アップグレードの後にこの手順を繰り返してください。

注: 特定のレポートのコンテキスト (アセット レポートにリスト表示されたデバイスのコンテキストなど) では、OneClick を起動できます。ただし、このタイプの起動では SSL を使用するように設定できません。

セキュア ソケット レイヤ設定のトラブルシューティング

症状

SSL を使用して OneClick クライアントから安全な OneClick Web サーバに接続しようとしたとき、エラーが発生しました。

解決方法

以下を確認してください。

- OneClick Web サーバが動作しているホストの完全修飾ドメイン名が、認証に使用するセキュリティ証明書に署名するために生成したプライベート キーで指定されたこと。キーの生成時に、「あなたの姓名は何ですか?」というプロンプトに対して完全修飾ドメイン名を入力する必要がありました。
- 認証局のチェーン（ルート）証明書およびセキュリティ証明書の両方が、安全な OneClick Web サーバのカスタム ディレクトリにある cacerts ファイルにインポートされたこと。

SSL を使用してレポート マネージャから OneClick クライアントを起動する際のエラー

症状:

SSL を使用してレポート マネージャから OneClick クライアントを起動する際にエラーが発生しました。

解決方法:

[「セキュア ソケット レイヤ用の OneClick およびレポート マネージャの設定 \(P. 44\)」](#)で説明されている設定手順を完了していることを確認してください。

Web プロキシ サーバを通じて通信するよう OneClick を設定

HTTP と HTTPS のリクエストを中継する Web プロキシ サーバ (iPlanet、Microsoft プロキシ サーバなど) を使用する場合、OneClick は Java Web Start が使用するプロキシ設定を継承します。OneClick は HTTP および HTTPS プロキシの両方をサポートし、プロキシ認証もサポートします。管理者は、OneClick Web サーバがプロキシ サーバを通じて通信するように設定する必要があります。

プロキシを通じて接続するクライアントはすべて、Java Web Start 設定コンソールでプロキシ設定を行う必要があります。Java Web Start プロキシ設定の詳細については、「インストール ガイド」を参照してください。HTTP 1.1 プロキシを介して接続するには、変更が必要な設定はそのコンソール設定だけである可能性があります。

注: HTTP 1.1 をサポートするプロキシへの接続には、以下の変更は必ずしも必要ではありません。

HTTP 1.0 プロキシサポートについては、プロキシ サーバを介して通信する OneClick Web サーバを設定します。

次の手順に従ってください:

1. 任意のテキスト エディタを使って、
`<${SPECROOT}>/tomcat/conf/server.xml` ファイルを開いて編集します。
2. 以下の属性を、アクティブな Connector エlement に追加します。
`maxKeepAliveRequests="1".`
この属性を 1 に設定すると、キープアライブが無効になります。
3. `server.xml` ファイルへの変更を保存します。
4. OneClick Web サーバを停止して、再起動します。

プロキシの問題のトラブルシューティング

プロキシを使用した OneClick クライアントの起動に失敗した結果、以下の手順 1 と 2 の状態は正常で、手順 3 は失敗になります。

1. Web ブラウザは、OneClick Web サーバにアクセスし、
`http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/index.jsp` にある OneClick ホーム ページを (プロキシを通じて) ロードできます。
2. Java Web Start は、OneClick Web サーバにアクセスし、必要な OneClick ファイルをダウンロードできます。
3. OneClick クライアントは、OneClick Web サーバにアクセスすることができず、「... に接続できません」というエラーが表示されます。

注: [Web プロキシサーバを介して通信するよう OneClick を設定](#) (P. 45) する手順を実行しても、OneClick がユーザ環境内のプロキシサーバを介して通信できない場合、Web プロキシを無効にすることを検討してください。詳細については、「インストール ガイド」を参照してください。

OneClick クライアントの低パフォーマンスのトラブルシューティング

プラットフォーム: Windows

症状:

OneClick クライアントは起動するまでに、長い時間がかかります。クライアントが起動した後も、マウスのクリックやナビゲーションの操作に反応するまで、ユーザは長時間待たなければなりません。動作は非常に低速なため、ほとんど使用できません。

解決方法:

この動作は、「reuseConnections」Java System プロパティのデフォルト設定（「false」）に起因するものです。CA Spectrum の旧バージョンで、デフォルト値は「true」でした。環境内で Web プロキシやロードバランサを使用するユーザが標準設定のまま、簡単に接続を確立できるようにするため、変更を行いました。接続を再利用せずに、SSL 証明書の確認が、クライアントからサーバへのすべてのリクエストで実行されます。この作業は、ラウンドトリップの観点から見ると、コストがかかります。

「reuseConnections」Java Runtime System プロパティの値を「true」に変更します。

プロパティ設定を変更するには、oneclick.jnlp ファイルを編集します。

次の手順に従ってください:

1. 以下のディレクトリに移動します。

```
<$SPECROOT>/tomcat/webapps/spectrum/
```

2. 任意のテキストエディタを使用して、編集のために oneclick.jnlp ファイルを開きます。

3. 「<resources>」行のすぐ下に、次の行を追加します。

```
<property name="reuseConnections" value="true"/>
```

開いている OneClick クライアントをすべて再起動します。

ファイアウォール環境

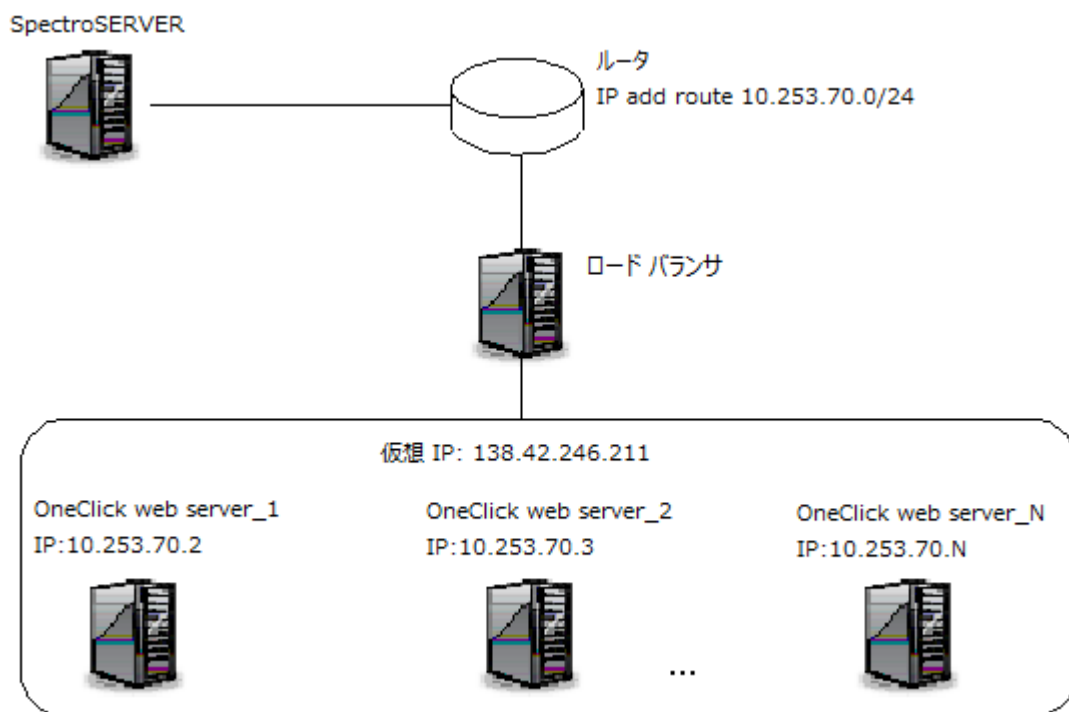
OneClick Web サーバは、OneClick クライアントに表示するデータを収集するため、SpectroSERVER ホスト システム上のプロセスと通信する必要があります。ほとんどの場合、この通信は OneClick Web サーバによって開始され、要求の送信と応答の受信を行うため特定の TCP ポートへの接続を確立します。SpectroSERVER は、双方向 IIOP (Internet Inter-ORB Protocol) を使用して、CORBA クライアントと通信します。ポート 14001 は、Tomcat Web サーバが SpectroSERVER から通信を受信できるように、ファイアウォール上で開く必要があります。

ネットワーク上でネットワーク アドレス変換 (NAT) を使用する場合、OneClick Web サーバが SpectroSERVER と通信するために、追加の設定手順を実行する必要はありません。ただし、SpectroSERVER の通信は、アドバタイズされたホスト名から IP アドレスへの解決に基づいて行われるため、システム上で適切に名前解決を設定する必要があります。NAT ファイアウォール内にある SpectroSERVER マシン (ホスト名: 「spectrumss」) で、プライベート IP アドレス 192.168.0.2 およびパブリック アドレス 128.113.0.2 を持つマシンを考えてみましょう。NAT のプライベート側のホストでは、「spectrumss」を 192.168.0.2 に解決する必要があります。パブリック側のホストでは、128.113.0.2 を「spectrumss」に解決する必要があります。

負荷分散

負荷分散を実現するには、複数の **OneClick Web** サーバを同等に構成し、ホスト/セッション維持および負荷分散モードを備えた外部負荷分散デバイスを通じてアクセスするようにします。

以下の図は、複数の **OneClick** サーバをサポートする負荷分散構成を示しています。



OneClick Web サーバステータスの確認

サーバの定期的なヘルス チェック実行時に、以下の **HTTP GET** ステートメントを使って、各 **OneClick** サーバのステータスを確認するように、ロードバランサを設定することができます。

```
http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/stable
```

GET が正常に実行されると、「安定した」ファイルの内容が返されます。安定したファイルの存在は、**SpectrumTomcat** プロセスが安定状態にあることを示します。ファイルの取得に失敗した場合、**SpectrumTomcat** プロセスが実行されていないか、不安定な状態であることを示しています。

負荷分散環境で実際のクライアント IP アドレスをログ記録する方法

負荷分散環境で、ロードバランサは SNAT（Source Network Address Translation）を実行します。その結果、ログには実際のクライアントではなく、ロードバランサの IP アドレスとホスト名が表示されます。OneClick で [クライアント ログ] を選択すると、ログを確認できます。

HTTP リクエストヘッダフィールド [X-Forwarded-For] に実際のソースの IP アドレスを挿入するように、ロードバランサを設定します。これで、ロードバランサの代わりに、ユーザの OneClick コンソールにログインしている実際のクライアントの IP アドレスとホスト名を参照できます。

ロードバランサのセットアップ詳細については、インターネットで入手できます。たとえば、「[F5 BIG-IP ロードバランサの設定](#)」や「[Cisco ACE ロードバランサの設定](#)」を参照してください。

第 4 章: OneClick 管理 Web ページ

この章では、OneClick 管理 Web ページ、およびページ上で利用できる機能について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick 管理ページへのアクセス](#) (P. 51)

[OneClick 管理ページについて](#) (P. 52)

[\[CAC 設定\] ページ](#) (P. 53)

[\[Ciscoverworks 設定\] ページ](#) (P. 54)

[\[eHealth 設定\] ページ](#) (P. 54)

[\[電子メール設定\] ページ](#) (P. 54)

[EvFormat/PCause の構成の再リロード](#) (P. 54)

[\[ランドスケープ\] ページ](#) (P. 55)

[\[LDAP 設定\] ページ](#) (P. 55)

[\[MySQL パスワード\] ページ](#) (P. 56)

[\[NSM 設定\] ページ](#) (P. 58)

[\[OneClick クライアント設定\] ページ](#) (P. 58)

[Performance Center 統合設定ページ](#) (P. 61)

[\[Service Desk 設定\] ページ](#) (P. 61)

[\[シングルサインオン設定\] ページ](#) (P. 62)

[CA Spectrum 設定ページ](#) (P. 62)

[\[SPM データ エクスポート\] ページ](#) (P. 63)

[\[SPM テンプレートの名前付け\] ページ](#) (P. 63)

[\[SSL 証明書\] ページ](#) (P. 64)

[ウォッチ レポート](#) (P. 64)

[\[Web サーバ ログ設定\] ページ](#) (P. 64)

[\[Web サーバのメモリ\] ページ](#) (P. 65)

OneClick 管理ページへのアクセス

OneClick 管理ページは、OneClick ホーム ページからアクセスできます。
OneClick Web 管理権限を持つ OneClick ユーザのみが、これらの Web ページにアクセスできます。

OneClick 管理ページにアクセスするには、OneClick ホーム ページ内の「管理」をクリックします。



OneClick 管理ページについて

管理ページには、設定する特定機能を選択するナビゲーション画面と、各機能の設定情報を表示する、右側のコンテンツ画面が表示されます。ステータスバーには、以下のボタンが含まれます。

ホーム

OneClick ホーム ページが表示されます。

CA Spectrum ドキュメント

CA Spectrum ドキュメント ページを開きます。

デバッグ

「デバッグ」ページを開きます。このページには、CA Spectrum に搭載されているデバッグ用ツールに関する情報とツールへのリンクが含まれています。

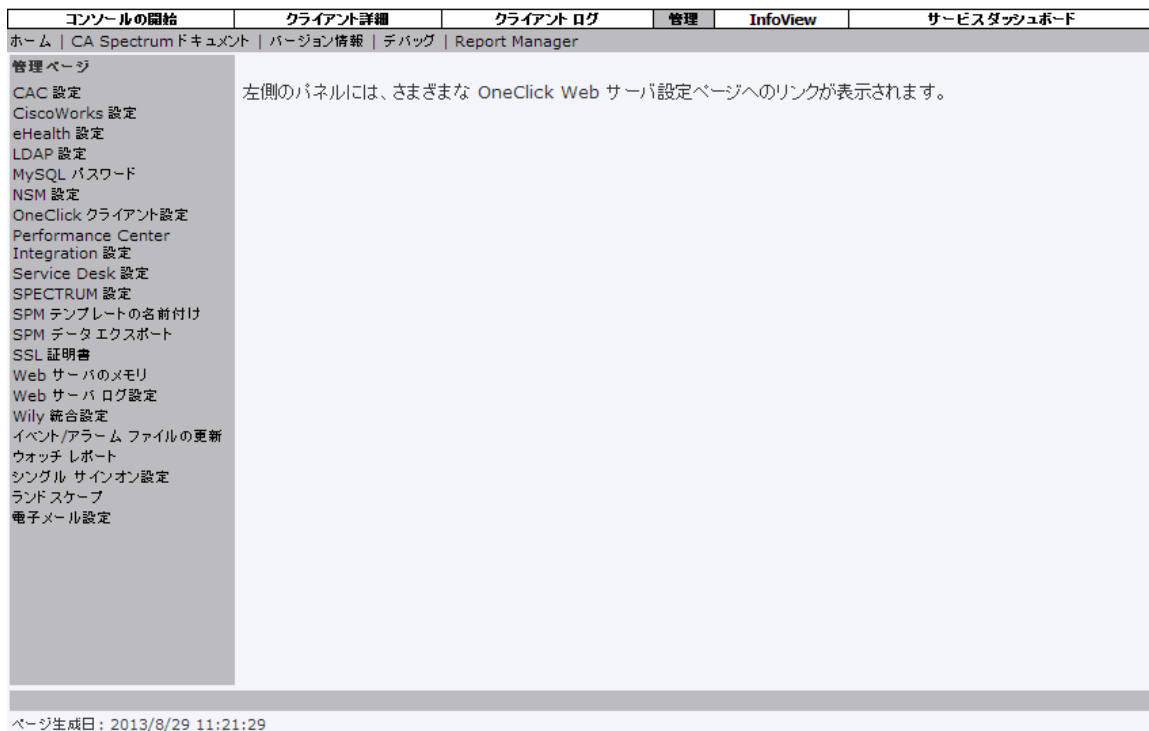
重要: デバッグ用ツールは、CA サポートから指示された場合にだけ使用してください。

Report Manager

「Report Manager 管理ツール」ページを開きます。

注: Report Manager の管理の詳細については、「Report Manager インストールおよび管理ガイド」を参照してください。

ナビゲーション画面にリスト表示されている管理ページは、インストールされているすべての OneClick アドオン アプリケーションを反映しています。



ナビゲーション画面と他の OneClick Web ページのリンクは、どの OneClick 管理ページからでも使用できます。

[CAC 設定] ページ

Common Access Cards (CAC) を使用する OneClick を設定するために [CAC 設定] ページを使用します。

注: 詳細については、「*Common Access Card Authentication Solution Guide*」を参照してください。

[Cisoworks 設定] ページ

Cisoworks Web サーバと接続するように **OneClick** を設定するには、
[Cisoworks 設定] ページを使用します。

注: 詳細については、「Cisco デバイス管理ガイド」を参照してください。

[eHealth 設定] ページ

[eHealth 設定] ページを使用して、**OneClick** が eHealth サーバに接続するように設定します。このページで実行した変更は、その後起動される **OneClick** クライアントにも反映されます。[テスト] ボタンを使用して、eHealth 設定の変更を保存する前にテストすることができます。

注: CA Spectrum および eHealth の統合の詳細については、「CA eHealth and CA Spectrum 統合およびユーザ ガイド」を参照してください。

[電子メール設定] ページ

ユーザの既存の電子メールシステムと統合するように **OneClick** を設定には、[電子メール設定] ページを使用します。次に、オペレータはトラブルシュータやその他の個人ユーザに割り当てられた **OneClick** から、アラーム関連の情報を電子メールで送信できます。

メールサーバのデフォルトの **SMTP** サーバホストエントリは「mailhost」です。これは、メールサーバの一般的な **DNS** エイリアスです。ユーザ環境でこのエイリアスを使用しない場合、**OneClick Web** サーバ上の `/etc/hosts` ファイルに「mailhost」エントリを追加できます。

EvFormat/PCause の構成の再リロード

[EvFormat/PCause 設定] ページを使用して、変更した **Event Format** ファイルまたは **Probable Cause** ファイルを **OneClick** サーバに再ロードできます。

また必要に応じて、コマンドラインから **EvFormat/PCause** ファイルを再ロードできます。任意のサーバから **EvFormat/PCause** ファイルを再ロードするには、コマンドラインを使用します。

次の手順に従ってください:

1. GNU `wget` を取得してインストールします。

注: GNU `wget` はシンプルなフリーウェア ユーティリティです。

2. 以下のコマンドを実行します。

```
wget http://ochost:ocport/spectrum/admin/ecds.jsp?reload=Reload --user  
username --password password
```

`ochost`

OneClick Web サーバのホスト名を指定します。

`ocport`

ユーザの OneClick Web サーバのポート番号を指定します。

`username`

OneClick Web サーバの管理者ユーザ名を指定します。

`password`

OneClick Web サーバの管理者パスワードを指定します。

[ランドスケープ] ページ

[ランドスケープ] ページを使用して、OneClick サーバが現在監視しているすべてのランドスケープ (SpectroSERVER) のステータスを表示できます。親および子のランドスケープなど、分散 SpectroSERVER (DSS) のセットアップに関連する情報を確認します。[マスタと同期] ボタンを使用すると、すべての分散モデルと、マスタ ランドスケープ上の対応するモデルとを手動で同期させることができます。

この OneClick サーバで監視されるランドスケープは手動で追加または削除できます。ただし、削除できるのは手動で追加したランドスケープのみです。

[LDAP 設定] ページ

[LDAP 設定] ページを使用して、OneClick Web サーバがユーザ認証に外部 LDAP サーバを使用するように設定します。

この管理ページには、以下の設定と機能があります。

LDAP サーバ設定

LDAP サーバを対象とした接続試行またはクエリを実行する場合、IP アドレスとポート番号によってプライマリとセカンダリの LDAP サーバを識別する複数の設定では、SSL の使用、SSL 証明書の追加、およびタイムアウト値の指定を行います。

LDAP パスワードを CA Spectrum データベースに保存

このオプションをオンにすると、LDAP サーバがダウンしている場合、最新の既知の正しい LDAP パスワードに基づいて OneClick ユーザにアクセス権を付与することができます。

ユーザ名ロックアップ

[ユーザ検索] または [ユーザ パターン] ロックアップのいずれかとして、ユーザ名の OneClick ロックアップを設定します。

LDAP 設定のテスト

外部 LDAP サーバとの OneClick インターフェースを設定した後、設定のテストを実行できます。

注: LDAP ベースのログインに 3 回連続して失敗した場合、OneClick Web サーバのロケーションサーバをホスティングしている VNM 上で、クリティカルアラームが生成されます。

[MySQL パスワード]ページ

OneClick には、基本的なユーザ (OC_user) および管理者ユーザ (OC_admin) という、独自の MySQL Server ユーザとパスワードがあります。どちらも Report Manager や Service Manger などの CA Spectrum アプリケーションの代りに、MySQL レポート データベースへのアクセスに使用されますが、管理者ユーザは他のユーザに対して、このデータベースへのアクセス権限を付与することもできます。セキュリティを強化するため、CA Spectrum は、OneClick MySQL ユーザのパスワードを変更できる [MySQL パスワード] ページを提供します。

重要: MySQL クライアント接続を使用して、MySQL ユーザのパスワードを手動で変更しないでください。OneClick 内でのパスワードのストレージは、MySQL の接続によって決まります。このため、パスワードを変更する唯一の安全な方法は、[OneClick MySQL パスワード管理] ページを介して変更することです。

[MySQL パスワード] ページには以下の設定が含まれています。

デフォルト ユーザ

OneClick Web アプリケーションで使われるレポート データベースにアクセスするには、CA Spectrum が使用するデフォルト OneClick MySQL Server ユーザ (OC_user) 用の認証情報を指定します。

現在のパスワード

OC_user MySQL ユーザの現在のパスワードを指定します。

新しいパスワード

OC_user MySQL ユーザの新しいパスワードを指定します。

新しいパスワードの確認

OC_user MySQL ユーザの新しいパスワードを確認します。

管理者ユーザ

OneClick Web アプリケーションで使われるレポート データベースにアクセスし、このデータベースへのアクセス権限を他のユーザに付与するために CA Spectrum が使用する管理者 OneClick MySQL サーバユーザ (OC_admin) の認証情報を指定します。

現在のパスワード

OC_admin MySQL ユーザの現在のパスワードを指定します。

新しいパスワード

OC_admin MySQL ユーザの新しいパスワードを指定します。

新しいパスワードの確認

OC_admin MySQL ユーザの新しいパスワードを確認します。

OneClick は MySQL に接続できるように、MySQL サーバユーザ認証情報を保持します。OneClick はセキュリティ上、このパスワードを暗号化された形式で保管します。

詳細情報:

[OneClick MySQL サーバパスワードの設定](#) (P. 34)

[NSM 設定] ページ

[NSM 設定] ページを使用して、NSM ダッシュボードおよび NSM レポート サーバに接続するよう **OneClick** を設定できます。変更された設定は、変更保存後に起動した **OneClick** クライアントにのみ反映されます。

[OneClick クライアント設定] ページ

OneClick は、Sun Microsystems が開発した Java Web Start フレームワークを使用して、ブラウザの **OneClick** ホーム ページから **OneClick** コンソールを起動します。**OneClick** コンソールの起動方法（必要な JAR ファイルの場所など）を決定するため、Java Web Start フレームワークはいくつかの Java Network Launching Protocol (JNLP) 設定ファイルから各種起動パラメータの値を取得します。

[**OneClick** クライアント設定] ページでは、**OneClick** クライアントに関連付けられている設定を設定できます。これらの設定は、以下の場所に格納されている JNLP ファイルによって使用されます。

C:¥win32app¥SPECTRUM¥tomcat¥webapps¥spectrum

JNLP ファイルに対して行った変更は、次の場所にあるカスタム ファイルに保存されます。

\$SPECR00T¥custom¥common¥config

サポートされている JRE バージョン

OneClick を起動するため、クライアントに JRE のどのバージョンをインストールするかを指定します。指定されたバージョンのいずれもインストールされていない場合、**OneClick** ホーム ページから **OneClick** コンソールを起動することはできず、代わりに、エラー メッセージを受信します。複数の JRE バージョンを、必要に応じて指定できます。複数の JRE バージョンを指定した場合、Java Web Start は、リストの最上位から最下位へ、順番に処理します。

新しいバージョンを許可

JRE のメジャーおよびマイナーの両方のリリースを含め、OneClick クライアントで、指定された必須 JRE バージョン以外のバージョンも実行することができます。カスタム JRE 設定と同様、提供されているバージョン以外の JRE バージョンを使用すると、アプリケーションで不適切な動作が発生する可能性があります。

注: 製品マニュアルに特に記述がない限り、CA Spectrum では、記載された最小の JRE バージョン レベルをサポートし、その最小バージョンまたはそれ以降のバージョンでの OneClick UI の実行をサポートします。また、CA は、新しい JRE バージョンがリリースされるたびにそのバージョンをテストし、特定の JRE バージョンに互換性がない場合は、CA Spectrum 製品マニュアルおよびオンライン サポート ナレッジベースを更新します。

Java メモリ使用量

[Java メモリ使用量] セクションでは、OneClick クライアントによって使用される Java Virtual Machine に対して最小サイズと最大サイズのオブジェクト ヒープを設定できます。詳細については、「[OneClick クライアント メモリ の設定 \(P. 31\)](#)」を参照してください。

クライアント最小メモリ使用量(メガバイト)

OneClick を起動するためにクライアント上で使用できる必要がある最小メモリ量 (メガバイト単位)。

デフォルト : 64

クライアント最大メモリ使用量(メガバイト)

OneClick がクライアント上で使用できる最大メモリ量 (メガバイト単位)。

デフォルト : 512

OneClick クライアント非アクティブ

クライアントが非アクティブ状態かどうかをチェックし、非アクティブ状態のクライアントをタイムアウトするように、OneClick を設定できます。この機能はデフォルトでは無効です。この機能を有効にした場合にタイムアウトが発生すると、ユーザ名とパスワードを入力することで、OneClick クライアントの使用を継続することができます。非アクティブ状態は、キーボードやマウスの操作が指定した期間検出されないことと確定します。

詳細情報:

[ユーザまたはユーザ グループの個々の権限の変更 \(P. 90\)](#)

非アクティブ OneClick クライアント タイムアウトの有効化

OneClick クライアントが非アクティブかどうかチェックし、そのクライアントが指定された期間、非アクティブだった場合にタイムアウトを発生するように、**CA Spectrum** を設定できます。この設定により、ネットワーク セキュリティを強化できます。たとえば OneClick クライアントを無人のままデスクトップで放置すると、タイムアウトになります。

次の手順に従ってください:

1. OneClick ホーム ページで [管理] をクリックします。
[管理ページ] が開きます。
2. [OneClick クライアント設定] をクリックします。
[OneClick クライアント設定] ページが表示されます。
3. 必要に応じて、[OneClick クライアント非アクティブ] セクション内の設定を入力します。

OneClick 非アクティブ タイムアウト(分)

OneClick クライアントがタイムアウトになる (ログオフする) まで、非アクティブ状態を維持できる分数を指定します。

デフォルト: 0 (無効)

アプレット非アクティブ タイムアウト(分)

アプレットがタイムアウトになる (ログオフする) まで、非アクティブ状態を維持できる分数を指定します。

デフォルト: 0 (無効)

注: ネットワーク監視専用の OneClick クライアントが非アクティブ状態である可能性が高い場合、ユーザの [非アクティブ タイムアウト] 権限を削除できます。タイムアウト設定を指定した場合でも、ユーザはタイムアウトを受信できません。

4. [保存] をクリックします。

非アクティブ状態の OneClick クライアントのタイムアウトは現在有効です。

詳細情報:

[\[OneClick クライアント設定\] ページ](#) (P. 58)

Performance Center 統合設定ページ

[Performance Center 統合設定] ページでは、CA Spectrum と CA Performance Center の間で共有するイベントを設定できます。

[Performance Center 統合設定] ページには以下の設定が含まれます。

イベント ポーリング間隔

CA Spectrum から、イベントの Performance Center Event Manager コンポーネントへの問い合わせ頻度を指定します。ユーザがこの値を変更した場合、新しいポーリング間隔は次のポーリング サイクルで有効になります。

デフォルト: 60 秒

イベント ポーリング

イベント ポーリングを有効または無効にします。

注: 詳細については、「CA Spectrum および CA Performance Center 統合ガイド」を参照してください。

[Service Desk 設定] ページ

[Service Desk 設定] 管理ページを使用して、CA Spectrum および CA Service Desk Manager 統合の設定を表示、設定、テスト、および保存することができます。

注: CA Service Desk Manager に接続する OneClick を設定する前に、CA Service Desk Manager サーバ上に統合コンポーネントをダウンロードしインストールします。

CA Service Desk Manager サーバおよび管理者ユーザのパラメータの作成と変更、CA Spectrum と CA Service Desk Manager 統合の有効化と無効化、CA Service Desk チケットを生成する CA Spectrum アラームの追加と削除が可能です。

[シングル サインオン設定] ページ

[シングル サインオン設定] ページを使用して、SPECTRUM のシングル サインオン オプションを有効にし、選択することができます。SPECTRUM は、CA Embedded Entitlements Manager (EEM) または CA SITEMINDER を使用してシングル サインオンをサポートしています。

これらの設定に対する変更を保存すると、変更を適用するために OneClick サーバが自動的に再起動されます。再起動中にエラーが発生した場合は、トラブルシューティングのヒントとして「[管理 Web ページからの OneClick Web サーバの起動と停止 \(P. 26\)](#)」を参照してください。

CA Spectrum 設定ページ

以下の CA Spectrum 設定パラメータを表示および設定することができます。

- メイン ロケーション サーバ名
- バックアップ ロケーション サーバ名
- 管理者ユーザ名
- SpectroSERVER ポーリング間隔 (秒)
- SpectroSERVER 要求タイムアウト (秒)
- OneClick Web サーバが SpectroSERVER との CORBA ベース通信に使用するオブジェクトリクエストブローカ (ORB) のプロパティ

注: OneClick サーバを再起動して、サーバの再起動が必要な設定変更を有効にすることもできます。再起動中にエラーが発生した場合は、トラブルシューティング情報として「[管理 Web ページからの OneClick Web サーバの起動と停止 \(P. 26\)](#)」を参照してください。

CA Spectrum の Common Object Request Broker Architecture (CORBA) の詳細については、「*Development API Reference Guide*」を参照してください。

[SPM データ エクスポート] ページ

[SPM データ エクスポート] ページを使用して、SPM データ エクスポートの以下の設定を変更できます。

[SPM データ エクスポート有効]

以下の設定を有効にするには、[はい] に設定する必要があります。

[ログ ファイル サイクル時間(分)]

このパラメータは、いつ SPM ログ ファイルを保存して閉じ、新しいファイルをログ記録用に開くかを分単位で制御します。

[ログ ファイル ディレクトリ]

SPM ログ ファイルを保管するディレクトリへのフルパスを設定します。指定するディレクトリ構造は、保存する前に作成されている必要があります。

ランドスケープ選択列を使用して、SPM データの取得元となるランドスケープを選択します。

OneClick サーバを再起動して、サーバの再起動が必要な設定変更を有効にすることもできます。

[SPM テンプレートの名前付け] ページ

このページを使用すると、適用される SPM テスト テンプレートが存在するテスト ホスト上で作成されたテストの命名規則を以下のように指定することができます。

IP アドレス

テスト名は、テスト ターゲットのテンプレート名と IP アドレスで構成されます。テスト ターゲットはテスト ホストまたは特定のデバイスです。

モデル名

テスト名は、テスト ターゲットのテンプレート名とモデル名で構成されます。テスト ターゲットはテスト ホストまたは特定のデバイスです。

SPM テスト テンプレートの使用の詳細については、「サービス パフォーマンス マネージャ ユーザ ガイド (5093)」を参照してください。

[SSL 証明書] ページ

[SSL 証明書] ページを使用して、OneClick Web サーバが使用する SSL 証明書を表示および追加することができます。この Web ページを使用して、OneClick SSL 設定の一部として使用される SSL 証明書を追加します。LDAP 設定情報については、「LDAP 設定」を参照してください。OneClick の SSL 設定については、「[名前解決の要件 \(P. 37\)](#)」を参照してください。

OneClick サーバを再起動して、サーバの再起動が必要な設定変更を有効にすることもできます。再起動中にエラーが発生した場合は、トラブルシューティングのヒントとして「[管理 Web ページからの OneClick Web サーバの起動と停止 \(P. 26\)](#)」を参照してください。

ウォッチ レポート

[ウォッチ レポート] ページでは、複数のウォッチに関するレポートを生成できます。ウォッチとは、モデル属性にしきい値を追加するメカニズムです。ウォッチを使用すると、ルータなどのネットワーク エLEMENT を詳細に監視できます。また、ウォッチはネットワーク分析の他の CA Spectrum ツールで使用できる現在のデータも提供します。

注: 詳細については、「ウォッチユーザガイド」を参照してください。

[Web サーバ ログ設定] ページ

[Web サーバ ログ設定] ページを使用して、OneClick サーバのログ ファイルのローテーション設定を表示および設定することができます。OneClick Web サーバのログ ファイルは、<\$SPECROOT>/tomcat/logs ディレクトリ内にあります。

ログ ファイルディレクトリがメガバイト単位で指定されたサイズより大きくなったときにアラームが通知されるよう設定することができます。ログ ファイルディレクトリの現在のサイズが表示されます。また、ログ ファイルがディレクトリから削除されるまでの期間を日単位で指定できます。

[Web サーバのメモリ] ページ

[Web サーバのメモリ] ページを使用して、OneClick サーバが使用する最大メモリ量を表示および設定することができます。変更を行ったら必ず OneClick サーバを再起動する必要があります。OneClick サーバが現在使用している最大メモリ割り当ての割合を表示することもできます。

注: OneClick サーバを再起動して、サーバの再起動が必要な設定変更を有効にすることもできます。再起動中にエラーが発生した場合は、トラブルシューティング情報として「[管理 Web ページからの OneClick Web サーバの起動と停止 \(P. 26\)](#)」を参照してください。

詳細情報

[OneClick Web サーバのメモリ設定 \(P. 32\)](#)

第 5 章: OneClick でのユーザ管理

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick ユーザの管理について](#) (P. 67)

[OneClick のユーザ管理インターフェース](#) (P. 70)

[権限の表示および変更](#) (P. 74)

[ユーザ グループ内のユーザの管理](#) (P. 76)

[ユーザ アカウントおよびユーザ グループの作成](#) (P. 77)

[役割使用状況の特定と確認](#) (P. 90)

[ユーザ グループへの既存ユーザの移動](#) (P. 92)

[モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティ コミュニティの使用について](#) (P. 94)

OneClick ユーザの管理について

ユーザ管理には、OneClick ユーザ アカウントの作成および管理が含まれます。OneClick システム管理者は、システムへのアクセスを許可する新規ユーザごとにユーザ アカウントを作成する必要があります。

OneClick に新規ユーザ アカウントを作成する際は、ユーザ グループ内に追加することも、単独のユーザとして作成することもできます。同じニーズを持つユーザが複数いる場合は、ユーザ グループを作成してそれらのユーザ アカウントを管理することを検討してください。固有のニーズを持つユーザがいる場合は、ユーザ グループから独立してユーザ アカウントを作成できます。

ユーザ アカウントの作成および管理のベスト プラクティス

このセクションでは、OneClick でのユーザ アカウントの作成および管理のベスト プラクティスについて説明します。

重要: OneClick には、完全な権限を持ったデフォルトの管理者ユーザが含まれます。このユーザは、SpectroSERVER のインストール中に作成されたインストール所有者アカウントです。[ユーザ] タブからこのユーザを削除することはできません。ただし、[ロケータ] タブを使用して検索を実行した後に表示される [結果] リストから、このアカウントを削除することはできます。また、ユーザ アカウントから、メイン ロケーション サーバのランドスケープを削除することで、このユーザを削除することもできます。このデフォルトの管理者ユーザは削除しないでください。このユーザを削除すると、他のすべてのユーザに対する OneClick にアクセスができなくなるなど、望ましくない結果が発生します。

ユーザ アカウントを個別に作成および管理する場合、以下の利点があります。

- 最も簡単な方法
- ユーザ数が少ない環境に最適
- 固有の OneClick アクセス要件を持つユーザに最適
- 個々のユーザ アカウントは、必要に応じて後でユーザ グループに移動できる

ユーザ グループ内でのユーザ アカウントの作成および管理

ユーザ グループ内でユーザ アカウントを作成および管理する場合、以下の利点があります。

- ユーザ数が多い環境に最適。複数のユーザを地理的範囲、役職、部門などでグループ化できます。
- グループ内のすべてのユーザに同じアクセス権と権限を一度に付与できる。グループ内のすべてのユーザが持つべき最低限の権限セットを定義できます。その後で、グループ内のユーザの個々の権限をカスタマイズできます。

以下のユーザ グループ作成例を考えてみてください。

タスク

OneClick 内で、ネットワークを監視できる最低限の権限セットをネットワーク オペレータに付与する必要があります。また、これらのネットワーク オペレータの 1 人に、OneClick でネットワークをモデリングする権限を追加で付与する必要があります。

解決方法

ユーザ グループを 1 つ作成することによって、この要件を簡単に満たすことができます。OneClick でこの要件を設定するには、以下を実行します。

1. ユーザ グループを 1 つ作成し、ネットワーク オペレータのユーザ アカウントすべてをそのユーザ グループ内に配置します。
2. グループ内の全員に最低限の監視権限を付与します。
3. グループ内の 1 人のネットワーク オペレータのみにモデリング権限を付与します。

ユーザ管理の実行者

OneClick 管理者は、OneClick でユーザ管理を設定する必要があります。CA Spectrum をインストールしたユーザ（インストール所有者ユーザ）は最初に、この設定を実行する必要があります。インストール中、CA Spectrum は、インストール所有者用のユーザ アカウントを作成します。このアカウントを使用して、この初期ユーザには、ユーザ管理を含むすべての OneClick 機能に対する管理者アクセス権が付与されます。

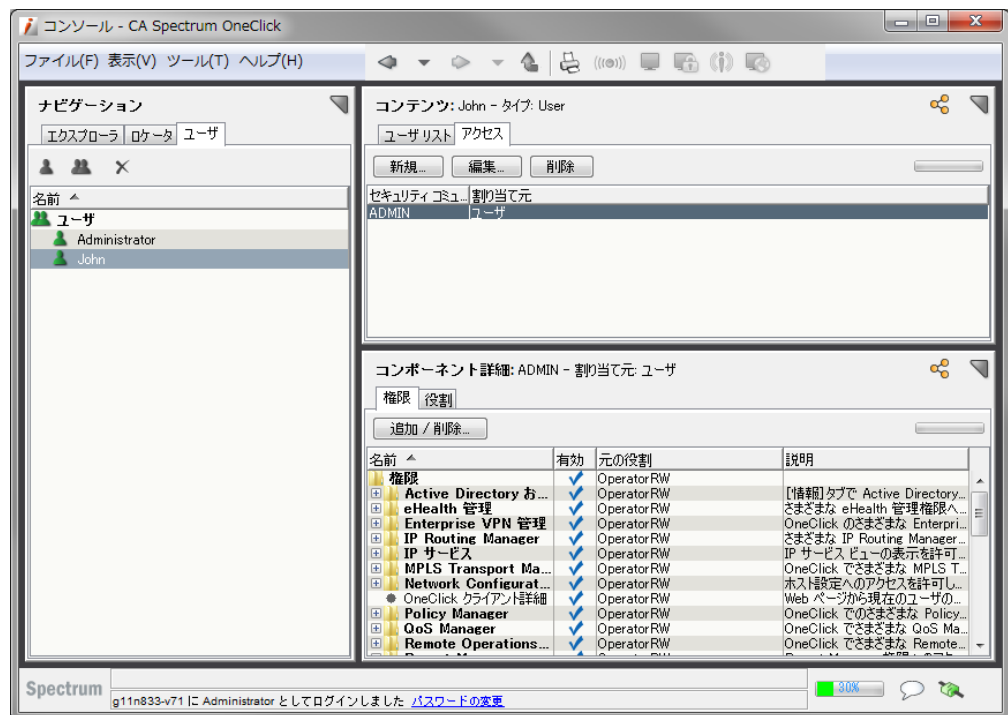
初期ユーザ以外のユーザがユーザ管理を行う必要がある場合は、初期ユーザがそのユーザ用に管理者アカウントを作成する必要があります。管理者アカウントには、管理者ライセンスおよび適切なユーザ管理権限を含める必要があります。

ライセンスと権限

OneClick には、一連の管理者ライセンスとオペレータ ライセンスがあります。これらのライセンスによって、システム管理者が OneClick ユーザに割り当てることができる権限が決定されます。指定されたライセンスで使用可能な権限は、デフォルトで有効になっています。システム管理者は、これらの権限を有効のままにしておくことも、個々に無効にしてライセンス権限をカスタマイズすることもできます。

OneClick のユーザ管理インターフェース

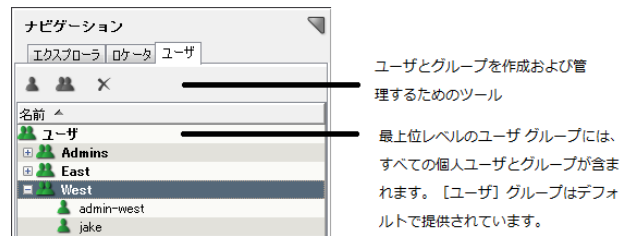
OneClick システム管理者は、以下の画面に示すように、ナビゲーション画面の「ユーザ」タブから使用可能なオプションを使用して、OneClick 内でユーザを作成し、管理します。



[ユーザ]タブ

[ユーザ] タブには、最上位の [ユーザ] グループの下にユーザおよびユーザ グループの階層リストが表示されます。SPECTRUM インストール後の初期設定では、[ユーザ] タブには最上位の [ユーザ] グループ、およびそのユーザ グループの下に SPECTRUM をインストールした初期 SPECTRUM ユーザ（インストール所有者ユーザ）のみがリストされます。

[ユーザ] タブから、ユーザおよびユーザ グループのリストの上にあるツールバーのツールを使用して、ユーザ アカウントを作成および管理することができます。



既存のユーザまたはユーザ グループを OneClick で管理するには、そのユーザまたはユーザ グループをナビゲーション画面の [ユーザ] タブで選択します。[ユーザ] タブでユーザまたはユーザ グループを選択すると、コンテンツ画面に [ユーザ リスト] タブと [アクセス] タブが表示されます。

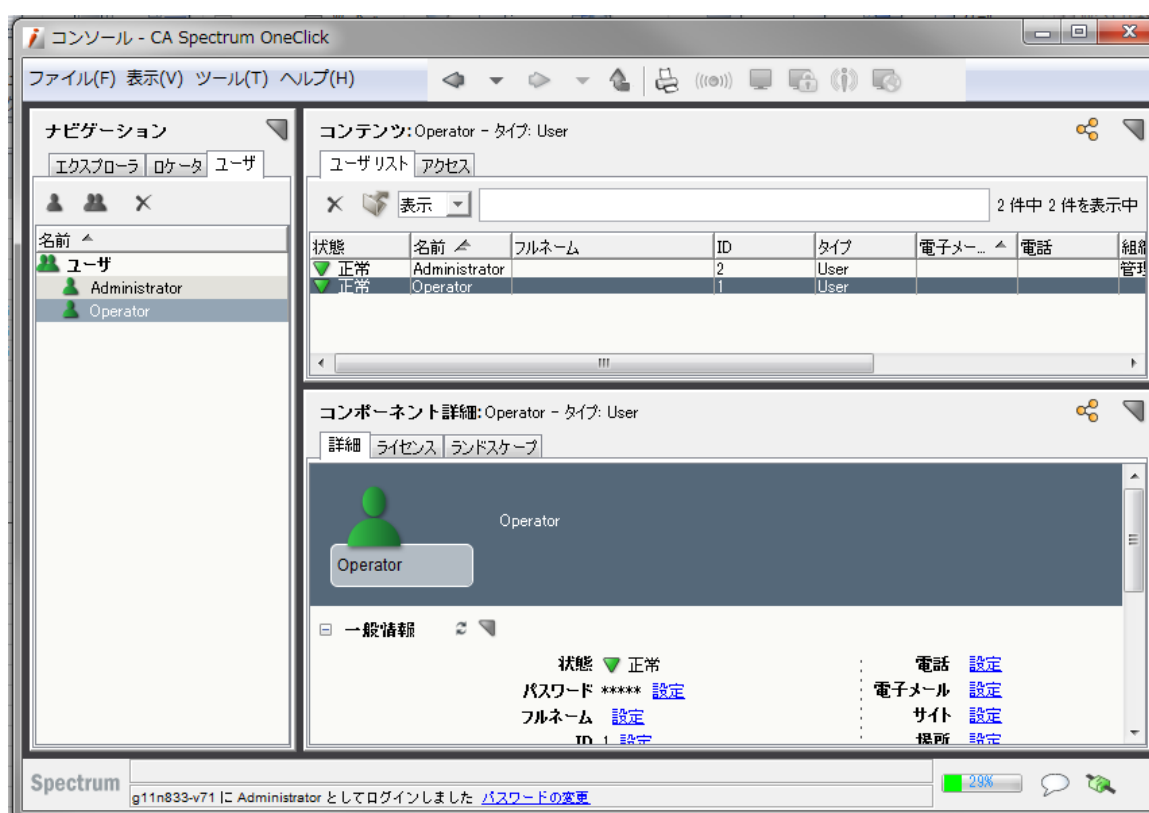
[ユーザ リスト]タブ

[ユーザ リスト] タブには、現在のランドスケープのユーザおよびユーザ グループのテーブルが表示され、各エントリに関する情報が列に表示されます。表示する列を選択し、列の内容に基づいてテーブルのソート順序を変更することによって、このテーブル ビューをカスタマイズできます。テーブル ビューのカスタマイズの詳細については、「**OneClick コンソールユーザガイド (5130)**」を参照してください。

[ユーザ リスト] タブを選択すると、コンポーネント詳細画面に [詳細] タブ、[ライセンス] タブ、[ランドスケープ] タブが表示されます。

[ユーザ リスト] タブを使用して、以下のことが可能です。

- 選択したユーザまたはグループに関する情報をコンポーネント詳細画面の [詳細] タブに表示する。
- 選択したユーザまたはグループのライセンスをコンポーネント詳細画面の [ライセンス] タブに表示し、編集する。
- 選択したユーザまたはグループのランドスケープ メンバシップをコンポーネント詳細画面の [ランドスケープ] タブに表示し、編集する。
- 選択したユーザまたはグループを削除する。
- [ユーザ リスト] タブをエクスポートする。



[アクセス]タブ

コンテンツ画面の [アクセス] タブには、選択したユーザまたはユーザグループに割り当てられたセキュリティコミュニティのリストが表示されます。セキュリティコミュニティは、ユーザアクセスを OneClick の特定のモデルおよびビューのセットに制限できるツールです。各セキュリティコミュニティの割り当て元として、個々のユーザまたはユーザグループが表示されます。

[アクセス] タブを選択すると、以下の画面に示すように、コンポーネント詳細画面に [権限] タブおよび [役割] タブが表示されます。

ナビゲーション

エクスプローラ ロケータ ユーザ

名前 ▲

ユーザー

Administrator

John

コンテンツ: John - タイプ: User

ユーザーリスト アクセス

新規... 編集... 削除

セキュリティコミュニティ 割り当て元

ADMIN ユーザ

コンポーネント詳細: ADMIN - 割り当て元: ユーザ

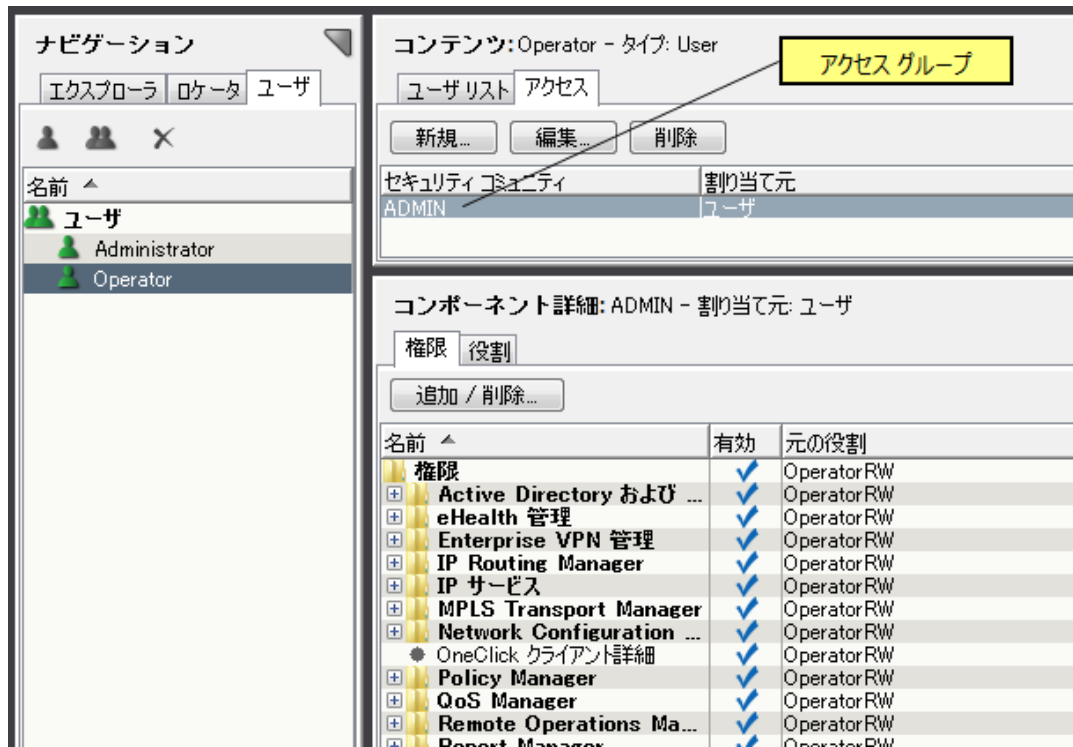
権限 役割

追加 / 削除...

名前 ▲	有効	元の役割	説明
権限		OperatorRW	
Active Directory および ...	✓	OperatorRW	OperatorRW
eHealth 管理	✓	OperatorRW	【情報】タブで Active Directory およ...
Enterprise VPN 管理	✓	OperatorRW	さまざまな eHealth 管理権限へのアク...
IP Routing Manager	✓	OperatorRW	OneClick のさまざまな Enterprise V...
IP サービス	✓	OperatorRW	さまざまな IP Routing Manager 権限...
MPLS Transport Manager	✓	OperatorRW	IP サービス ビューの表示を許可します
Network Configuration ...	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな MPLS Trans...
OneClick クライアント詳細	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな Network Co...
Policy Manager	✓	OperatorRW	ホスト設定へのアクセスを許可します。
QoS Manager	✓	OperatorRW	Web ページから現在のユーザのクライ...
Remote Operations Ma...	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな Policy Man...
Report Manager	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな QoS Manage...
Secure Domain Manager	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな Remote Ope...

権限の表示および変更

以下の画面のように、選択したユーザの［アクセス］タブにアクセスグループが表示されます。



ユーザのアクセスグループを選択すると、コンポーネント詳細画面の［権限］タブに使用可能な権限が表示されます。

この例のコンポーネント詳細ラベルは、これらの権限が、選択されたADMINアクセスグループにユーザレベルで関連付けられていることを示します（ADMIN: ユーザ）。このユーザに付与されている各権限の［有効］列には、チェックマークが表示されます。［元の役割］列は、これらの有効な権限がすべてOperatorRWの役割によって付与されていることを示します。

［追加/削除］ボタンをクリックすると、選択したADMINアクセスグループでこのユーザの権限を有効および無効にすることができます。ユーザレベルで［追加/削除］ボタンを使用して、ユーザグループから継承されたアクセスグループの権限を管理することはできません。

権限のカスタマイズの影響

OneClick では、個々のユーザ アカウントやユーザ グループに割り当てられた権限をカスタマイズできます。個々のユーザ アカウントの権限を編集すると、変更はそのユーザのみに影響を与えます。ユーザ グループに割り当てられた権限を編集した場合、変更はそのユーザ グループ内のすべてのユーザに影響を与えます。グループ内のユーザは、グループから自動的に権限を継承しますが、割り当てられた個人レベルの権限もすべて保持します。

グループのメンバーであるユーザに対して、ユーザ レベルでアクセス グループへの権限を追加することができます。アクセス グループの権限をユーザ グループ レベルで編集することもできます。ユーザ グループによってユーザに付与された権限をユーザ レベルで削除することはできません。

ユーザの役割によって付与された権限の削除の影響

ユーザの役割によって付与された権限をカスタマイズすると、そのユーザは役割から削除されます。ユーザは、削除されていない役割によって付与されたすべての権限を保持しています。役割自体は変更されません。削除した権限をユーザに再度追加しても、ユーザがその役割のメンバシップを再度得るわけではありません。

デフォルトの SPECTRUM の役割（AdministratorRW または OperatorRW など）のいずれかによってユーザに付与された権限をカスタマイズすると、結果としてユーザからその役割が削除され、残りの有効な権限が直接割り当てられるなどの影響が生じます。

- デフォルトの役割に対して後でカスタム権限を作成した場合（権限を定義した XML ファイルで割り当てを指定）、作成した権限はユーザに自動的に付与されません。
- 後で SPECTRUM をアップグレードした場合、新しいバージョンの SPECTRUM でデフォルトの役割に関連付けられた使用可能な新しい権限は、ユーザに自動的に付与されません。

どちらの場合も、カスタム権限または新しい権限をユーザに付与するには、それらを明示的にユーザに追加するか、デフォルトの役割をユーザに再度割り当てる必要があります。

ユーザ グループ内のユーザの管理

複数のユーザを OneClick で管理する優れた方法の 1 つは、ユーザ グループを使用することです。ユーザ グループを作成してから、そのユーザ グループ内のすべてのユーザに最小限のユーザ権限セットを付与するよう設定することができます。このグループ内に作成された各ユーザ アカウントは、グループ レベルの権限を自動的に継承します。

ユーザ グループ内のユーザの継承の詳細

ユーザ グループ内のユーザは、以下の値をユーザ グループから継承します。

- セキュリティ コミュニティ
- レガシー SNMP コミュニティ文字列
- アクセス グループ
- 権限役割
- 管理者が指定した属性

ユーザ グループ内に含まれるユーザには、以下の特殊な注意事項が該当します。

- グループ レベルで行われた変更はすべて、グループ内のユーザに自動的に継承されます。
- CA Spectrum ランドスケープのメンバシップは、ユーザ グループから継承されません。個々のユーザ レベルで設定する必要があります。

詳細情報:

[継承された属性を指定します。](#) (P. 77)

継承された属性を指定します。

ユーザが属しているグループから継承することを望む属性を指定できます。

次の手順に従ってください:

1. [ナビゲーション] 画面の [ユーザ] タブをクリックします。
コンテンツ画面で [ユーザリスト] が開きます。
2. 継承された属性を指定するユーザが含まれるグループを選択します。
[詳細] タブは、[ユーザ継承属性] サブビューを表示します。
3. [ユーザ継承属性] サブビューを展開します。
このグループ内のユーザに現在適用されている属性のリストが表示されます。
4.  (共通属性の編集) をクリックします。
共通属性エディタが開きます。
5. ユーザが継承する、[利用可能属性] リスト内の属性をダブルクリックします。
属性は [選択された属性] リストに移されます。
6. [保存] をクリックします。
共通属性エディタが閉じ、選択された属性は [ユーザ継承属性] リストに表示されます。このグループ内のユーザは、これらの属性値を継承します。

ユーザ アカウントおよびユーザ グループの作成

新規のユーザまたはユーザ グループを作成すると、デフォルトではオペレータ ライセンスと **OperatorRW** 権限役割が新規ユーザまたはユーザ グループに割り当てられます。新規ユーザまたはグループを作成したときに、オペレータ ライセンスに加え、管理者ライセンスを割り当てることもできます。管理者ライセンスをユーザまたはグループに割り当てると、そのユーザは、**OperatorRW** と **AdministratorRW** の両方の役割に関連付けられたすべての権限を自動的に継承します。

OneClick でユーザ アカウントの管理を開始するには、OneClick のデフォルト設定でユーザを作成します。ユーザ アカウントまたはユーザ グループを作成すると、デフォルトではオペレータ ライセンスと ADMIN セキュリティ コミュニティが割り当てられます。ユーザに管理対象のデバイスとコンテナへのアクセス権限だけを付与するように変更することで、ADMIN セキュリティ コミュニティを選択的に置換することができます。

デフォルトでは、セキュリティはモデルに適用されません。モデルへのアクセスを制限するには、セキュリティ文字列をそのモデルに追加します。ADMIN セキュリティ文字列をユニバース モデルに追加し、適切なユーザが ADMIN セキュリティ コミュニティへのアクセス権限を持っていることを確認することにより、管理者を作成できます。

オペレータ ライセンスまたは管理者ライセンスによって付与されるデフォルトの権限を使用して、新しいユーザ アカウントまたはユーザ グループを作成します。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ユーザ] タブで、以下のいずれかを実行します。
 - **スタンドアロンユーザの作成。** 最上位の [ユーザ] ノードを選択し、新規ユーザの作成ボタンをクリックします。
[ユーザの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - **ユーザ グループの作成。** 最上位の [ユーザ] ノードを選択し、ユーザ グループの作成ボタンをクリックします。
[グループの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - **グループ内にユーザを作成。** ユーザを作成する既存のユーザ グループを選択し、新規ユーザの作成ボタンをクリックします。
[ユーザの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. ユーザまたはユーザ グループに適したユーザ情報を定義します。

名前

新しいユーザまたはグループのユーザ名を指定します。設定済みの LDAP ディレクトリに存在する OneClick ユーザの場合、この名前はユーザの LDAP ユーザ ログオン名と一致する必要があります。

フルネーム([ユーザの作成]のみ)

ユーザのフルネームを定義します。

Web パスワード([ユーザの作成]のみ)

このユーザの Web パスワードを定義します。このパスワードは、OneClick がこのユーザを認証するのに使用されます。設定済みの LDAP ディレクトリに存在する OneClick ユーザの場合、このパスワードは使われません。

Web パスワードの確認([ユーザの作成]のみ)

入力した Web パスワードをこのフィールドに再度入力して確認します。

3. [ライセンス] タブで、このユーザまたはグループに割り当てるライセンスに該当する [メンバー] チェック ボックスをオンにします。デフォルトでは、新規ユーザはオペレータ ライセンスと **OperatorRW** 権限役割を付与されます。
4. [ランドスケープ] タブをクリックして、このユーザまたはグループのランドスケープを設定します。

注:デフォルトでは、使用可能なランドスケープがすべて選択されます。分散環境では、このユーザを含める追加のランドスケープを選択できます。ランドスケープを少なくとも 1 つ選択する必要があります

5. [アクセス] タブをクリックして、このユーザまたはグループのデフォルトのモデルセキュリティ設定を編集します。

ここでセキュリティ コミュニティ (デフォルトの **ADMIN** コミュニティなど) を少なくとも 1 つ指定する必要があります。デフォルトでは、ユーザまたはユーザ グループは読み取り/書き込み **ADMIN** アクセスグループを受け取ります。これにより、すべてのモデルに対するアクセス権限が付与されます。

6. (オプション) ユーザに対して、追加のアクセス グループを作成します。

注: モデルはデフォルトでは、ブランクのセキュリティ文字列を持っています。セキュリティ文字列を個々のモデルまたはコンテナに追加して、対応するセキュリティ コミュニティを使って、ユーザアクセス権限をモデルに選択的に付与することをお勧めします。

7. [ユーザの作成] ダイアログ ボックスまたは [グループの作成] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックします。

新規ユーザまたはグループが作成され、ナビゲーション画面の [ユーザ] タブに表示されます。

役割と権限の作成、編集、および割り当てについて

ユーザまたはユーザグループの権限を個々に無効および有効にすることができます。また、役割を使用して、権限セットをユーザまたはユーザグループに付与することもできます。**OneClick** のデフォルトの権限役割を使用することも、ユーザ独自のカスタム権限役割を作成することもできます。ただし、デフォルトの権限役割自体は編集できません。ユーザにライセンスカテゴリを割り当てた後、ユーザは事前定義された役割が付与するアクセス権限を持つことができます。

以下の 6 つのデフォルトの役割があります。

AdministratorRW

(読み取り/書き込み) ネットワーク管理タスクをすべて実行するために必要な権限と、**CA Spectrum** およびそのユーザをセットアップするために必要な権限を付与します。これは最も制限を受けない役割です。例として、デバイス ディスカバリ、モデル管理、トポロジ設定、**eHealth** 統合管理、デバイス認証、ユーザ設定などを実行する権限が挙げられます。

AdministratorRO

(読み取り専用) **CA Spectrum** モデリングおよび属性情報にアクセスするために必要な権限を付与します。例として、**SNMP** コミュニティ文字列や **SNMPv3** セキュリティ プロファイルの表示機能などが挙げられます。

OperatorRW

(読み取り/書き込み) **CA Spectrum** を使用して、ネットワーク管理の最も一般的なタスクを実行するために必要な権限を付与します。例として、アラーム管理タスク、サービス パフォーマンス マネージャのタスク、ほとんどのネットワーク設定マネージャのタスクなどが挙げられます。

OperatorRO

(読み取り専用) ネットワーク アクティビティの監視や、制限されたネットワーク管理タスクの実行を行う権限を付与します。例として、アラームのスヌーズ機能や、トポロジ情報の表示機能などが挙げられます。

Service ManagerRW

(読み取り/書き込み) [サービス停止] を編集する権限と、サービス ダッシュボードへのアクセスを許可する権限も付与されます

Service ManagerRO

(読み取り専用) サービス ダッシュボードへのアクセスを許可する権限を付与します。

これらの事前定義された役割が要件を満たさない場合は、カスタムの役割を作成できます。事前定義された役割は変更できませんが、個々の権限は変更できます。

注: CA Spectrum を新しいバージョンにアップグレードすると、新しいバージョンで利用可能な新しい権限が、適切なデフォルトの役割に自動的に追加されます。ただし、ユーザが作成したカスタム役割については、必要に応じて権限を明示的に追加する必要があります。

個々のユーザの権限を編集した場合、変更はそのユーザにのみ影響を与えます。ユーザ グループによって付与された権限を編集した場合、変更はそのユーザ グループ内のすべてのユーザに影響を与えます。ユーザ グループ内のユーザは、グループ レベルから権限を継承します。

権限と役割を編集するには、以下の画面に示すように、選択されたユーザの「権限」タブや「役割」タブの設定を変更します。

「新規」をクリックして、アクセスグループを追加

「編集」をクリックして、選択したグループのコミュニティを変更

「削除」をクリックして、選択したアクセスグループを削除

選択されたアクセスグループ (ADMIN)

「追加/削除」をクリックして、付与されている権限を変更

名前	有効	元の役割	説明
権限	✓	OperatorRW	
Active Directory...	✓	OperatorRW	[情報] タブで Active Direct...
eHealth 管理	✓	OperatorRW	さまざまな eHealth 管理権...
Enterprise VPN ...	✓	OperatorRW	OneClick のさまざまな Ente...
IP Routing Mana...	✓	OperatorRW	さまざまな IP Routing Mana...
IP サービス	✓	OperatorRW	IP サービス ビューの表示を...
MPLS Transport ...	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな MPL...
Network Configu...	✓	OperatorRW	ホスト設定へのアクセスを許...
OneClick クライアント...	✓	OperatorRW	Web ページから現在のユー...
Policy Manager	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな Po...
QoS Manager	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな QoS...
Remote Operati...	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな Rem...
Report Manager	✓	OperatorRW	Report Manager 権限への...
Secure Domain ...	✓	OperatorRW	OneClick のさまざまな Sec...
Service Desk	✓	OperatorRW	
SPM 管理	✓	OperatorRW	OneClick でさまざまな SPM...

個々の権限の編集に加え、以下の画面に示すように、「役割」タブを使用して権限役割を割り当てることによって、複数の権限を一度に付与することもできます。

「新規」をクリックして、新しい権限役割を作成

「追加/削除」をクリックして、役割とユーザを関連付ける

権限役割	メンバー	説明
IsacvReadOnlyOverrides		IsacvのSpectroSERVER読み取り専用の権限を設定
OperatorRO		オペレータの読み取り専用役割の権限を定義します。
OperatorRW	✓	オペレータの読み書き役割の権限を定義します。

OneClick に付属のデフォルトの役割と、作成したカスタムの役割は再利用可能で、1 人または複数のユーザに割り当てることができます。

OperatorRW 権限役割は、オペレータ ライセンスに付属する権限を自動的に付与します。

役割の作成とユーザまたはユーザ グループへの割り当て

カスタム権限役割を作成し、次に、その役割をユーザまたはグループに関連付けることができます。ユーザ アカウントまたはユーザ グループと関連付けられるまで、役割は効果がありません。

カスタム権限役割を作成できます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ユーザ] タブでユーザを選択します。

注: 管理者にライセンスされた権限役割を作成するには、管理者ライセンスを持つユーザを選択します。オペレータ ライセンスに基づく権限役割を作成するには、オペレータ ライセンスを持つユーザを選択します。

2. [コンテンツ] ペインの [アクセス] タブをクリックします。

[コンポーネント詳細] 画面に [権限] タブと [役割] タブが表示されます。

3. [役割] タブをクリックし、[新規] をクリックします。
役割権限を追加するダイアログボックスが表示されます。

追加 権限役割 - CA Spectrum OneClick

権限役割によって、複数のユーザに割り当てられる権限をグループ化できます。

名前* NoSvcMgrRole

説明 This role provides all privilege except those related to Service Management

権限

ライセンス* Operat... 選択したライセンスによって使用可能な権限が決まります

名前	有効	説明
権限	☒	
Active Directory および Exc...	☒	[情報] タブで Active Directory および Exchange Server のさ...
eHealth 管理	☒	さまざまな eHealth 管理権限へのアクセスを許可します。
Enterprise VPN 管理	☒	OneClick のさまざまな Enterprise VPN Manager 機能へのアク...
IP Routing Manager	☒	さまざまな IP Routing Manager 権限を付与します。
IP サービス	☒	IP サービス ビューの表示を許可します
MPLS Transport Manager	☒	OneClick でさまざまな MPLS Transport Manager 機能へのア...
Network Configuration Man...	☒	ホスト設定へのアクセスを許可します。
OneClick クライアント詳細	☒	Web ページから現在のユーザのクライアント詳細へのアクセスを許...
Policy Manager	☒	OneClick でさまざまな Policy Manager アクセス権を付与しま...
QoS Manager	☒	OneClick でさまざまな QoS Manager アクセス権を付与しま...
Remote Operations Manager	☒	OneClick でさまざまな Remote Operations Manager の権限...
Report Manager	☒	Report Manager 権限へのアクセス権を許可します。
Secure Domain Manager	☐	OneClick のさまざまな Secure Domain Manager 権限を付与...
Service Desk	☒	
SPM 管理	☒	OneClick でさまざまな SPM タスクへのアクセスを許可します。
Telco EMS Manager	☒	OneClick でさまざまな Telco EMS Manager 権限を付与します。
Virtual Host Manager	☒	さまざまな Virtual Host Manager 権限へのアクセスを許可します...
VPLS 管理	☒	VPLS 管理権限へのアクセスを許可します。
VPN 管理	☒	OneClick のさまざまな VPN Manager 権限を付与します。
アラームの表示	☒	アラームの読み取りを許可します。これにより、[エクスプローラ] タブ...
アラーム管理	☒	OneClick においてさまざまなアラーム管理タスクへのアクセスを許...

* は必須フィールドです

OK キャンセル

4. [名前] フィールドに新しい役割を説明する名前を入力します。
 5. (オプション) [説明] フィールドにこの役割の詳細な説明を入力します。
 6. [ライセンス] ドロップダウンリストから適切なライセンスを選択します。
- 注: ここで選択したライセンスによって、この役割で有効にできる権限が決定されます。

7. [有効] チェックボックスをオンまたはオフにすることで、この役割を付与する権限を選択します。
8. [OK] をクリックします。

新しい役割が、コンポーネント詳細画面の[役割] タブに選択肢の 1 つとして表示されます。この役割は、適切なライセンスを有するユーザまたはユーザ グループがすぐに使用できます。

また、権限役割を割り当てることもできます。権限役割の割り当てでは、既存の役割をユーザに割り当てることができます。

次の手順に従ってください:

1. 役割を適用するユーザをナビゲーション画面の[ユーザ] タブで選択します。
2. [アクセス] タブをクリックして、アクセス グループを選択します。
[コンポーネント詳細] 画面に[権限] タブと[役割] タブが表示されます。
3. [役割] タブをクリックし、[追加/削除] ボタンをクリックします。
[役割の割り当て] ダイアログ ボックスが表示されます。

注: グループ内のユーザの場合は、この手順をグループ レベルで実行する必要があります。グループ レベルで役割を割り当てると、そのグループ内のすべてユーザが影響を受けます。

4. 矢印ボタンを使用して、割り当てる役割を[以下に存在/以下に作成] 列に移動します。
5. [OK] をクリックします。

役割が手順 2 で選択したアクセス グループに自動的に割り当てられます。

スーパーユーザの作成

OneClick 管理者として、付与可能なすべての権限とアクセス権を任意のユーザに簡単に付与できます。CA Spectrum のスーパーユーザは、OneClick 内で使用可能な CA Spectrum ライセンス役割、権限およびアクセス権をすべて所有しています。アクセス グループと権限役割はスーパーユーザに適用されないため、スーパーユーザに指定されたユーザを OneClick で選択すると、[アクセス] タブは無効になります。

CA Spectrum のインストール時、作成された最初の CA Spectrum ユーザがスーパーユーザです。この初期ユーザ（インストール所有者ユーザと呼ばれることもあります）は、スーパーユーザのままで、CA Spectrum に常に存在する必要があります。SpectroSERVER が起動するごとに、このアカウントの存在が確認されます。`$SPECROOT/SS/.vnmrc` ファイル内の `initial_user_model_name` 設定の値には、初期 CA Spectrum スーパー ユーザの設定が格納されます。初期ユーザのデフォルト パスワードは「spectrum」です。

注: ユーザを管理するために、ユーザ管理権限を持つ管理者ユーザを作成することを検討してください。OneClick をインストールしたユーザ（初期ユーザ）に加え、このユーザが初期ユーザのアカウントを管理することもできます。OneClick 管理者に付与可能なすべての権限を付与するには、その管理者（ユーザ）の [スーパーユーザ] の値を **true** にします。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [ユーザ リスト] からユーザを選択します。
[詳細] タブは、ユーザ アカウントに関する情報を表示します。
2. [スーパーユーザ] フィールドの [設定] をクリックし、リストから [はい] を選択します。
3. Enter キーを押します。
ユーザ アカウントがスーパーユーザになりました。

LDAP 設定によるユーザ アクセスの管理

LDAP を認証に使用する環境の場合、LDAP ディレクトリに存在しない OneClick ユーザからのローカル ログインを許可したり、制限したりすることができます。たとえば、LDAP へのアクセス権のない非正規従業員で、サポート、トレーニング、トラブルシューティングを提供するユーザは、OneClick へのログイン アクセスを必要とします。

注: OneClick でパスワードを設定されているスーパー ユーザは、この設定にかかわらずローカルにログインできます。

次の手順に従ってください:

1. 編集するユーザまたはユーザ グループをナビゲーション画面の [ユーザ] タブで選択します。
2. そのユーザまたはユーザ グループのコンポーネント詳細画面の [詳細] タブに移動します。

3. LDAP 設定サブビューを展開します。
4. LDAP パスワードが無効な場合、またはユーザが存在しない場合でも、ユーザのログインを許可するオプションを「はい」に設定します。

注: セキュリティ上の理由で、LDAP ユーザ パスワードは CA Spectrum データベースに保存することをお勧めします。LDAP パスワードが無効か、ユーザが LDAP に存在しない場合にユーザのログインを許可するオプションが有効な場合、CA Spectrum データベースに対するユーザ認証に LDAP パスワードを使用できます。

非 LDAP ユーザは、指定された LDAP ディレクトリ内に存在しない場合でも、OneClick にログインできます。このオプションを [いいえ] に設定すると、LDAP アカウントを持たないユーザはログインできなくなります。

重要: LDAP が [ユーザ パターン] で検索できるように設定されている場合、検索中に一致が見つからないと、ログイン試行は失敗します。そのような場合は、[ユーザ検索] によって認証できるよう LDAP が設定されていることを確認します。

ユーザまたはユーザ グループに表示される詳細の変更

コンポーネント詳細画面からユーザまたはグループの属性を変更できます。

次の手順に従ってください:

1. 編集するユーザまたはユーザ グループをナビゲーション画面の [ユーザ] タブで選択します。
2. そのユーザまたはグループのコンポーネント詳細画面の [詳細] タブに移動します。
3. [設定] リンクを使用して、既存のユーザまたはグループのパスワードやセキュリティ文字列などの属性を編集します。

ユーザまたはグループに割り当てられたライセンスの変更

新規ユーザ アカウントのデフォルト設定には、オペレータ権限を付与するオペレータ ライセンスが含まれています。ユーザ管理、ディスカバリ、モデリングなどの管理タスクを OneClick で実行するには、追加の管理者権限が必要です。デフォルトのオペレータ ライセンスは、管理者権限を提供しません。

管理者ライセンスは、以下の OneClick 管理タスクの実行に必要な権限を付与します。

- ユーザ管理
- コレクション管理
- ディスカバリ
- トポロジ編集
- パイプ管理
- モデルの作成および破棄
- 検索管理

管理者権限の必要なユーザアカウントを設定する場合は、そのアカウントに管理者ライセンスを割り当てる必要があります。管理者ライセンスの割り当ては、以下の画面に示すように、コンポーネント詳細画面の［ライセンス］タブの［追加/削除］ボタンをクリックして行います。

名前 ▲	メンバー
Administrator	
Operator	✓
Service Manager	

ユーザがログインすると、そのユーザは使用可能なライセンスのプールから割り当てられたライセンスを使用します。たとえば、オペレータライセンスと管理者ライセンスの両方を持つユーザがログインすると、いずれかのライセンスが使用されます。

ユーザまたはユーザグループに割り当てられるライセンスを変更できません。

次の手順に従ってください:

1. 編集するユーザまたはユーザグループをナビゲーション画面の［ユーザ］タブで選択します。
2. コンポーネント詳細画面の［ライセンス］タブをクリックします。
3. ［追加/削除］ボタンをクリックして、このユーザまたはグループのライセンスを選択します。

ユーザのランドスケープの変更

分散 CA Spectrum 環境では、ユーザおよびグループのランドスケープ メンバシップを変更することができます。コンポーネント詳細画面の [ランドスケープ] タブを使用します。分散環境では、各々が独自の CA Spectrum ランドスケープを持った SpectroSERVER が複数存在します。OneClick ユーザが追加の CA Spectrum ランドスケープにアクセスするには、そのランドスケープのメンバである必要があります。

以下の画面は、架空の admin-west ユーザの [ランドスケープ] タブを示しています。このタブは、既知の CA Spectrum ランドスケープごとに、その状態と名前を表示します。[メンバ] 列のチェック マークは、ユーザが存在するランドスケープを示します。

admin-west - タイプ: User		
詳細 ライセンス ランドスケープ		
追加 / 削除... 表示		1 件中 1 件を表示中
状態	名前 ▲	メンバ
 稼働中	g11n833-v71 (0x1f400000)	☒

ヒント

- 「ダウン」状態にあるランドスケープのメンバシップは編集できません。
- グループにユーザが含まれていない場合、ユーザ グループ ランドスケープのメンバシップを変更することをお勧めします。空のユーザ グループが目的のランドスケープのメンバになったら、ユーザをグループに追加します。

次の手順に従ってください:

1. コンポーネント詳細画面の [ランドスケープ] タブをクリックします。
2. [追加/削除] ボタンをクリックします。
3. このユーザまたはグループを含めるランドスケープを選択します。
4. [OK] をクリックします。

ユーザまたはユーザ グループの個々の権限の変更

ユーザとユーザ グループの権限は個別に追加および削除ができます。

次の手順に従ってください:

1. 選択したユーザのコンテンツ画面の [アクセス] タブに移動します。
2. 権限を変更するアクセス グループを選択します。
3. 選択したアクセス グループのコンポーネント詳細画面の [権限] タブに移動します。
4. [追加/削除] ボタンをクリックします。
5. [有効] チェックボックスをオンまたはオフにして、このアクセス グループの権限を有効または無効にします。

役割使用状況の特定と確認

ユーザ役割の検索、ユーザ役割が使用中かどうかの確認、およびその役割を使用しているユーザまたはユーザ グループの特定を行うことができます。ユーザ役割を削除する場合に、この情報を確認すると役に立ちます。使用中のユーザ役割は削除できません。ただし、そのユーザがまだ有効かどうかは確認できます。その後、有効でなくなったユーザまたはグループを役割から削除してから、役割自体を削除することができます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブをクリックします。
2. 「役割」フォルダを展開し、[すべての役割] をダブルクリックします。

注: もし入力を求められた場合は、ランドスケープ情報を入力します。

検索結果がコンテンツ画面に表示されます。 [使用中の役割] 列は、役割が現在使用されているかどうかを示します。使用中の役割には「はい」というハイパーリンクが張られます。

3. (オプション) この役割を使用しているユーザまたはユーザ グループを確認するには、[はい] をクリックします。

[使用中の役割] ダイアログ ボックスは、現在この役割を使用しているユーザおよびユーザ グループを表示します。

4. [閉じる] をクリックします。

[使用中の役割] ダイアログ ボックスを閉じます。

詳細情報:

[未使用のユーザ役割の削除 \(P. 92\)](#)

[役割の割り当て解除 \(P. 91\)](#)

役割の割り当て解除

必要に応じて、ユーザ グループとユーザからの役割を割り当て解除できます。

次の手順に従ってください:

1. 役割を削除するユーザまたはユーザ グループをナビゲーション画面の [ユーザ] タブで選択します。

2. コンテンツ画面の [アクセス] タブをクリックし、アクセス グループを選択します。

[コンポーネント詳細] 画面に [権限] タブと [役割] タブが表示されます。

3. [役割] タブをクリックして、[追加/削除] をクリックします。

[役割の割り当て] ダイアログ ボックスが表示されます。

注: グループ内のユーザの場合、この手順をグループ レベルで実行する必要があります。グループ レベルで役割をの割り当てを解除すると、そのグループ内のすべてユーザが影響を受けます。

4. 矢印ボタンを使用して、[以下に存在しない] / [以下から削除] 列に割り当て解除する役割を移します。

5. [OK] をクリックします。

この役割は、選択したアクセス グループから自動的に割り当てを解除されます。

未使用のユーザ役割の削除

ユーザやユーザグループが使わなくなったユーザ役割は削除できます。

次の手順に従ってください:

1. [削除する未使用のユーザ役割を見つけます](#) (P. 90)。

検索結果がコンテンツ画面に表示されます。使用中の役割は、[使用中の役割] 列内に [はい] というハイパーリンクが張られます。

2. 削除する未使用の役割を選択します。

3. [削除] をクリックします。

[削除の確認] ダイアログボックスが表示されます。

4. [はい] をクリックします。

ユーザ役割が削除されます。

ユーザグループへの既存ユーザの移動

既存ユーザをユーザグループに移動することができます。ただし、自分がログインしているユーザアカウントは移動できません。

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブまたは [ユーザリスト] タブで、ユーザを右クリックします。

2. [グループへ移動] をクリックします。

[ユーザグループの選択] ダイアログボックスが表示されます。

3. 移動先のグループを選択し、[OK] をクリックします。

ユーザグループからのユーザの削除

グループからユーザを削除する場合、ユーザは自動的に個別ユーザとして表示されます。グループからユーザを削除すると、そのユーザがユーザグループレベルから継承した権限はすべて失われます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ユーザ] タブで、ユーザを右クリックします。
2. [グループから削除] を選択します。

これで、ユーザがグループから削除されます。このユーザは、ナビゲーション画面の [ユーザ] タブの最上位の [ユーザ] グループの下に表示されます。

注: グループからユーザを削除したら、そのユーザに適切なアクセスグループおよび権限が割り当てられていることを確認してください。

ユーザまたはユーザグループの削除

ユーザおよびグループは、必要に応じて **OneClick** から削除できます。ユーザグループを削除すると、そのグループに含まれるすべてのユーザは、最上位の [ユーザ] ノードの下に編成されます。

重要: **OneClick** には、完全な権限を持ったデフォルトの管理者ユーザが含まれます。このユーザは、**SpectroSERVER** のインストール中に作成されたインストール所有者アカウントです。[ユーザ] タブからこのユーザを削除することはできません。ただし、[ロケータ] タブを使用して検索を実行した後に表示される [結果] リストから、このアカウントを削除することはできます。また、ユーザアカウントから、メインロケーションサーバのランドスケープを削除することで、このユーザを削除することもできます。このデフォルトの管理者ユーザは削除しないでください。このユーザを削除すると、他のすべてのユーザに対する **OneClick** にアクセスができなくなるなど、望ましくない結果が発生します。

ユーザまたはユーザグループを削除する方法

1. 削除するユーザまたはユーザグループを [ユーザ] タブで選択します。
2. 削除ボタン () をクリックします。

モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティコミュニティの使用について

セキュリティ コミュニティは、同じセキュリティ文字列を使用する特定のモデルおよびビューのセットへのユーザ アクセスを制限します。モデル上のセキュリティ文字列と一致するセキュリティ コミュニティのメンバーシップを持つユーザのみが、モデルにアクセスできます。セキュリティ コミュニティは、個々のユーザまたはユーザ グループに割り当てることができます。ユーザ グループ内のすべてのユーザは、そのグループに割り当てられたセキュリティ コミュニティの権限を継承します。

重要: デフォルトでは、セキュリティはモデルに適用されません。ユーザがモデルにセキュリティを適用するまで、**CA Spectrum ユーザ**は全員、そのモデルを参照できます。

ユーザ アクセスをモデルに制限するには、目的の権限をもつセキュリティ コミュニティを作成し、特定のユーザおよびユーザ グループを割り当てます。その後、それらのユーザが管理するモデルに、セキュリティ文字列を選択的に適用します。

コミュニティ名の表示制限

デフォルトでは、オペレータ読み取り専用権限役割は、ユーザがコミュニティ名を表示することを規制します。必要に応じて、特定のオペレータ読み取り専用ユーザに対して、この権限を有効にする必要があります。

[アクセス] タブおよび [権限] タブから、ユーザまたはユーザ グループのセキュリティ コミュニティ割り当てを表示、作成、編集、および削除することができます。

注: スーパー ユーザに対してセキュリティ コミュニティを設定することはできません。スーパー ユーザであるユーザを選択した場合、[アクセス] タブが無効になります。

モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティコミュニティの使用

データへのユーザ アクセスを管理するため、セキュリティ コミュニティを使用できます。[ユーザ] タブでは、コミュニティ名に対して現在割り当てられている権限を表示できます。

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブで、コミュニティ名に対する権限を表示するユーザまたはグループを選択します。
2. [アクセス] タブの [セキュリティ コミュニティ] リストでコミュニティ名を選択します。
3. コンポーネント詳細画面の [権限] タブで、[モデル管理]、[属性の表示]、[コミュニティ名] を選択します。

ユーザのビューにコミュニティ名を追加したり、ユーザのビューからコミュニティ名を削除することができます。

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブで、権限を表示しているコミュニティ名を変更するユーザまたはグループを選択します。
2. [アクセス] タブの [セキュリティ コミュニティ] リストで、ユーザアクセスを変更するコミュニティ名を選択します。
3. コンポーネント詳細画面の [権限] タブで [追加/削除] ボタンをクリックします。

[権限の追加/削除] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [モデル管理]、[属性の表示]、[コミュニティ名] をクリックします。
5. [有効] チェック ボックスをオンまたはオフにして、既存の権限を変更します。
6. [OK] をクリックします。
変更が実装されます。

また、コミュニティ名権限を追加する役割を作成することもできます。その後、ユーザまたはグループに新しい役割を割り当てる必要があります。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面で [ユーザ] タブをクリックし、セキュリティ コミュニティを割り当てるユーザまたはユーザ グループを選択します。
2. コンテンツ画面で [アクセス] タブをクリックします。
3. [アクセス] タブの [新規作成] ボタンをクリックします。
[新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 作成する新規セキュリティ コミュニティ名を入力します。
注: セキュリティ コミュニティの名前にはスペースを使用しないでください。
5. [追加] をクリックします。
6. 同じ権限を共有する追加のセキュリティ コミュニティを入力します。
7. [OK] をクリックします。
8. (オプション) [新規作成] ボタンを再度クリックして、今作成したセキュリティ コミュニティと同じ権限を共有しない、選択したユーザまたはユーザ グループ用のセキュリティ コミュニティを作成します。
新しいセキュリティ コミュニティが [アクセス] タブに表示されます。

特定のモデルまたはモデル タイプに対する新しいセキュリティ コミュニティの割り当てと組み合わせて、以下の手順を実行します。セキュリティ コミュニティは割り当てられるまで、**OneClick** でのデータ アクセスを提供することもなければ制限することもあります。また、作成したセキュリティ コミュニティに権限または権限役割を割り当てことです。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面で [ユーザ] タブをクリックし、セキュリティ コミュニティを割り当てるユーザまたはユーザ グループを選択します。
2. コンテンツ画面で [アクセス] タブをクリックします。
3. 編集するセキュリティ コミュニティを選択します。
4. [アクセス] タブの [編集] ボタンをクリックします。
[編集] ダイアログ ボックスが表示されます。

5. 以下のいずれかの操作を実行します。

- 選択したセキュリティ コミュニティにエントリを追加するには、最初のフィールドに新しいエントリ名を入力して [追加] ボタンをクリックします。
- 選択したセキュリティ コミュニティからエントリを削除するには、リストからエントリを選択して [削除] ボタンをクリックします。
- 選択したセキュリティ コミュニティの既存エントリを変更するには、リストからエントリを選択します。最初のフィールドのセキュリティ コミュニティ エントリを変更して、[変更] ボタンをクリックします。

6. [OK] をクリックします。

選択したセキュリティ コミュニティに対する変更が [アクセス] リストに表示されます。

前の手順で加えた変更を有効にするには、変更対象のセキュリティ コミュニティが、モデルにすでに適用されているセキュリティ文字列属性と一致する必要があります。または、セキュリティ コミュニティが、全体的なデバイス アクセスおよびセキュリティ ポリシーの一部として適用するセキュリティ文字列属性と一致する必要があります。

ユーザまたはユーザ グループのセキュリティ コミュニティ割り当てを削除する方法

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面で [ユーザ] タブをクリックし、セキュリティ コミュニティを削除するユーザまたはユーザ グループを選択します。
2. コンテンツ画面で [アクセス] タブをクリックし、削除するセキュリティ コミュニティを選択します。
3. [アクセス] タブの [削除] ボタンをクリックし、[はい] をクリックして選択を確認します。

選択したユーザまたはユーザ グループの [アクセス] タブからセキュリティ コミュニティが削除されます。このユーザまたはユーザ グループは、関連するモデルにアクセスすることができなくなります。

[クライアント詳細]ページからのユーザの管理

[OneClick クライアント詳細] ページでは、管理者は、以下のユーザ管理タスクを実行できます。

- ログインしているクライアントへのメッセージ送信
- 選択したユーザを管理者がログオフすることによる OneClick ライセンスの管理。

注: このページは最新のクライアント情報に自動的に更新されません。最新情報を確実に表示するには、Web ブラウザの再ロード機能を使用して、ページを再ロードしてください。

[クライアント詳細]ページを表示する方法

1. Web ブラウザで `http://<webserver>/spectrum/index.jsp` に移動します。
OneClick ホーム ページが表示されます。
2. [クライアント詳細] リンクをクリックします。
[クライアント詳細] ページが表示され、[ログオン クライアント] テーブルが表示されます。

[クライアント詳細]ページを使用してクライアントにメッセージを送信する方法

1. [ログオン クライアント] テーブルで、メッセージを送信するクライアントのユーザ名の横のチェックボックスをオンにして、[メッセージの送信] をクリックします。
[メッセージの入力] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. メッセージを入力して [送信] をクリックします。
ユーザのメッセージは、選択したクライアントに送信されます。

[クライアント詳細]ページを使って、クライアントをログオフする方法

1. [ログオン クライアント] テーブルで、ログオフするクライアントのユーザ名の横のチェックボックスをオンにして、[クライアントのログオフ] をクリックします。

確認ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [OK] をクリックします。

クライアントがログアウトされます。クライアントは、クライアントのログオフを実行した管理者を示すメッセージを受信します。

注: オペレータ [クライアント詳細] ページにもアクセスできますが、表示またはログオフできるのは、オペレータ自身のクライアントだけです。

同時ユーザ ログイン制限による OneClick ライセンスの管理

ユーザが OneClick クライアントを起動するたびに、そのクライアントは、ユーザに割り当てられた各 OneClick ライセンスのインスタンスを 1 つ使用します。デフォルトでは、OneClick ユーザは、単一のログイン認証情報を使用して、クライアントを無制限に起動できます。その結果、単一ユーザが他のクライアントを終了せずに、クライアントを繰り返し起動することにより、使用可能な OneClick ライセンスをすべて使用する可能性があります。

CA Spectrum 管理者は、ユーザまたはユーザ グループが一度に使用できる同時 OneClick ライセンスの数を制限できます。複数のユーザの間で使用可能な OneClick ライセンスを分配できます。さらに、最大ログイン回数をゼロに設定すれば、ユーザ アカウントを削除することなく、ユーザを効果的にロックアウトすることができます。

ユーザおよびユーザ グループ レベルの両方で、最大ログイン制限を設定できます。最大のログインの値は、ユーザ グループから継承されません。ユーザとグループに対して別の値を管理するために CA Spectrum が使用するプロセスには、ユーザの最大ログイン数の検証が含まれます。その数を超えている場合、メッセージが表示されます。そうでない場合、CA Spectrum は関連するユーザ グループに対して指定された最大のログイン数を確認します。そのため、グループ内のユーザは全員、最大値に到達するまで何回でもログインできます。グループ内のすべてのユーザの数の合計は、グループ合計を超えることはできません。

デフォルトでは、ユーザまたはユーザ グループはライセンス数と同数のクライアントを起動できます。選択したユーザまたはユーザ グループのコンポーネント詳細画面の「詳細」タブで、最大ログイン回数の設定を変更できます。

ユーザの同時ログインを 1 回に制限する方法

1. 「ユーザ」タブで選択された任意のユーザのコンポーネント詳細画面の「詳細」タブに移動します。
2. 「最大ログイン回数」フィールドで「設定」をクリックします。
3. 「1」と入力し、「保存」をクリックします。

これでこのユーザは、同時ログイン数が 1 に制限されます。

ユーザによる OneClick クライアントの起動を制限する方法

1. 「ユーザ」タブで選択された任意のユーザのコンポーネント詳細画面の「詳細」タブに移動します。
2. 「最大ログイン回数」フィールドで「設定」をクリックします。
3. 「0」と入力し、「保存」をクリックします。

このユーザは OneClick クライアントを起動できなくなりました。

ユーザが OneClick クライアントを無制限に起動できるようにする方法

1. 「ユーザ」タブで選択された任意のユーザのコンポーネント詳細画面の「詳細」タブに移動します。
2. 「最大ログイン回数」フィールドで「設定」をクリックします。
3. 「無制限」をクリックします。

第 6 章: 追加の OneClick アプリケーションの設定

この章では、OneClick 管理者の観点から、OneClick での SPECTRUM アドオンアプリケーションの管理および設定について説明します。その他の SPECTRUM アプリケーションの管理および設定も含まれます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick でのサービス パフォーマンス マネージャ \(SPM\) のデータ エクスポート パラメータの設定 \(P. 101\)](#)

[\[トポロジ\] タブのコンテンツの Web ページでの表示 \(P. 102\)](#)

OneClick でのサービス パフォーマンス マネージャ (SPM) のデータ エクスポート パラメータの設定

デフォルトでは、OneClick で SPM データ エクスポートが無効になっています。OneClick で SPM データのエクスポートを設定するには、SPM データ エクスポート ログ記録を有効にします。データが各ログ ファイルに書き込まれる期間を設定します。次に、出力ログ ファイル用のディレクトリを作成し指定します。指定した間隔が経過すると、ファイルが保存され、最新の結果データを格納する新しいファイルが作成されます。デフォルトでは、SPM データ エクスポートを有効にすると、60 分間のデータがキャプチャされてから、SPM ログ ファイルを保存して閉じ、新しいファイルを開きます。

注: デフォルトでは、SPM データ エクスポートを有効にすると、OneClick は SPM データ ファイルを /tmp ディレクトリに保存しようとします。まず /tmp ディレクトリを作成するか、または SPM ログ ファイル用の別の場所を作成する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. OneClick ホーム ページで [管理] をクリックします。
[管理ページ] が開きます。

2. 左側上でリストで [SPM データ エクスポート] をクリックします。
[SPM データ エクスポートの設定] ページが表示されます。
3. [SPM データ エクスポート有効] で [はい] をクリックします。
4. [ログ ファイル サイクル 時間 (分)] で、現在の SPM ログ ファイルを保存して閉じ、新しいログ記録用ファイルを開くまでの合計時間を分単位で入力します。このログ記録間隔のデフォルト値は 60 分です。
5. [ログ ファイル ディレクトリ] で、OneClick が SPM ログ ファイルを格納するディレクトリの完全修飾ファイルパスを入力します。
注: OneClick がデータ ファイルを保存するためのディレクトリ構造を作成してください。デフォルトでは、OneClick はデータ ファイルを /tmp に保存しようとするため、このディレクトリが存在しない場合は最初に作成する必要があります。
6. [ランドスケープ フィルタ] については、OneClick が分散環境でデータをエクスポートする CA Spectrum ランドスケープを指定します。左矢印を使って、データのエクスポート元のランドスケープを [ランドスケープの表示] リストに移動します。データのエクスポート元ではないランドスケープを、[ランドスケープを非表示] リストに移動します。デフォルトでは、使用可能なランドスケープがすべて含まれます。
7. [保存] をクリックします。
変更をコミットし、OneClick Web サーバを再起動するよう要求されます。変更を有効にするには、OneClick Web サーバを再起動する必要があります。
8. [OK] をクリックします。
変更内容が保存され、OneClick Web サーバが再起動されます。

詳細情報:

[\[SPM データ エクスポート\] ページ](#) (P. 63)

[トポロジ]タブのコンテンツの Web ページでの表示

トポロジアプレットを使用して、[トポロジ] タブのコンテンツを Web ページから使用することができます。トポロジを表示するコンテナベースのモデルハンドルを指定します。

注: [属性] タブから使用するコンテナのモデルハンドルを決定できます。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

[トポロジ] タブのコンテンツを Web ページに表示するには、以下の URL を Web ブラウザに入力します。

`http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/topology.applet?mh=<model handle>`

`<model handle>`

トポロジを表示するコンテナベースのモデルハンドルを指定します。

指定した [トポロジ] タブの一部に、この Web ページからアクセスできるようになりました。ここから別のコンテナをたどったり、開始点に戻ったりすることができます。

既存の Web ページ内に [トポロジ] タブのコンテンツを表示するには、以下のいずれかを実行します。

- 以下のように **iFrame** を使用して、トポロジアプレットを Web ページに組み込みます。

```
<iframe  
src="http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/topology.applet?mh=<model  
handle>" width="830" height="530"/>
```

```
    Your browser does not support embedded objects, <a  
href="http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/topology.applet?mh=<model  
handle>"> click here</a>to go to included content.
```

```
</iframe>
```

注: この方法は、Internet Explorer ブラウザに最適です。

- iframes を使用しないようにするために以下の構文を使用して、Web ページにトポロジ アプレットを埋め込みます。

```
<div>

<object
data="http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/topology.applet?mh=<model
handle>" type="text/html" width="830" height="530">

    Your browser does not support embedded objects, <a
href="http://<hostname>:<portnumber>/spectrum/topology.applet?mh=<model
handle>"> click here</a>to go to included content.

</object>

</div>
```

注: この方法は、Firefox ブラウザに最適です。

指定した [トポロジ] タブの一部に **Web** ポートレットでアクセスできるようになりました。ここから別のコンテナをたどったり、開始点に戻ったりすることができます。

第 7 章: OneClick のモデル セキュリティ

この章では、モデルセキュリティと OneClick での設定方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick でモデルの安全を確保する方法 \(P. 105\)](#)

[セキュリティ文字列を使用したモデルリング エLEMENT の保護 \(P. 106\)](#)

[セキュリティ文字列継承をカスタマイズする方法 \(P. 108\)](#)

[モデルセキュリティ シナリオ \(P. 111\)](#)

OneClick でモデルの安全を確保する方法

OneClick のモデルセキュリティを使用して、モデルへのユーザ アクセスを制御できます。モデルにセキュリティ文字列を設定して、そのモデルを保護します。デフォルトでは、ユーザはすべてのモデルにアクセスできます。

以下のプロセスを使用して、OneClick のモデリング ネットワーク エLEMENT を保護します。

1. 保護するモデリング エLEMENT にセキュリティ文字列を適用します。たとえば、LAN コンテナのセキュリティ文字列を `lan1` に設定します。詳細については、「[セキュリティ文字列を使用したモデリング エLEMENT の保護 \(P. 106\)](#)」を参照してください。
2. 特定のユーザがその保護されたモデルにアクセスするためには、手順 1 でモデルに設定したセキュリティ文字列が、そのユーザ アカウントの [アクセス] タブ上のエントリに表示される必要があります。詳細については、「[モデルおよびデバイスへのユーザ アクセスを管理するためのセキュリティ コミュニティの使用 \(P. 94\)](#)」を参照してください。
3. 保護されたモデルにユーザがアクセスできないようにするには、そのユーザの [アクセス] タブでアクセス グループを変更します。詳細については、「[モデルセキュリティの実装シナリオ \(P. 111\)](#)」を参照してください。

詳細情報:

[セキュリティ文字列を使用したモデルリング エLEMENTの保護](#) (P. 106)

セキュリティ文字列を使用したモデルリング エLEMENTの保護

[アクセス] タブのエントリと一致しないユーザがモデルにアクセスできないようにするには、モデルにセキュリティ文字列を設定します。デフォルトでは、セキュリティ文字列は空です。

以下の手順は、モデルセキュリティを設定する基本手順です。以下が行われます。

- セキュリティ文字列でモデルを保護する
- 保護されたモデルに対してユーザがアクセスできるようにする
- 保護されたモデルに対して権限のないユーザがアクセスできないようにする

注: この手順は、モデリングされたELEMENTが既に **OneClick** 環境に存在することを前提としています。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. セキュリティで保護する、デバイス モデルなどのモデルリングされたELEMENTを、[トポロジ] タブで選択します。
2. コンポーネント詳細画面で [情報] タブをクリックします。
3. [CA Spectrum モデリング情報] サブビューを展開し、[セキュリティ文字列] フィールドで [設定] をクリックします。セキュリティ文字列を入力し、**Enter** キーを押します。

このセキュリティ文字列を持つ [アクセス] タブ エントリを持たないユーザが、このモデルにアクセスすることはできなくなりました。

4. この保護されたモデルにユーザがアクセスできるようにする方法
 - a. ナビゲーション画面の [ユーザ] タブでユーザを選択し、コンテンツ画面の [アクセス] タブをクリックします。
 - b. (オプション) アクセス グループを選択して [削除] をクリックすることで、ユーザが必要としなくなったアクセス グループを削除します。

注: ユーザ アカウントからアクセス グループを削除した場合、そのアクセス グループに割り当てられていたすべての権限も削除されます。
 - c. コンテンツ画面の [アクセス] タブにある [新規作成] をクリックします。

[新規アクセス グループ] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - d. 手順 3 のセキュリティ コミュニティを入力し、[OK] をクリックします。
5. このユーザに適切な権限があることを確認します。この手順を実行するには、追加したアクセス グループへの適切な権限を割り当てます。
 - a. アクセス グループを選択します。
 - b. 選択したアクセス グループの [権限] タブまたは [役割] タブで、このセキュリティ コミュニティに対してこのユーザに付与する権限を割り当てます。たとえば、オペレータ ユーザの場合は、[役割] タブを使用して **OperatorRW** 権限役割を割り当てることができます。

このユーザがログオンすると、ユーザが追加したアクセス グループ エントリと一致するセキュリティ文字列を持つモデルと、保護されていないすべてのモデルが、[トポロジ] タブに表示されます。このユーザには、このユーザ アカウントにアクセス可能なモデルを格納したコンテナ モデルも表示されます。

詳細情報:

[役割の作成とユーザまたはユーザ グループへの割り当て \(P. 83\)](#)

セキュリティ文字列継承をカスタマイズする方法

セキュリティ文字列継承をカスタマイズするには、以下のプロセスを使用します。

1. [セキュリティ文字列ロールダウンの関係を追加します](#) (P. 108)。
2. [モデルタイプに対して、セキュリティ文字列ロールダウンのオーバーライドを定義します](#) (P. 109)。

セキュリティ文字列ロールダウンの関係

CA Spectrum は、次の関係から、左のモデルから右のモデルにセキュリティ文字列をロールダウンします。

- Application
- Can_Assign
- CollectsChassis
- Collects
- Contains
- HASPART
- Manages
- Organizes
- Owns
- Provides

注: Model Type Editor を使って新しいモデルタイプを作成する方法の詳細については、「*Model Type Editor ユーザガイド*」を参照してください。

セキュリティ文字列がロール ダウンする新しい関係を追加する方法

1. SpectroSERVER が動作している場合は停止します。SpectroSERVER データベースにアクセス可能な他のプログラムが動作していないことを確認します。
2. CA Spectrum コントロール パネルを開き、[設定]、[Model Type Editor] をクリックします。

Model Type Editor が開きます。Root モデル タイプが、現在のモデル タイプとして設定されます。Root モデル タイプは、モデル タイプ階層で最も高いポイントのモデル タイプです。
3. [モデル タイプ] ビューで、Security_Model モデル タイプを検索します。
4. ベース モデル タイプが Security_Model である新しいモデル タイプを作成します。
5. 新しく作成されたモデル タイプで、「関係ハンドル」というタイプの新しい属性を追加します。
6. セキュリティ文字列をロール ダウンする関係の「関係ハンドル」に対する新規属性ごとに、デフォルト値を設定します。

モデル タイプに対する、セキュリティ文字列ロール ダウンのオーバーライドの定義

2 つのモデルのセキュリティ文字列を結合してセキュリティ文字列のロール ダウンを実行する場合、デフォルトでは AND 演算子が使われますが、関連付けの右側のモデル タイプに事前定義されたオーバーライドがある場合はその限りではありません。

CA Spectrum は、Container モデル タイプ用のオーバーライドを提供します。Container からモデル タイプを取得したセキュリティ関係の右側のモデルに対して、セキュリティ文字列をロール ダウンする場合は、OR 演算子を使用されます。このオーバーライドの唯一の例外は、WA_Link モデル タイプです。このモデル タイプは Container モデル タイプから取得されます。モデル タイプが WA_LINK であるセキュリティ関係の右側のモデルに対して、セキュリティ文字列のロール ダウンを実行する場合、AND 演算子を使用されます。

Model Type Editor でセキュリティ文字列ロール ダウン オーバーライドを定義します。

注: **Model Type Editor** の使用方法と、新しいモデル タイプの作成方法に関する詳細については、「**Model Type Editor ユーザ ガイド**」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. **SpectroSERVER** が動作している場合は停止します。**SpectroSERVER** データベースにアクセス可能な他のプログラムが動作していないことを確認します。
2. **CA Spectrum** コントロール パネルを開き、**[設定]**、**[Model Type Editor]** をクリックします。

Model Type Editor が開きます。**Root** モデル タイプが、現在のモデル タイプとして設定されます。**Root** モデル タイプは、モデル タイプ階層で最も高いポイントのモデル タイプです。

3. **[モデル タイプ]** ビューで、**Security_Model** モデル タイプを検索します。
4. ベース モデル タイプが **Security_Model** である新しいモデル タイプを作成します。

重要: 将来、**CA Spectrum** アップグレードをインストールする場合、**Security_Model** タイプへの変更が上書きされる可能性があるため、**Security_Model** モデル タイプを直接変更するのではなく、新しいモデル タイプを作成します。

5. 新しく作成したモデル タイプで、以下の手順に従います。
 - a. **Security_String_Mtypes** (0x12967) 属性のデフォルト値を変更し、オーバーライドの定義対象のモデル タイプを追加します。
 - b. **Security_String_Mtypes** 属性に追加されたモデルタイプに対するオーバーライド演算子(0 は AND にマッピングされ、1 は OR にマッピングされます) を定義する **Security_String_Operators** (0x12968) 属性のデフォルト値を変更します。 **Security_String_Operators** 属性内のインスタンス x の値は、**Security_String_Mtypes** 属性のインスタンス x の値によって識別されるモデル タイプに対するオーバーライド演算子になります。
6. 変更を保存し、**Model Type Editor** を閉じます。

注: **Security_Model** モデル タイプから取得したモデル タイプで定義されるオーバーライドは、**Security_Model** モデル タイプに対して直接定義されたオーバーライドよりも優先されます。

モデル セキュリティシナリオ

以下のシナリオは、簡単なモデル セキュリティの使用例と、複雑なモデル セキュリティの使用例です。

リモート オフィスにあるモデルをローカル ユーザから保護する

OneClick のセキュリティ文字列を理解できるように、次で簡単な例を説明します。

リモート オフィスにある 1 つのモデルを保護し、ローカル **OneClick** ユーザがアクセスできないようにします。モデルのセキュリティ文字列 (「remote」など) を設定することで、モデルを保護します。「remote」というエントリがあるアクセス グループに属していない非管理者ユーザは、そのモデルにアクセスできません。たとえば「local」というアクセス グループ エントリのみを持つユーザは、このモデルにアクセスできません。

支店ネットワークへの管理アクセスを保護する

OneClick のセキュリティ実装の例として、東海岸オフィスと西海岸オフィスを考えてみます。東海岸オフィスのネットワーク管理者は、OneClick の東海岸オフィスのネットワークへの読み書きアクセス権が必要です。西海岸ネットワークへの読み取り専用アクセス権も必要です。西海岸の管理者の場合はその逆になります。

以下の手順を用いて、この要件のソリューションを作成することができます。ニーズに合わせて変更することも可能です。

1. 2つのネットワークを表す2つの LAN コンテナを OneClick で作成します。1つの LAN コンテナには WEST、もう一方の LAN コンテナには EAST という名前を付けます。
2. 各コンテナにモデリングされた異なるネットワーク アセットを格納します。
3. 各 LAN コンテナにセキュリティ文字列を設定します。選択した LAN コンテナのコンポーネント詳細画面の「情報」タブで、以下の手順でセキュリティ文字列を設定します。
 - a. EAST LAN コンテナ用にセキュリティ文字列を EAST に設定します。その結果として、EAST というセキュリティ コミュニティが作成されます。



- b. WEST LAN コンテナ用にセキュリティ文字列を WEST に設定します。その結果として、WEST というセキュリティ コミュニティが作成されます。

これらのセキュリティ文字列は、LAN コンテナ レベルから、そこに格納されているモデルまで適用されます。コンテナ レベルで設定されたセキュリティ文字列は、格納されているすべてのモデルに自動的に設定されます。

完了すると、ナビゲーション画面の[エクスプローラ]タブは、OneClick 管理者ユーザに対して以下の画面のように表示されます。

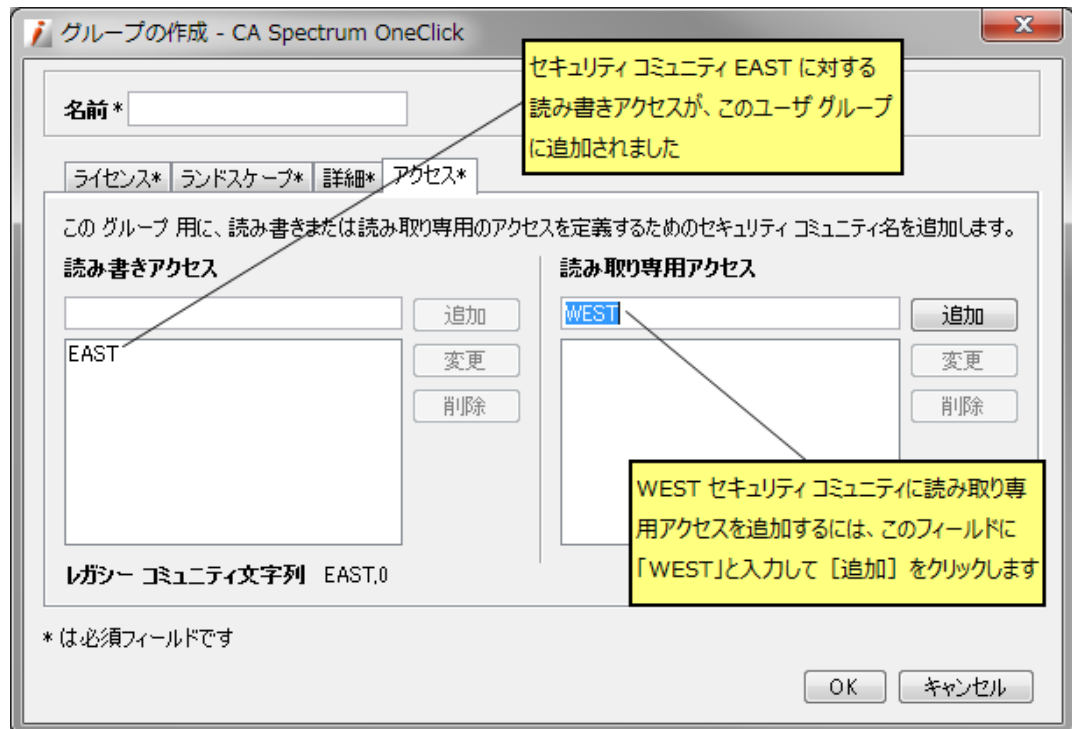
WEST および EAST LAN コンテナには、それぞれ WEST および EAST のセキュリティコミュニティのメンバが含まれています。

WEST LAN コンテナには、1.0.0.0 1 のルータのモデルが含まれています

EAST LAN コンテナには、10.100.10.0 のルータのモデルが含まれています

ナビゲーション			
エクスプローラ ロケータ ユーザ			
名前			
マイ SPECTRUM	9	6	25
お気に入り			
グローバル コレクション (1)			
グローバル コレクション階層			
Active Directory and Exchange Ser...			
elin833-v71 (0x1f400000)	9	6	25
WEST (1)			
1.0.0.0			
EAST (1)			
10.100.10.0			

4. 以下の手順で、**EAST** および **WEST** ネットワーク コンテナに対応するユーザ グループを作成します。
 - a. **EAST** ユーザ グループを作成します。[グループの作成] ダイアログ ボックスで、**EAST** セキュリティ コミュニティに対して読み書き権限を持つアクセス グループを作成します。



- b. **WEST** ユーザ グループを作成します。[グループの作成] ダイアログ ボックスで、**EAST** セキュリティ コミュニティに対して読み取り専用権限を持つアクセス グループを作成します。
5. **EAST** ユーザ グループ内にユーザを作成し、**WEST** ユーザ グループ内に別のユーザを作成します。

[アクセス] タブでは、アクセス グループ (セキュリティ コミュニティ) がユーザ グループ レベルから入力されることに注意してください (ユーザ レベルでは編集不可能)。
6. 変更をテストをするため、**WEST** ユーザ グループ内に作成したユーザとして **OneClick** にログインし、**EAST LAN** コンテナに移動します。

EAST LAN コンテナ内のモデルを表示する際、WEST ユーザグループ内のユーザには、以下の画面に示すように、管理者読み取り専用権限があります。たとえばこの画像では、このモデルのユーザが CA Spectrum モデリング情報の値を編集できないことが示されています。

ナビゲーション

エクスプローラ | ロケータ | ユーザ

名前

マイ SPECTRUM

お気に入り

グローバル コレクション (1)

グローバル コレクション/階層

Active Directory and Exchange ...

Cluster Manager

Configuration Manager (3)

IP Routing Manager

Policy Manager (1)

Service Performance Mana...

VPLS Manager

VPN Manager

e11n833-v71 (0x1f400000)

Chassis Manager (3)

Service Manager (3)

TopOrg

Universe (74)

WEST (1)

1.0.0.0

EAST (1)

10.100.10.0

10.10.11.0 (1)

10.253.3.36 (1)

10.253.3.44 (1)

10.253.3.48 (1)

10.253.11.0 (1)

10.253.11.4 (1)

10.253.15.0 (1)

10.253.15.4 (1)

10.253.101.0 (1)

10.253.253.24 (1)

10.253.253.28 (1)

190.119.0.0 (1)

コンテンツ: 10.100.10.0 - タイプ: Unplaced

アラーム | トポロジ | リスト | イベント | 情報

フィルタ基準: 重大度

重大度 | 日付/時刻 | タイプ | アラーム タイトル | ランドスケープ

コンポーネント詳細: 10.100.10.0 - タイプ: Unplaced

情報 | 根本原因 | インターフェース | パフォーマンス | ネットワーク | アラーム | イベント | 属性 | パス | デュ...

10.100.10.0

Unplaced

10.100.10.0

Unplaced

一般情報

CA Spectrum モデリング情報

SNMP コミュニティ文字列

ホーリング間隔 (秒) 60

ホーリング オン

DCM タイムアウト (ミリ秒)

DCM 再試行回数

プロキシ モデル

トラップ ベースのイベントの無効化

Telnet ポート

SSH ポート

エージェント ポート

セキュリティ文字列

ランドスケープ e11n833-v71 (0x1f400000)

作成時間 2013/06/15 0:22:03 JST

モデル タイプ名 Unplaced

デバイス タイプ

デバイス タイプのロック

モデル クラス Link

モデル クラスのロック

システム オブジェクト ID

仮想モデル

しきい値 および ウォッチ

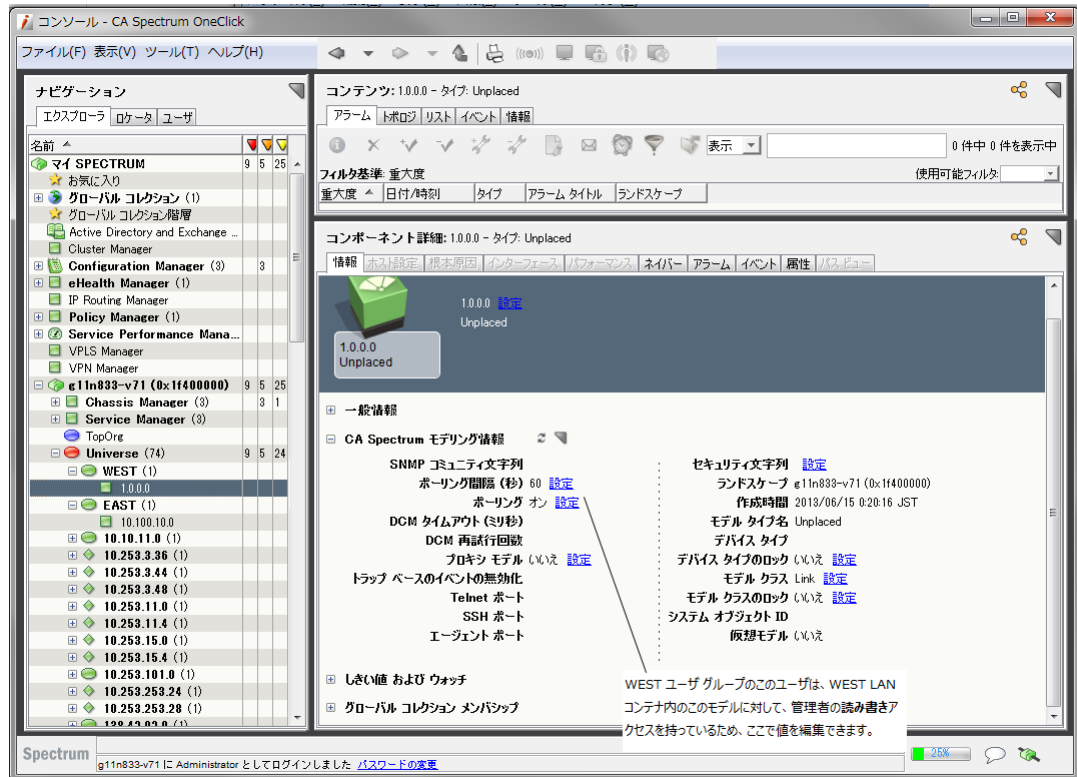
グローバル コレクション メンバシップ

WEST ユーザグループのこのユーザは、EAST LAN コンテナ内のこのモデルに対して、管理者の読み取り専用アクセスを持っているため、この値を編集できません。

Spectrum

g11n833-v71 に Administrator としてログインしました [パスワードの変更](#)

7. WEST LAN コンテナに移動します。以下の画面に示すように、WEST ユーザグループ内のこのユーザは、WEST LAN 内のモデルに対して管理者読み書き権限を持つことがわかります。この画像では、このモデルのユーザが CA Spectrum モデリング情報の値を編集できることが示されています。



8. EAST ユーザグループの内で作成されたユーザとして OneClick にログインし、WEST LAN コンテナに移動した場合、逆の状況が当てはまります。EAST ユーザグループ内のユーザは、WEST LAN コンテナ内のモデルに対して、管理者読み取り専用権限を持っています。また EAST LAN 内のモデルに対して、読み書き権限を持っています。

第 8 章：ユーザとグループの基本設定

この章では、OneClick の基本設定、および [基本設定] ダイアログ ボックスを使用してユーザおよびグループの基本設定を行う方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[\[基本設定\] ダイアログ ボックス \(P. 117\)](#)

[\[基本設定\] ダイアログ ボックスへのアクセス \(P. 118\)](#)

[基本設定の設定またはロックについて \(P. 119\)](#)

[ユーザ基本設定の設定またはロック \(P. 120\)](#)

[アラーム フィルタの基本設定 \(P. 121\)](#)

[基本設定のリセット \(P. 122\)](#)

[インポートとエクスポートの基本設定 \(P. 122\)](#)

[基本設定] ダイアログ ボックス

OneClick 内の基本設定は、OneClick コンソールの外観と、いくつかのユーザ インターフェース オプションの動作を制御します。たとえば、[基本設定] は、テーブルで使用されるフォント、およびユーザ インターフェース内の列のソート順序を制御します。OneClick 内のユーザおよびユーザグループ用の権限を設定したり、ユーザとグループに対して基本設定を設定することができます。詳細については、「[OneClick でのユーザ管理 \(P. 67\)](#)」を参照してください。管理者は、[基本設定] ダイアログ ボックスを使用して、複数のユーザおよびグループの基本設定を設定、ロック、および保存することができます。

注：OneClick のメインメニューから [表示] - [基本設定] を選択すると、現在ログオンしているユーザのユーザレベルの基本設定編集画面が表示されます。このメニュー項目からアクセスしていた [アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスは、[アラーム] ツールバーのボタン、または [基本設定] ダイアログ ボックス内から起動できます。

[基本設定] ダイアログ ボックスは、OneClick の環境設定を以下のタスクグループに編成しています。

- [アラーム] タブ
- [イベント] タブ

- [エクスプローラ] タブ
- 一般
- [インターフェース] タブ
- [リスト] タブ
- [ロケータ] タブ
- [トポロジ] タブ
- VPN マネージャ

ナビゲーション画面で最上位の基本設定グループを選択すると、編集に利用できる基本設定とツールがすべてコンテンツ画面に表示されます。ナビゲーション画面で基本設定または基本設定グループを選択すると、コンテンツ画面にその基本設定または基本設定グループが表示されます。

[基本設定] ダイアログ ボックスの左側の画面を使用して、選択されたユーザまたはユーザ グループの基本設定をロックすることもできます。ユーザおよびグループの基本設定を設定するコンテキストから [基本設定] ダイアログ ボックスを起動すると、[基本設定] ダイアログ ボックスでは、編集されているユーザまたはグループの名前がナビゲーション画面の下部に表示されます。

[基本設定]ダイアログ ボックスへのアクセス

[基本設定] ダイアログ ボックスにアクセスして、ユーザまたはユーザ グループの基本設定を行ったり、すべてのユーザの基本設定をグローバルに行うことができます。

ユーザまたはユーザ グループ

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブで、基本設定を行うユーザまたはユーザ グループを右クリックします。
2. メニューから [基本設定] を選択します。

[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

これで、ユーザまたはユーザ グループに対して基本設定を設定できます。

[すべてのユーザ](グローバル)

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブで最上位のユーザ グループを右クリックします。
2. メニューから [基本設定] を選択します。

[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

これで、すべてのユーザに対して基本設定を設定できます。

基本設定の設定またはロックについて

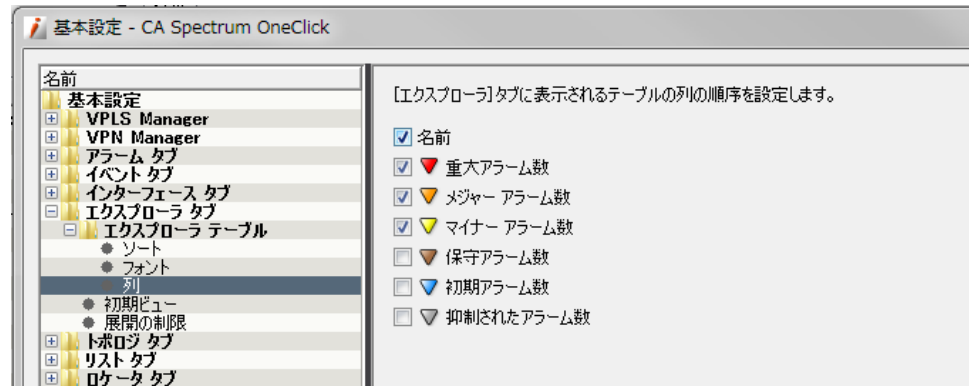
OneClick 管理者は、グローバル レベル (すべてのユーザ) またはユーザ グループ レベルで、ユーザの基本設定を設定してロックすることができます。ユーザが自分の基本設定をロックすることはできません。ユーザまたはグループの基本設定を設定してロックした場合、そのユーザまたはユーザ グループのメンバーは、その基本設定を変更することができません。

注: ロックされた基本設定は、ロックされたレベルでのみロック解除および編集できます。基本設定をグローバル レベルまたはユーザ グループ レベルでロックすると、ユーザ レベルでロック解除または編集することはできません。任意のユーザのコンテキストから [基本設定] ダイアログ ボックスが起動され、グローバル レベルまたはそのユーザのグループ レベルで基本設定がロックされた場合、管理者は基本設定の状態を変更できません。[ロック] チェック ボックスは無効状態です。

以下の OneClick 管理者権限が、ユーザおよびグループの基本設定を設定するアクセスを制御します。

- ユーザ基本設定権限によって、特定のユーザおよびグループの基本設定へのアクセス権が付与されます。この権限は、ユーザ/グループ モデルのセキュリティ文字列によって制御されます。詳細については、「[用語集 \(P. 151\)](#)」を参照してください。
- グローバル基本設定権限によって、グローバル レベルでの基本設定へのアクセス権が付与されます。

以下の図は、[エクスプローラ] タブの [アラーム数] 列の基本設定を示しています。これらの基本設定を編集して、ユーザ グループ管理用のアラームをすべて表示します。この基本設定はユーザ グループ レベルでロックされているため、このグループ内にこの基本設定を変更できるユーザはいません。ロックされた基本設定は、小さい錠前のアイコンで表示されます。



ユーザ基本設定の設定またはロック

ユーザまたはユーザ グループのユーザ基本設定を設定したり、ロックすることができます。

次の手順に従ってください：

1. [ユーザ] タブで目的のユーザまたはユーザ グループを右クリックして、[基本設定] をクリックします。
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. ナビゲーション画面の階層内で、設定する基本設定に移動します。
3. 右側の画面で、基本設定に対して必要な変更を行います。
4. 対応する基本設定をロックするには、[ロック] 列のチェック ボックスをオンにします。

基本設定グループをロックすると、そのグループに含まれるすべての基本設定もロックされます。[ロック レベル] 列には、基本設定がロックされているレベル（ユーザ、ユーザ グループ、またはすべてのユーザ）が表示されます。[ロック元] 列には、ロックした管理者ユーザが表示されます。

アラーム フィルタの基本設定

「アラーム フィルタ」ダイアログ ボックスは「アラーム」ツールバーのボタンから使用できるだけでなく、「アラーム」タブの「アラーム フィルタ」基本設定を使用して、「基本設定」ダイアログ ボックスから起動することもできます。右側の画面に「アラーム フィルタの設定」ボタンが表示されます。アラーム フィルタへのアクセスは、管理目的でロックできます。アラーム フィルタの基本設定をロックすると、「アラーム」ツールバーの「フィルタ」ボタンが使用できなくなります。

複数のアラーム フィルタを作成し、「アラーム フィルタ」ダイアログ ボックスの「使用可能フィルタ」ドロップダウン リストを使用して選択することができます。あるユーザまたはユーザ グループに対して使用可能なフィルタを設定してからロックすると、ユーザはフィルタを変更できなくても、使用可能フィルタの一覧から選択できるようになります。「使用可能フィルタ」ドロップダウン リストは、「アラーム」タブからも使用できます。

注: アラーム フィルタの作成の詳細については、「オペレータ ガイド」を参照してください。

また、他のユーザおよびユーザ グループに対して、アラーム フィルタの基本設定を個別にエクスポートすることもできます。エクスポートされたフィルタは、ユーザまたはユーザ グループの既存のフィルタに追加されます。既存のフィルタが置き換えられることはありません。アラーム フィルタを個別にインポートすることはできません。代わりに、インポート元のユーザまたはユーザ グループからすべてのフィルタが既存のフィルタに追加されます。これらのフィルタによって既存のフィルタが置き換えられることはありません。

注: 基本設定を一括でエクスポートする場合、アラーム フィルタだけをすべてエクスポートできます。基本設定を一括でエクスポートする場合、アラーム フィルタを個別に選択することはできません。フィルタは既存のフィルタに追加されます。既存のフィルタが置き換えられることはありません。

基本設定のリセット

〔基本設定〕ダイアログボックスの〔デフォルトにリセット〕ボタンを使用して、基本設定の値をデフォルトに戻すことができます。基本設定のリセットは、選択されたユーザまたはユーザグループに自動的に適用されます。基本設定をリセットすると、以下の動作が行われます。

- ユーザの場合、デフォルトは以下のとおりです。
 - ユーザがグループに属していて、そのグループの基本設定が設定されている場合、ユーザグループの設定
 - それ以外の場合、すべてのユーザに対してグローバル設定が設定されていれば、グローバル設定
 - それ以外の場合、出荷時の設定
- ユーザグループの場合、デフォルトは以下のとおりです。
 - すべてのユーザに対してグローバル設定が設定されていれば、グローバル設定
 - それ以外の場合、出荷時の設定
- すべてのユーザ（最上位のユーザノード）の場合、デフォルトは以下のとおりです。
 - 出荷時の設定

ロックされている基本設定はリセットできません。あるユーザの基本設定を変更しようとして、そのユーザのグループレベルでその基本設定がロックされている場合、その基本設定を編集、インポート、またはリセットすることはできません。

インポートとエクスポートの基本設定

基本設定は、ユーザまたはユーザグループからインポートし、他のユーザおよびユーザグループにエクスポートすることができます。

次の手順に従ってください:

1. [ユーザ] タブで目的のユーザまたはユーザ グループを右クリックし、[基本設定] をクリックします。

[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. インポートまたはエクスポートする基本設定を選択します。

基本設定グループを選択すると、そのグループに含まれる基本設定がすべて選択されます。最上位レベルの [基本設定] フォルダを選択すると、すべての基本設定が選択されます。

3. 以下のいずれかの手順を実行します。

- 基本設定をインポートするには、[インポート] をクリックします。
- 基本設定をエクスポートするには、[エクスポート] をクリックします。

4. インポートまたはエクスポートする基本設定がダイアログ ボックスで選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

[ユーザ/グループの選択] ダイアログ ボックスに、選択可能なユーザとユーザ グループが表示されます。

- 基本設定をエクスポートするときは、エクスポート先のユーザまたはユーザ グループを選択します。最上位のユーザ ノードを選択すると、すべてのユーザ (グローバル) が指定されます。基本設定をエクスポートするときは、ユーザ基本設定権限を持つユーザ/グループのみが表示されます。グローバル基本設定権限を持たない場合、最上位の [ユーザ] ノードは表示されません。
- 基本設定をインポートするときは、インポート元の単一のユーザまたはグループを選択します。
- インポートとエクスポートのどちらでも、表示権限を持つユーザおよびユーザ グループのみが表示されます。

注: インポートとエクスポートのどちらの場合でも、各基本設定のロック ステータスも転送されます。たとえば、別のユーザからロックされた基本設定をインポートすると、ターゲット ユーザでも基本設定はロックされます。上位レベルでロックされた基本設定をターゲット ユーザ/グループに対してエクスポートした場合、基本設定は保存されません。

第 9 章：検索の管理

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[検索について](#) (P. 125)

[\[検索の作成\] ダイアログ ボックス](#) (P. 126)

[簡易検索の作成](#) (P. 131)

[詳細検索の作成](#) (P. 132)

[カスタム検索への既存検索の追加](#) (P. 134)

[検索に関する推奨事項](#) (P. 136)

[検索の編集](#) (P. 138)

[カスタム検索の削除](#) (P. 138)

[カスタム検索の編成](#) (P. 139)

[検索例：クリティカル状態のデバイスの検索](#) (P. 140)

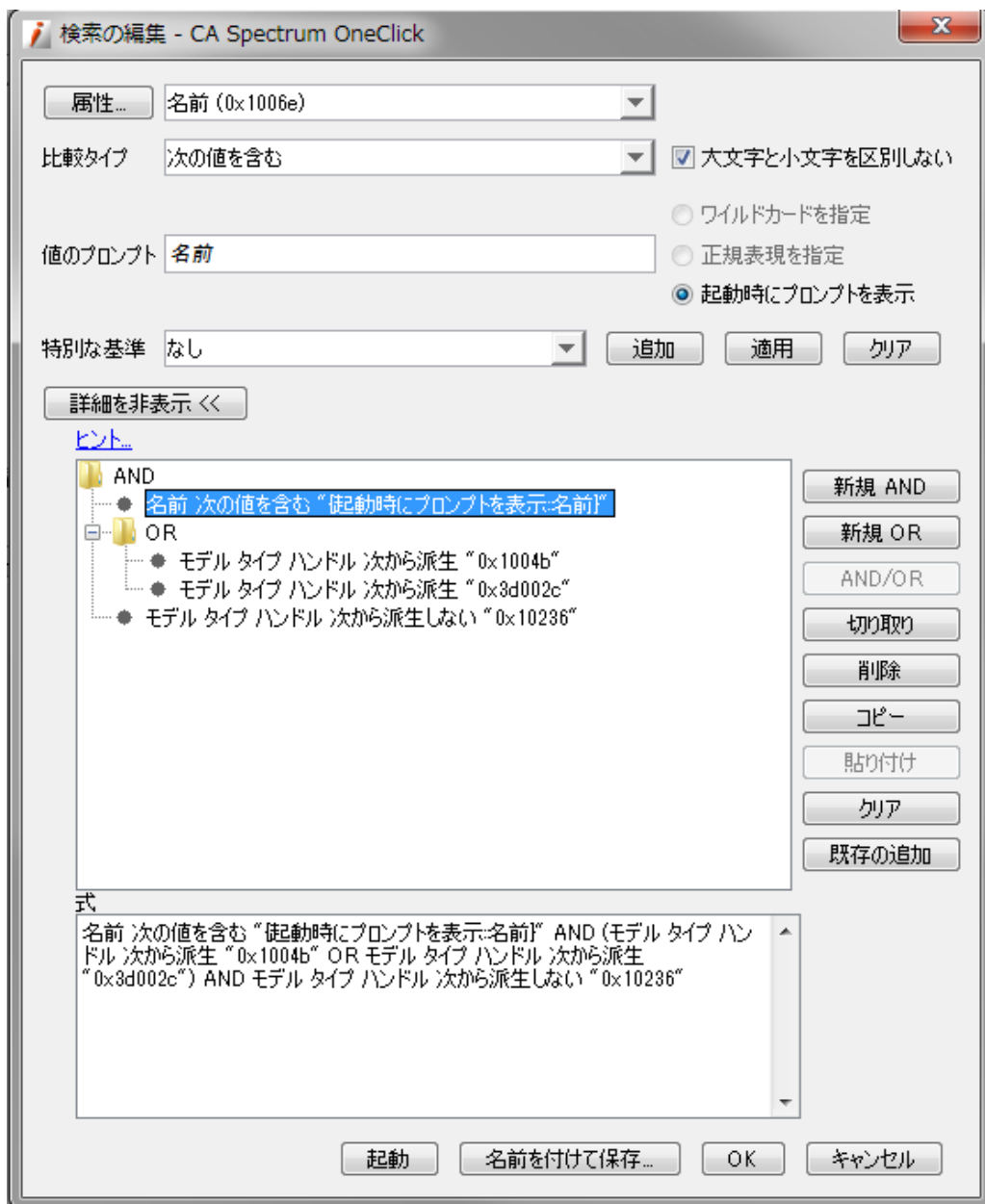
検索について

属性値およびさまざまな比較条件に基づいて、カスタム検索を作成できます。この章では、カスタム検索の作成および管理の方法について説明します。一般的にこれらの検索管理タスクは、OneClick オペレータではなく OneClick 管理者のみに付与された権限です。

注：OneClick オペレータは検索を作成および管理することはできませんが、検索を実行することはできます。オペレータによる検索の使用方法に関する詳細については、「オペレータ ガイド」を参照してください。

[検索の作成]ダイアログ ボックス

[検索の作成] ダイアログ ボックスには、単純な検索と複雑な検索を作成するためのオプションと設定が複数含まれます。次の画像は、[検索の作成] ダイアログ ボックスの例を示しています。



[検索の作成] ダイアログ ボックスで使用可能なオプションおよび設定は、作成している検索のタイプに依存します。

属性

フィルタするデバイスの属性を指定します。

注: 英字の属性値を選択した場合、[大文字と小文字を区別しない] チェック ボックスをオフにする（区別する）ことも、オンにする（区別しない）こともできます。

比較タイプ

[属性] フィールドで指定された値に対して行う比較のタイプを指定します。 オプションには [パターンに一致]、[次の値と等しい]、[次の値と等しくない]、[次の値を含む]、[指定の語句を含まない]、[指定の語句で始まる] または [指定の語句で始まらない] を指定できます。属性のデータ タイプに適した比較タイプのみが選択可能です。

大文字と小文字を区別しない

比較で大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。 [大文字と小文字を区別しない] チェック ボックスをオンにすると、比較で大文字と小文字が区別されません。この選択は、選択した属性のデータ タイプに該当する場合にのみ選択できます。

属性値

比較で使用する属性値を入力または選択します。

注: 選択した属性タイプによっては、このフィールドを空のままにすることで、空の属性値を検索することができます。

ワイルドカードを指定

ワイルドカードを使用して、値を検索することを指定します（[パターンに一致] 比較タイプにのみ使用可能）。以下のワイルドカードを使用できます。

*

任意の文字数の文字と一致します。

たとえば、'`switc*`' は '`switch`' も '`switch-router`' も返します。

?

任意の 1 文字と一致します。

たとえば、'`switc?`' は、'`switch`' を返しますが、'`switch-router`' を返しません。

両方のワイルドカードは、任意の場所で任意の組み合わせで使用し、ワイルドカードと一致するものがないか検索できます。

正規表現を指定

「テキスト文字列」タイプの属性で Perl 互換正規表現（PCRE）照合を使用して検索を作成することを指定します（「パターンに一致」比較タイプでのみ利用できます）。PCRE 照合を使用すれば、既存の検索またはワイルドカード検索の場合よりも高度な特定のパターン検索を使用してモデルを見つけグループ化することができます。

注: PCRE の作成方法の詳細については、<http://www.pcre.org> を参照してください。

注: オペレータによる正規表現の検索を制限する場合は、オペレータの[PCRE 検索を許可]権限を削除します。この権限を持たないオペレータは、適用可能な検索に対してのみ、ワイルドカード検索を実行できます。

値のプロンプト/起動時にプロンプトを表示

検索実行時に属性値を入力するようユーザにプロンプトする検索を作成するには、[起動時にプロンプトを表示] チェック ボックスをオンにして、表示するプロンプトを[値のプロンプト] フィールドに入力します。この機能を使用すると、OneClick ユーザのさまざまな検索要件を満たす柔軟な検索を作成できます。

たとえば、以下の実装例を考えてみます。

- 特定のデバイス タイプを探す検索を作成する場合、検索実行時に特定のデバイス名を入力するようユーザにプロンプトする、文字列比較タイプ（指定の語句を含む、指定の語句を含まない、指定の語句で始まるなど）の検索を作成することができます。
- 特定の「状態」属性値を持つデバイス タイプを探す検索を作成する場合、検索実行時に特定の状態値を入力するようユーザにプロンプトする検索を作成することができます。

注： [クリア] ボタンをクリックして、いつでもフィールドをクリアすることができます。

特別な条件

以下のいずれかの方法で、検索条件を制限します。

なし

デバイスまたはデバイスのインターフェースだけを返すように、検索条件を制限しないことを指定します。

デバイスのインターフェース

結果リスト内で見つかったデバイスのインターフェースだけを返すことを指定します。

デバイスのみ

検索で、結果リスト内のデバイスだけを返すことを指定します。

詳細を表示

[検索の作成]ダイアログ ボックスの[詳細]セクションを開きます。
[検索の作成]ダイアログ ボックスの詳細セクションを使用して、ネストされた **AND** 句と **OR** 句を組み合わせることで複雑な検索基準を作成することができます。この検索基準は、論理演算子（**AND** および **OR**）ノードごとにグループ化されたツリー構造で表示されます。各論理演算子ノードには、任意の数の属性条件ノードとその他の論理ノードを含めることができます。1つの論理ノードの直下にあるすべてのノードは、その論理演算子を使用して組み合わせられます。

追加

新しい属性条件ノードを、[属性] フィールド、[比較タイプ] フィールド、[属性値] フィールドに入力した情報とともに、選択された **AND** ノードまたは **OR** ノードに追加します。

適用

[属性] フィールド、[比較タイプ] フィールド、[属性値] フィールドに入力された情報を、選択された属性条件ノードに適用します。

新規 AND

新しい **AND** 演算子ノードを選択された **AND** ノードまたは **OR** ノードに追加します。

新規 OR

新しい **OR** 演算子ノードを選択された **AND** ノードまたは **OR** ノードに追加します。

AND/OR

選択された **AND** ノードまたは **OR** ノードを切り替えます。つまり、論理演算子が現在 **AND** であれば、このボタンをクリックすると **OR** に変更され、論理演算子が現在 **OR** であれば、このボタンをクリックすると **AND** に変更されます。

切り取り

選択されたノードを削除します。切り取られたノードは、別のノードの下に貼り付けることができます。

貼り付け

最後に削除されたノードを、選択された **AND** ノードまたは **OR** ノードの下に貼り付けます。

クリア

ルート ノードの下にあるすべてのノードを削除します。

既存の追加

(オプション) ユーザのカスタム検索に、既存の属性に基づく検索、操作に基づく検索、または関係に基づく検索を追加します。

注: カスタム検索に既存の検索を追加すると、既存の検索がコピーされ、それがカスタム検索に埋め込まれます。後で既存の検索を変更しても、ユーザのカスタム検索は変更されません。これは、ユーザのカスタム検索に既存の検索をコピーして追加した時点での既存の検索のコピーだけがそのまま、保存されているためです。

式

検索条件の作成時に、そのテキスト表現を表示します。

簡易検索の作成

AND 句および OR 句の組み合わせなどの複雑な条件を使用する検索を作成できます。簡易検索は、式を 1 つだけ含む検索です。また、後で使用できるように検索を保存し、フォルダで整理することもできます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブを選択します。
2. [ロケータ] タブで以下のいずれかの操作を行います。
 - 空のテンプレートから新しい検索を作成する場合は、 (新しい検索の作成) をクリックします。
 - 既存の検索に基づいて新しい検索を作成する場合は、検索を選択して、 をクリックします (選択した検索のコピー)。

注: 一部の検索はコピーすることができないため、別の検索のベースとして使用することはできません。たとえば、[デバイス] > [IP アドレス] はコピーできません。ただし、新しい高度な検索を作成し、事前定義した任意の検索条件をその検索にコピーすることは可能です。詳細については、「[カスタム検索への既存検索の追加 \(P. 134\)](#)」を参照してください。

[検索の作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [必要に応じて、ダイアログ ボックスのフィールドに入力します \(P. 126\)](#)。
4. [名前を付けて保存] ボタンをクリックします。

[検索の保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 検索の名前と説明を入力します。
6. (オプション) 特定のカスタム権限を持っているユーザに対して、検索のアクセスを制限する場合は、適切な権限を選択します。権限は、ユーザに直接割り当てることも、役割またはユーザ グループから継承することもできます。

注: カスタム権限の詳細については、「[OneClick カスタマイズガイド](#)」を参照してください。
7. 検索するフォルダを選択します。

注: [ロケータ] フォルダは最上位フォルダです。

8. [OK] をクリックします。
検索は、選択したフォルダに保存されます。
9. (オプション) [起動] ボタンをクリックして検索を実行します。
検索結果がコンテンツ画面の [結果] タブに表示されます。
10. [OK] をクリックします。

詳細情報:

[詳細検索の作成](#) (P. 132)

詳細検索の作成

複雑な検索条件を作成するには、[検索の作成] ダイアログ ボックスで [詳細] オプションを使用します。入れ子の AND 句および OR 句を複数組み合わせて、検索を構築できます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブを選択します。
2. [ロケータ] タブで以下のいずれかの手順を実行します。
 - 空のテンプレートから新しい検索を作成する場合は、 (新しい検索の作成) をクリックします。
 - 既存の検索から検索を作成するには、検索を選択し、 (選択された検索のコピー) をクリックします。

注: 一部の検索はコピーすることができないため、別の検索のベースとして使用することはできません。たとえば、[デバイス] > [IP アドレス] はコピーできません。ただし、新しい高度な検索を作成し、事前定義した任意の検索条件をその検索にコピーすることは可能です。詳細については、「[カスタム検索への既存検索の追加](#) (P. 134)」を参照してください。

[検索の作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [必要に応じて、ダイアログ ボックスのフィールドに入力します](#) (P. 126)。

4. [詳細を表示] ボタンをクリックして、AND 句や OR 句を組み合わせた複雑な検索条件を作成します。
複合式ツリー、論理演算子ボタンおよび [式] フィールドが表示されます。
5. [追加] ボタンをクリックして、手順 3 で作成した単一式を複合式ツリーに移動します。
複合式ツリーに単一式が表示されます。
6. 以下のいずれかの論理演算子ボタンをクリックして、複合式を作成します。
 - 新規 AND
 - 新規 OR
 - AND/OR選択した演算子が複合式ツリーに挿入されます。
7. 作成する複合式ごとに手順 3、5、6 を繰り返します。
8. (オプション) [既存の事前定義済み検索条件を追加します](#) (P. 134)。
9. [名前を付けて保存] ボタンをクリックします。
[検索の保存] ダイアログ ボックスが表示されます。
10. 検索の名前と説明を入力します。
11. (オプション) [権限] ドロップダウン リストから適切な権限を選択します。権限を使用すると、特定のカスタム権限を持つユーザに対して、検索へのアクセスが制限されます。カスタム権限は直接割り当てることも、役割またはユーザ グループから継承することもできます。
注: 詳細については、「OneClick カスタマイズ ガイド」を参照してください。
12. 検索を保存するフォルダを [保存先フォルダ] セクションから選択します。
注: [ロケータ] フォルダは最上位フォルダです。
13. [OK] をクリックします。
[検索の保存] ダイアログ ボックスが閉じ、[検索の作成] ダイアログ ボックスに戻ります。

14. (オプション) [起動] ボタンをクリックして検索を実行します。

検索結果がコンテンツ画面の [結果] タブに表示されます。指定した複合検索式に基づいて、該当する要素が結果リストから除外されています。

15. [OK] をクリックします。

[検索の作成] ダイアログ ボックスが閉じます。これで、高度な検索が作成されました。

カスタム検索への既存検索の追加

既存の属性に基づく検索、操作に基づく検索、または関係に基づく検索を、作成したカスタム検索に追加できます。これにより、[すべてのデバイス] や [デバイス - IP アドレス範囲] などの特殊な検索を含め、既存の検索の事前定義されている検索条件を使用することができます。

注: カスタム検索に既存の検索を追加すると、既存の検索がコピーされ、それがカスタム検索に埋め込まれます。後で既存の検索を変更しても、ユーザのカスタム検索は変更されません。これは、ユーザのカスタム検索に既存の検索をコピーして追加した時点での既存の検索のコピーだけがそのまま、保存されているためです。

既存の検索をユーザのカスタム検索に追加する方法

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブをクリックします。
2.  (新規検索の作成) をクリックします。
[検索の作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 必要に応じて、このダイアログ ボックスの上にあるフィールドに情報を入力します (P. 126)。
4. [詳細を表示] をクリックします。
複合式ツリー、論理演算子ボタンおよび [式] フィールドが表示されます。
5. [既存の追加] をクリックします。
[既存検索の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

6. 現在の検索にコピーして追加する条件が含まれている既存の検索を選択し、[OK] をクリックします。

[既存検索の追加] ダイアログ ボックスが閉じ、選択した条件が複合式に追加されます。

7. (オプション) 必要に応じて、プロンプト情報を変更するには、追加した条件の隣の[設定] をクリックします。

[検索] ダイアログ ボックスが表示されます。

8. ユーザからの値の入力を求めるプロンプトを表示するかどうかに応じて、以下のいずれかの手順を実行します。

- [ユーザに尋ねる] を選択して、どのように値の入力を求めるかを設定します。

プロンプトテキスト

検索実行時に表示される、値の入力を求めるテキストを指定します。

デフォルト値

このプロンプトでデフォルト値を指定します。

注: この検索が実行されるまで、デフォルト値は表示されません。

- ユーザ自身がここでプロンプトの値を入力するには、[今すぐ値を指定] を選択します。この検索を実行した場合、ユーザが情報を入力する必要はありません。

9. [OK] をクリックします。

10. 「高度な検索の作成」の説明に従って、検索を保存します。

これで、既存の検索への追加を含むカスタム検索が作成されました。

検索に関する推奨事項

高度な検索を定義する場合の検索条件に関する推奨事項を以下に示します。条件の順序は、検索のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

属性条件の順序は、*情報のストレージ*と*データ型*という2つのカテゴリに基づいています。

情報のストレージ

属性は、CPUの使用率が最小のもの（最も速いアクセス）からCPUの使用率が最大のもの（最も遅いアクセス）まで、次のような順序になります。

- メモリ フラグ（CPUの使用率が最小/最も速いアクセス）
- データベース フラグ
- 計算
- 外部フラグ（CPUの使用率が最大/最も遅いアクセス）

データの種類

属性は、最も迅速な比較から最も遅い比較まで、次のような順序になります。

- 整数、カウンタ、列挙、モデルタイプハンドル（最も迅速な比較）
- IP アドレス、オクテット文字列
- テキスト文字列（最も遅い比較）

2つの条件カテゴリを組み合わせた場合、AND/ORの複雑な検索に関する属性の全体的な順序は、上から下に、次のようになります。

1. メモリ フラグ
 - a. 整数、カウンタ、列挙、モデルタイプハンドル
 - b. IP アドレス、オクテット文字列
 - c. テキスト文字列
2. データベース フラグ
 - a. 整数、カウンタ、列挙、モデルタイプハンドル
 - b. IP アドレス、オクテット文字列
 - c. テキスト文字列

- 3. 計算
 - a. 整数、カウンタ、列挙、モデルタイプハンドル
 - b. IP アドレス、オクテット文字列
 - c. テキスト文字列
- 4. 外部フラグ
 - a. 整数、カウンタ、列挙、モデルタイプハンドル
 - b. IP アドレス、オクテット文字列
 - c. テキスト文字列

例

以下の検索条件（特定の指示はなし）に基づいて検索を定義する：

- ifDesc
- トポロジモデルの名前文字列
- ネットワーク アドレス
- モデルタイプハンドル

最高のパフォーマンスを得ることができる属性の順序

推奨する順序付けロジックを使用して、以下の順序をお勧めします。

1. モデルタイプハンドル（メモリ フラグ：モデルタイプハンドル）
2. ネットワーク アドレス（メモリ フラグ/データベース フラグ：IP アドレス）
3. トポロジモデル名文字列（計算フラグ：テキスト文字列）
4. ifDesc（外部フラグ：テキスト文字列）

検索の編集

保存したカスタム検索を編集できます。事前定義済み検索は変更できません。

次の手順に従ってください:

1. [ロケータ] タブで、使用可能な検索から検索を選択し、 (選択された検索を編集) をクリックします。
2. 「[\[検索の作成\] ダイアログ ボックス \(P. 126\)](#)」で説明した方法をコントロールを使って、検索を編集します。属性条件ノードを選択して、情報を表示します。これで、属性条件が変更できます。
3. [適用] をクリックして、選択したノードを変更します。また、[追加] ボタンをクリックして、新しい属性条件ノードを作成することもできます。
4. [OK] をクリックします。
変更した検索が保存されます。

カスタム検索の削除

あらかじめ設定されたフォルダおよび検索を削除できませんが、カスタム検索は削除できます。

次の手順に従ってください:

1. [ロケータ] タブの  (検索の編成、名前の変更、削除) をクリックします。
[検索の編成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. カスタム検索に移動して、選択します。
3. [削除] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。
カスタム検索が削除されます。

カスタム検索の編成

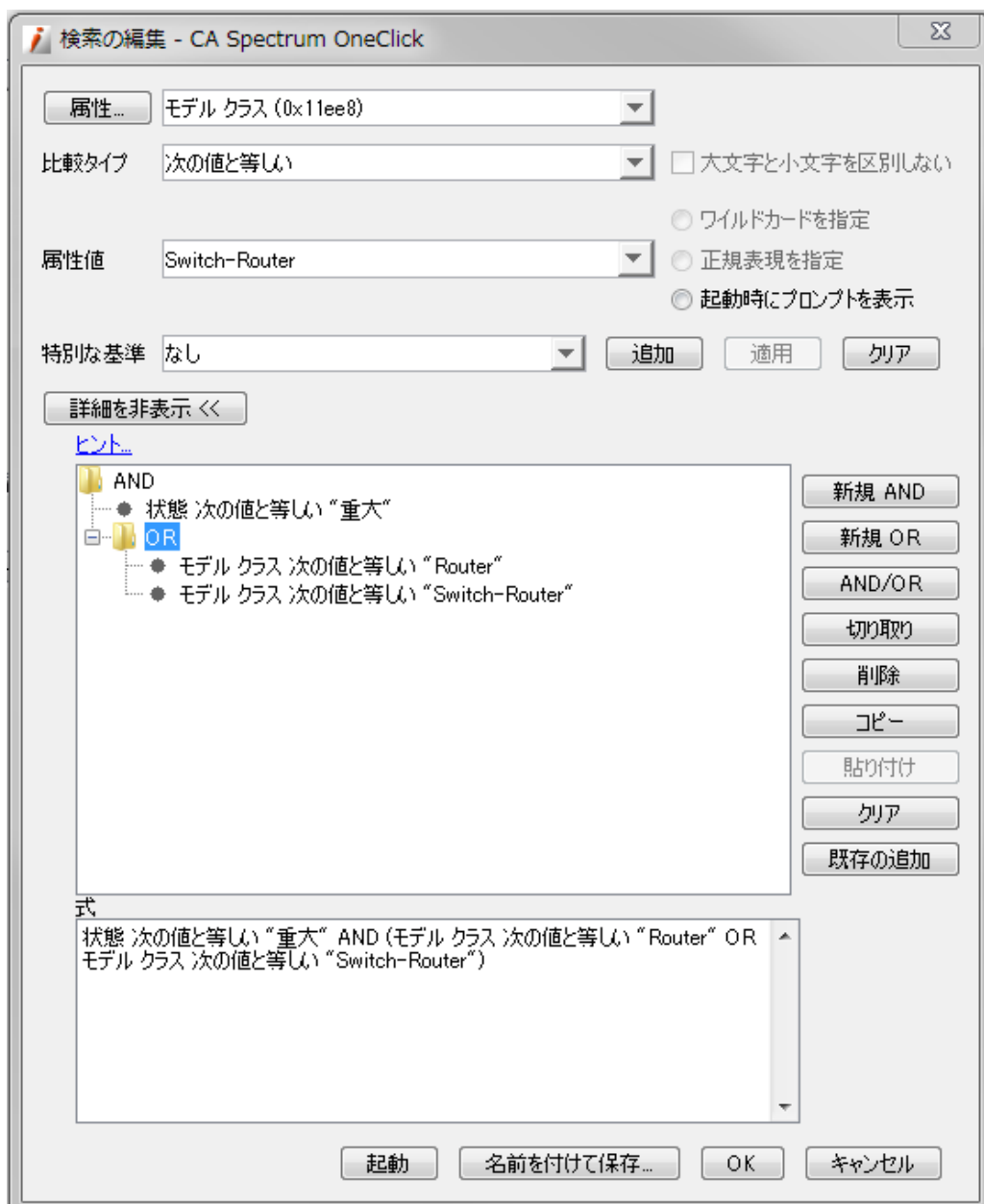
フォルダ階層でカスタム検索を整理できます。事前設定したフォルダおよび検索は編集できません。

次の手順に従ってください:

1. [ロケータ] タブの  (検索の編成、名前の変更、削除) をクリックします。
[検索の編成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. このダイアログ ボックスを使って、フォルダの階層を作成します。
3. 作成した検索を新しいフォルダに移動します。
4. カスタム フォルダおよび検索の名前を変更したり削除したりするには、[検索の編成] ダイアログ ボックスを使用します。
5. [OK] をクリックします。
ユーザのカスタム検索が整理されます。

検索例: クリティカル状態のデバイスの検索

「重大」のステータスを持つルータまたはスイッチルータをすべて検索する複合検索を作成します。次の画像は、適切な複合式を追加した後の「検索の作成」ダイアログボックスの例を示しています。



以下の手順では、役に立つ複合検索の例を示します。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブを選択します。
2. [ロケータ] タブで、 (新しい検索の作成) をクリックします。
[検索の作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 以下のようにフィールドに入力します。

属性

状態 (0x1000a)

比較タイプ

次の値と等しい

大文字と小文字を区別しない

N/A

属性値

重大

4. [詳細を表示] ボタンをクリックします。
複合式ボックスと論理演算子ボタンが表示されます。
5. [追加] ボタンをクリックして、手順 3 で作成した単一式を複合式ツリーに移動します。
単一の式が複合式ツリーに表示されます。この式はテキスト文字列形式で、[検索の作成] ダイアログ ボックスの下部にある [式] フィールドに表示されます。
6. [新規 OR] ボタンをクリックします。
OR 演算子が、複合式ツリーの「状態が(重大)と等しい」という式の下に挿入されます。
7. 以下のパラメータを使用して、[検索の作成] ダイアログ ボックスの上部にあるフィールドに再度入力します。

属性

モデル クラス (0x11ee8)

比較タイプ

次の値と等しい

大文字と小文字を区別しない

N/A

属性値

ルータ

8. [追加] ボタンをクリックして、この式を複合式ツリーに移動します。
この式（「モデルクラスが(ルータ)と等しい」）が、複合式ツリーの OR 演算子の下に挿入されます。
9. 以下のパラメータを使用して、[検索の作成] ダイアログ ボックスの上部にあるフィールドに再度入力します。

属性

モデルクラス (0x11ee8)

比較タイプ

次の値と等しい

大文字と小文字を区別しない

N/A

属性値

スイッチルータ

10. [追加] ボタンをクリックして、この式を複合式ツリーに移動します。
この式（「モデルクラスが(スイッチルータ)と等しい」）が、複合式ツリーの OR 演算子の下に挿入されます。
11. (オプション) [ロケータ] タブで [名前を付けて保存] をクリックして、この検索を保存します。その後、いつでもこの検索を実行できます。
12. 検索をただちに実行するには、[起動] ボタンをクリックします。
検索結果がコンテンツ画面の [結果] タブに表示されます。

付録 A: OneClick Web サーバの問題のトラブルシューティング

このセクションでは、OneClick Web サーバおよびクライアントの操作中に発生する可能性のある問題とエラーメッセージを特定し、可能な場合には適切な対処について説明します。その他の保守に関する問題や、オプションの設定に関する問題についても対処します。

非 LDAP ユーザがログインできない

Error binding: javax.naming.AuthenticationException: [LDAP: error code 49 - 80090308: LdapErr: DSID-0C0 903A9, comment: AcceptSecurityContext error, data 52e, v1db1]; remaining name

原因:

[LDAP ユーザが見つからない場合、ユーザのログインを許可する] オプションがオンでも、非 LDAP ユーザがログインできない [ユーザパターン] を使用して LDAP を設定している場合、このエラーが発生します。

処置:

[ユーザ検索] を使用するよう、LDAP を再設定してください。

Java メモリリソース設定によるエクスポート失敗

操作の完了に必要なメモリリソースが使用できませんでした。

理由:

非常に大きい (4000x4000 ピクセル以上) トポロジ ビュー イメージを OneClick からエクスポートしようとしてしました。

アクション:

トポロジ ビューで縮小表示して画像サイズを小さくするか、「[OneClick のメモリ設定](#) (P. 31)」の説明に従って、OneClick クライアントのメモリ設定を増やします。

フォールトトレラント環境での OneClick のトラブルシューティング

症状

フォールトトレラント環境で、セカンダリ SpectroSERVER へのフェールオーバー発生後に、OneClick クライアントに空白の画面が表示されます。OneClick クライアントには 3 つの空の(グレー)画面が表示されていますが、接続ステータスはフェールオーバー切り替えが発生したことを示しています。

解決方法

画面が空白になったのは、プライマリ サーバとセカンダリ サーバ間でユーザ権限が同期されていないため、フェールオーバー中に権限が失われたからです。プライマリ サーバのデータベースをセカンダリ SpectroSERVER にコピーする前に、プライマリ SpectroSERVER ですべてのユーザモデルが作成され、完全に設定されている必要があります。そうでない場合、オンラインバックアップが行われるまで、ユーザモデルに対して行われたあらゆるアクション（ライセンス役割、アクセスグループなどへのユーザの関連付け）はセカンダリサーバと同期されません。詳細については、「データベース管理ガイド (2601)」のオンラインバックアップに関する説明を参照してください。

OneClick Web サーバのシャットダウン

症状:

VMware 2.0 にアップグレードしましたが、独自の Apache Tomcat サーバを実行しています。OneClick Web サーバをインストールした後、ポート 8005 へのバインドを実行しようとする、OneClick Web サーバがシャットダウンします。その場合、以下のエラーメッセージを受信します。

```
- StandardServer.await: create[8005]:  
java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
```

解決方法:

デフォルトでは、Apache Tomcat は Windows プラットフォームではポート 80 を使用し、Linux と Solaris プラットフォームではポート 8080 を使用します。SSL を設定すると、Apache Tomcat はポート 443 を使用します。Apache Tomcat はデフォルトのサーバシャットダウンポート 8005 も使用します。OneClick Web サーバをインストールする場合、同じコンピュータ上の他のアプリケーションがこれらのポートを使用しないようにしてください。または、CA Spectrum が使用する Apache Tomcat のインスタンス上のポートを変更できます。

注: Apache Tomcat のインスタンスがすでに実行されているコンピュータに OneClick Web サーバをインストールしないことを推奨します。

getSpectrumInfo スクリプトの使用

getSpectrumInfo は、ユーザの CA Spectrum 環境に関する情報を収集するスクリプトです。収集されたデータはファイルに書き込み、CA サポートに送信できます。収集されるデータの一部を次のリストに示します。

- ホスト情報
- 設定ファイル
- インストール ログ
- SpectroSERVER ログ
- Tomcat ログ

getSpectrumInfo スクリプトを使用する方法

1. 環境データを収集するシステムにログインします。出力ファイルを作成するには、CA Spectrum インストールディレクトリへの書き込み権限が必要です。

2. 以下のように、スクリプトを入力する準備をします。

■ Windows の場合：

- 「[スタート]」、「[ファイル名を指定して実行]」をクリックし、「cmd」と入力して「[OK]」をクリックします。

DOS プロンプトが表示されます。

- 「**bash -login**」と入力し、bash シェルを起動します。
- CA Spectrum インストールディレクトリに移動します。

■ UNIX プラットフォームで、CA Spectrum インストールディレクトリに移動します。

3. 以下のコマンドを入力して、次のスクリプトを実行します。

```
./bin/support/getSpectrumInfo.sh [full|lite|mini]
```

このコマンドでは以下のパラメータを使用することができます。

full - Install-Tools/LOGS ディレクトリのすべてのデータを含め、すべての環境データを収集します。パラメータを付けずに

getSpectrumInfo.sh コマンドを実行した場合、デフォルトでこのオプションになります。作成される出力ファイルのサイズが大きくなる可能性があります。

lite - Install-Tools/LOGS ディレクトリ内で選択したファイルを含め、環境データのサブセットを収集します。

mini - 最小の環境データのみを収集します。

getSpectrumInfo スクリプトを実行すると、実行時に情報メッセージが表示されます。スクリプトの終了時、ZIP 形式で圧縮されたファイルが、以下の形式で CA Spectrum インストールディレクトリに作成されます。

```
logs-hostname-YYMMDD-nnnn.tar.gz
```

4. ファイルアップロード先については、CA サポートまでご連絡ください。

付録 B: システムのカスタマイズ

このセクションでは、サーバおよびクライアント環境をカスタマイズするために `context.xml` ファイルおよび `web.xml` ファイル内で編集できるパラメータについて説明します。

context.xml のカスタマイズ パラメータ

`context.xml` ファイルは `<${SPECROOT}>/webapps/spectrum/META-INF` ディレクトリにあり、多くの `OneClick` カスタマイズ パラメータを格納しています。このファイルを変更したら、`OneClick Web` サーバを再起動する必要があります。

maxProcessors

実行できる `OneClick` クライアントの最大数を制御します。

```
<parameter>
  <name>maxProcessors</name>
  <value>75</value>
</parameter>
```

locServerName

`SPECTRUM` ロケーション サーバのホスト名を提供します。

```
<parameter>
  <name>locServerName</name>
  <value>snowball</value>
</parameter>
```

orbAgentName

```
<parameter>
  <name>orbAgentName</name>
  <value>snowball</value>
</parameter>
```

orbAgentPort

```
<parameter>
  <name>orbAgentPort</name>
  <value>14000</value>
</parameter>
```

adminUserName

```
<parameter>
  <name>adminUserName</name>
  <value>admin</value>
</parameter>
```

smtpHostName および smtpPort

これらのパラメータを設定して、メール サーバのホスト名およびそのメール サーバが使用するポートをそれぞれ設定します。

```
<parameter>
  <name>smtpHostName</name>
  <value>mailhost</value>
</parameter>

<parameter>
  <name>smtpPort</name>
  <value>25</value>
</parameter>
```

useSecondarySS

値が **false** の場合はフェールオーバを禁止します。

```
<parameter>
  <name>useSecondarySS</name>
  <value>true</value>
</parameter>
```

web.xml のカスタマイズ パラメータ

web.xml ファイルには、追加のカスタマイズ パラメータが格納されています。このファイルは、以下のディレクトリにあります。

<\$SPECROOT>/tomcat/webapps/spectrum/WEB-INF directory

このファイルを変更したら、**OneClick Web** サーバを再起動する必要があります。

OneClick Web サーバがデフォルト以外の SG-Support へのパスを使用するよう設定するには、web.xml ファイルの以下のセクションにある `com.aprisma.spectrum.root.install` パラメータの値を編集します。

```
<context-param>
  <param-name>com.aprisma.spectrum.root.install</param-name>
  <param-value>/usr/SPECTRUM/WebApps/SG-Support</param-value>
  <description>
    This parameter defines the absolute path to the directory where
    SG-Support was installed for the Spectrum core product. This
    directory should be <$SPECROOT>/SG-Support.
  </description>
</context-param>
```


用語集

OneClick Web サーバ

OneClick Web サーバは、SpectroSERVER と OneClick クライアント間のデータの移動を処理するサーバです。

OneClick コンソール クライアント

OneClick コンソール クライアントは Java JNLP (Java Network Launching Protocol) アプリケーションで、ネットワーク オペレータがネットワークの詳細と健全性を確認できるようにするものです。

SpectroSERVER

SpectroSERVER は、ポーリング、トラップ管理、通知、データ収集、障害管理などのネットワーク管理サービスの提供を処理するサーバです。このサーバは、仮想ネットワーク マシン (VNM) とも呼ばれます。

スーパー ユーザ

スーパー ユーザは、OneClick で付与可能なすべての SPECTRUM 権限およびアクセス権を持つ SPECTRUM ユーザです。スーパー ユーザとして指定されたユーザには、すべての OneClick ライセンス役割および権限が自動的に付与されます。

セキュリティ コミュニティ

セキュリティ コミュニティは、モデルを保護するためのユーザ アクセスを決定します。CA Spectrum ユーザには、セキュリティ文字列を使って安全を確保したモデルへのアクセス権限が選択的に付与されます。

セキュリティ文字列

セキュリティ文字列は、セキュリティ コミュニティを定義する式です。セキュリティ文字列によって、モデルへのアクセス権や、認証されないユーザからのモデルの保護を定義します。セキュリティ文字列は、OneClick 内のモデリング エlement に対してモデル レベルで設定されます。

分散 SpectroSERVER (DSS) 環境

分散 SpectroSERVER (DSS) 環境は、複数の SpectroSERVER で構成されます。この環境では、大規模なインフラストラクチャを管理することができます。この環境にある SpectroSERVER は、単一の物理ロケーション内に配置することも、複数の物理ロケーション内に配置することもできます。

モデル

SPECTRUM のモデルは、モデリングされたネットワーク エlementを表します。

役割

役割は、再利用可能なユーザ権限セットで、アクセス グループに割り当てることができます。たとえば、デフォルトの役割 (**OperatorRW**) は、OneClick オペレータが一般的に必要な読み書き権限セットを付与します。

ユーザ

OneClick のユーザとは、OneClick ユーザアカウント、またはそのアカウントに関連付けられた実際の個人を指すことがあります。このアカウントは、OneClick 管理者が作成します。アカウントを作成すると、OneClick へのアクセス権を持つ 1 人の OneClick ユーザが作成され、パスワード、アクセス権、権限などの情報が SPECTRUM データベースに保管されます。

ユーザ グループ

OneClick の ユーザ グループは、共通の目的のために編成されたユーザの論理グループです。同じグループ内のユーザは、グループによって付与された権限を共有できます。グループ レベルで権限を指定すると、ユーザ レベルで有している権限に加え、各グループ メンバにこれらの権限が付与されます。

ライセンス

ライセンスは、そのライセンス保持者に付与できる権限を決定します。OneClick クライアントを起動すると、そのユーザに付与されたいずれかのライセンスが使用されます。

ランドスケープ

ランドスケープとは、単一のネットワークにおける 1 台の仮想ネットワーク マシン (VNM) に固有のすべてのデータです。この用語によって、単一の SpectroSERVER が管理するネットワーク ドメインも識別されます。OneClick では、ランドスケープは 1 つの SpectroSERVER のネットワーク ビューです。

レガシー ユーザ コミュニティ文字列

SPECTRUM のレガシー ユーザ コミュニティ文字列は、OneClick ではアクセス グループおよび権限に置き換えられました。レガシー コミュニティ文字列は、OneClick では、[ユーザ] タブで選択したユーザの[詳細] タブで引き続き表示および編集できます。レガシー コミュニティ文字列は、OneClick 以外の SPECTRUM アプリケーションで引き続き使用されています。